



令和6年度
林野庁補助事業

顔の見える木材 供給体制構築事業

実施報告書

令和6年度
林野庁補助事業

顔の見える木材 供給体制構築事業

実施報告書

一般財団法人 日本木材総合情報センター
一般社団法人 全日本木材市場連盟

目 次

I 事業概要	5
II 各団体の実施概要	9
[事業報告] 一般社団法人 白樺プロジェクト	10
[事業報告] 北鹿地域林業成長産業化協議会	18
[事業報告] 一般社団法人 国産材を活用し日本の森林を守る運動推進協議会	30
一般社団法人 林業機械化協会	
[事業報告] 新潟県木材組合連合会	34
[事業報告] とやま県産材需給情報センター	40
[事業報告] 公益社団法人 石川県木材産業振興協会	48
能登森林組合	
[事業報告] ぎふの木ネット協議会	58
[事業報告] 徳島県木材協同組合連合会	72
III 資料編	77
[成果報告] 一般社団法人 白樺プロジェクト	78
[成果報告] 北鹿地域林業成長産業化協議会	90
[成果報告] 一般社団法人 国産材を活用し日本の森林を守る運動推進協議会	109
一般社団法人 林業機械化協会	
[成果報告] 新潟県木材組合連合会	112
[成果報告] とやま県産材需給情報センター	122
[成果報告] 公益社団法人 石川県木材産業振興協会	140
能登森林組合	
[成果報告] ぎふの木ネット協議会	148
[成果報告] 徳島県木材協同組合連合会	162



事業概要

1 趣 旨

森林・林業基本計画で実現を目指すグリーン成長に向け、建築用木材の安定供給・利用の強化等のため、森林経営の持続性を担保された木材の安定需要を獲得しつつ、木材の需要拡大、付加価値の増大を通じて、利益を山に返し、次世代の資源を確保することができる木材利用を進める必要があります。このため、木質建築資材の需要拡大に結びつく取組、大径化した原木等を活かした木材製品の利用拡大の取組、顔の見える木材安定供給体制の構築に資する取組、中大規模建築物等非住宅建築物への地域材の供給体制の構築、強度又は耐火性に優れた建築用木材の技術開発・普及等の取組及び木材産業における作業安全強化の取組が重要となっている。

このようなことから、(一財)日本木材総合情報センター、(一社)全日本木材市場連盟は、林野庁補助事業により、森林経営の持続性が確保された木材の安定需要獲得に向けた取組を含む、川上から川下までが連携した顔の見える木材安定供給体制の構築に資する、地域等における課題解決の取組、及び、構造材、内装材等幅広い分野での木材の利用拡大・普及活動を実施する地域の取組への支援を行った。

2 事業概要

地域の林業・木材産業の発展に資する観点から、地域に根差した木材を原材料とする付加価値の高い構造材、内装材、家具、建具等の普及啓発・波及性の高いモデル的な取組、または木材安定供給体制の構築、地域等における課題解決の取組の実施に対して必要な経費の助成を行うことで地域材を原料とする付加価値の高い木製品等の利用拡大を図った。

3 実施期間

令和6年4月26日～令和7年3月31日

(助成事業実施団体の事業期間)

令和6年7月9日～令和7年3月7日

4 実施体制

事務局 一般財団法人 日本木材総合情報センター

一般社団法人 全日本木材市場連盟

助成事業実施団体 8団体

5 検討委員会委員

委員については林業・木材産業に対する専門的な知識を有する者の他、木材流通や需要動向の学識経験者に加えて、林業に実際に関わっている者を委嘱した。

氏名	所属
遠藤 日雄	特定非営利活動法人 活木活木森ネットワーク 理事長
立花 敏	京都大学 大学院農学研究科 教授
坪野 克彦	株式会社 フォレスト・ミッション 代表取締役社長
檜崎 達也	FOREST MEDIA WORKS 株式会社 CEO
堀 靖人 (委員長)	東北農林専門職大学 教授
山崎 靖代	林業家

(五十音順)敬省略

6 検討委員会の開催

- 第1回 令和6年6月24日(月) 助成採択団体の選定
- 第2回 令和6年11月13日(水) 進捗状況確認(中間報告会)
- 第3回 令和7年3月3日(月) 成果報告会に向けたアドバイス(実施結果報告会)

7 成果報告会の開催

令和7年3月12日(水)13:30~16:30に成果報告会を行った。全国的に視聴者を募るためウェビナー形式での開催とし、8助成事業実施団体が発表を行った。なお、各団体の発表資料を本報告書に資料編として掲載した。



各団体の実施概要

一般社団法人 白樺プロジェクト

北鹿地域林業成長産業化協議会

一般社団法人 国産材を活用し日本の森林を守る運動推進協議会
一般社団法人 林業機械化協会

新潟県木材組合連合会

とやま県産材需給情報センター

公益社団法人 石川県木材産業振興協会
能登森林組合

ぎふの木ネット協議会

徳島県木材協同組合連合会

テーマ：天然更新による再造林までの一貫したシラカバ循環利用の普及を目指したモデルづくり

実施概要

実施団体の説明

一般社団法人白樺プロジェクトは、2018年秋に北海道立林産試験場の研究員の呼びかけでシラカバに関心のある産官学の有志が集まって発足しました。

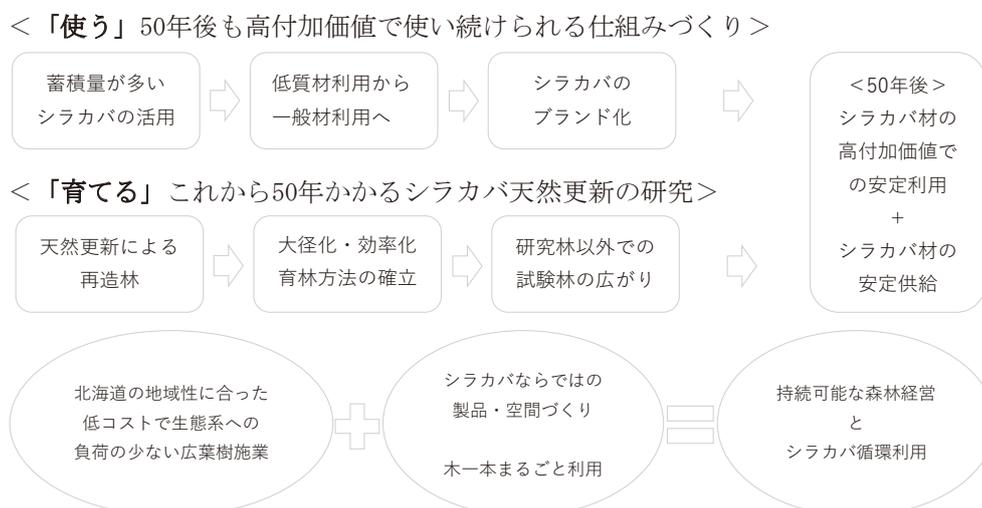
「シラカバを北海道の持続可能な地域資源として再評価し、産業として文化として地域に根付かせる」ことを目的に、シラカバを人の手で「育てる」と高付加価値で「使い」続けるの、両輪の活動を行っています。

- ・白樺プロジェクトメンバー(10名)
 (産)家具・建築・建築資材流通業者、デザイナー(プロダクト、グラフィック)
 (官)北海道立林産試験場研究員
 (学)北海道大学研究林教授、静岡大学経済学部教授
- ・協力者
 森林所有者、林業者、クラフト作家、陶芸家、ハーブ農家、
 大学森林サークル学生、木育マイスター、ハーブ奏者など
- ・一般社団法人設立日 2020年3月1日
- ・事務局所在地 旭川市



事業の目的

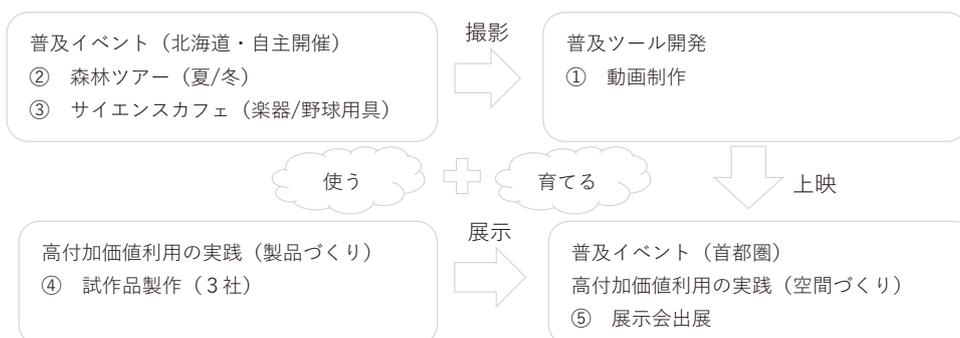
比較的資源に恵まれているとされている北海道でも、優良な広葉樹資源が減少傾向にあります。その中でも比較的人の手で育てやすいシラカバが、持続可能な地域資源になりうるのではないかと考え、高付加価値化と産官学連携により、シラカバの循環利用の普及を目指しました。



事業内容・結果

事業の目的を達成するために、本事業では「①森林ツアー(夏/冬)」や「②サイエンスカフェ」などの普及のための自主イベントを行い、同時に動画撮影を行い、普及ツール開発として「③動画制作」を行いました。

高付加価値利用の実践(製品づくり)ということで3社による「④試作品製作」を行い、それまでの総まとめとして③と④の成果物である試作品、動画を利用して首都圏での「⑤展示会出展」を行いました。展示会出展は高付加価値利用の実践(空間づくり)でもありました。



① 森林ツアー

A. 「森林ツアーと樹皮採集ワークショップ」

7月5日(土)～6日(日) 北海道大学雨龍研究林(北海道幌加内町)

対象：一般、学生、森林関係者 50名参加

シラカバ天然更新による森づくりとシラカバ利用についての理解促進のために、シラカバ試験林だけではなく、原生林や他の広葉樹天然更新試験林を含めた森林ツアーと、この時期にしか行えないシラカバ樹皮採集を行いました。

広葉樹は人の手で育てることは難しいとされていますが、森林本来の力を利用した天然更新の森づくりの視点に欠かせない「森林の遷移(せんい)」についても学べるツアーを目指しました。

また、来冬に7haのシラカバ林の伐採を予定しており、伐採(冬山造材)、再生林の見学と続いていく森林ツアーの起点と位置づけました。伐採する理由や今後の再生林についても説明を行いました。学生団体のプロジェクト用にシラカバを伐倒し、同時にクラフト用の外樹皮や染料としての内樹皮の採集も行いました。



重機による掻き起こし作業



7年生シラカバ天然更新試験林



樹皮採集ワークショップ

B. 「冬山造材見学と森林ツアーと樹皮採集ワークショップ」

1月17日(金)～18日(土) 北海道大学雨龍研究林(北海道幌加内町)

対象：一般、学生、森林関係者 31名参加

北海道でも最も寒い時期に、豪雪地帯でもある幌加内町北部に位置する研究林のシラカバ林で冬山造材見学ツアーを行いました。同時に、かんじきを履いて原生林散策、密度管理を学び、除伐体験を行いました。伐採が進む7haのシラカバ林は、来春以降シラカバ天然更新の試験地となり再造林される予定で、伐採、再造林、森林育成の一連のプロセスの始まりであり、今後半世紀にわたって行われる息の長い研究の一端を見学してもらいました。



用途を決め、玉切り



かんじきを履いて原生林散策



密度管理について学ぶ

② サイエンスカフェ

A. 「みつゆき 白樺アイリッシュハープ演奏会」

10月4日(金) 北海道東川町地域交流センター「ゆめりん」交流プラザ

対象：一般 約50名参加

10月5日(土) 大丸札幌店6Fグリーンパティオ

対象：一般 約60名参加

大阪を拠点に活動するハープ奏者のみつゆきさんに、プロジェクトと共同開発し製造販売している白樺アイリッシュハープの演奏会を行っていただきました。プロジェクトメンバーで林産試験場の研究員の「シラカバが音響特性から楽器に向いているはず」という思いと、みつゆきさんの「国産材で日本人の感性に合ったハープが作れないか」という思いが合わさり生まれました。そういったハープ完成までの経緯などもお話ししました。

ハープは癒しの楽器とも言われ、演奏後は来場者にハープを背中につけて音を鳴らし、体で木から伝わる音の振動を体感してもらいました。



白樺ハープ誕生の話し



音で木を感じる



ハープ奏者みつゆきさん

B. 「野球道具のモノづくりと、道産カンバ材の可能性を考える」

2月26日(水) 北海道大学総合博物館休憩室(札幌)

対象：一般 約30名参加

近年、野球バットの原材料として北海道産ダケカンバが注目されています。シラカバの近縁種で、天然更新による再生林を行うと、より寒冷な場所ではダケカンバが優勢になります。白樺プロジェクトメンバー2名がダケカンバ・バット普及のプロジェクトに参加していて、広く北海道のカンバ類の可能性について野球道具を通して、関心のある参加者と一緒に考えるイベントを開催しました。

ダケカンバ・バットの販売促進を行う株式会社ONE4ALLの松坂CEOにも参加してもらい、同じ生物由来の野球道具であるグラブの話も交えながら話題提供をしました。併設されたカフェのドリンクを飲みながら気軽な雰囲気、参加者から数多くの質問があり、双方向のサイエンスカフェらしいイベントとなりました。



サイエンスカフェの様子



北大博物館休憩室で



ダケカンバ・バット

C. 「AALTO トーク&映画上映会」

9月1日(水) 北海道東川町複合交流施設せんとぴゅあ I 講堂

対象：一般 約160名参加

フィンランドの建築家アルヴァ・アアルトの映画上映会に合わせて、アアルトラが創業した家具メーカー artek 社の東アジア担当者とトークイベントを行いました。

フィンランドは、北海道と同じ北方林に属し森林率が高いのも共通していますが、林業が国の一番の産業で、独立を果たした100年以上前から木材生産しながら森林を維持する仕組みを持っています。artekでは自国フィンランド産のシラカバ材のみを90年以上使い続けています。北海道で始まっているシラカバの循環利用を紹介し、フィンランドとの共通点や相違点を考える上でとても有意義なイベントになり、参加者からも artek の話だけを聞くより内容が深まり身近に感じられたとの感想が寄せられました。



イベントの様子



イベントチラシ(1)



イベントチラシ(2)

D. 「森のバトン地域材ミーティング」

10月21日(月) 第一部「森から考えるものづくり」cup of tea ensemble (高山市)

対象：林業、木材、家具関係者 約50名参加

10月22日(火) 第二部「これまでとこれから」世界生活文化センター(高山市)

対象：林業、木材、家具関係者、一般 約40名参加

飛騨高山家具フェスティバルの関連イベントで、飛騨、新潟、静岡、北海道で地域材活用の取組を行う4団体が登壇してトークショーを行いました。各地域特有の事情があり情報交換して交流しました。飛騨地区の森林や木材関連会社や歴史的建造物を巡るツアーも開催され、単に地域材を活用するだけでなく、その地域の歴史や風土に合った取組の必要性を認識しました。



トークイベント



皆伐跡地の見学



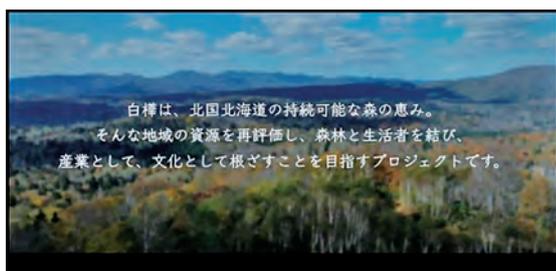
イベント参加者

③ 動画制作

白樺プロジェクトの取組を紹介し、シラカバ天然更新による再生林やシラカバの循環利用を普及するためのツールとして動画を製作しました。動画は「伝わる」ことを重視し、循環利用の仕組みの説明に終始するのではなく、インタビュー動画を中心に関連する動画や写真やグラフを挿入し、関係者の顔が見えて熱意や思いが伝わるようにしました。

今後は、動画投稿サイトにアップして閲覧できるようにし、ホームページやSNSでの発信だけではなく、森林ツアーやサイエンスカフェ参加者にも事前に視聴してもらって、理解の促進につなげられるようにします。

動画撮影は、今回の事業で行った森林ツアーやサイエンスカフェなどの場を利用し、その他にも季節ごとの撮影のために日程を組んで撮影しました。[6分49秒]



④ 試作品製作(3社)

シラカバ材の高付加価値利用の一環としてプロジェクトメンバーの3社でそれぞれの個性に合わせた製品づくりを行いました。

他に展示会用に立ち木を活かした什器製作も行いました。

A. 樹凜工房 リビングセット「偽芯を活かしたデザイン」

家具だけではなくドアなどの建具も製作する個人工房です。シラカバ特有の「偽芯」という芯に近い変色した部分があり、どちらかという使うのに避けてしまう部分です。丸太によってもその大きさはバラつきがあり、偽芯を有効に使うことがシラカバ材の歩留まりを向上することになります。今回はホームユースのリビングセットを試作し、偽芯を印象的に使いました。



B. シロロデザインスタジオ ホテル備品「異素材(人工大理石)との組み合わせ」

デザイン事務所ではあるが、製作工場も併設していて小物の製作をしています。

宿泊施設をターゲットに、シラカバ材と人工大理石を組み合わせた上品で飾らないホテル備品小物を製作しました。シラカバはどちらかという木目が目立たず、個性が少ない木材ですが、白い人工大理石を組み合わせることで木質感が増し、水回りの近くに置いても木部に水分が入り込まず実用的でもあります。



C. 木と暮らしの工房 譜面台、ウマ・テーブル「フォールディング(折り畳み)」

特注家具、オリジナル家具、家具再生、楽器部材製作など多岐にわたって製作する家具メーカーです。今回は家具と小物の中間的なアイテムで、フォールディング(折りたたみ)できる試作品を製作しました。細工や機能性を前面に出し、シラカバ材で良質で気軽な道具を提案する目的で作りました。



⑤ 展示会出展

「ギフトショー2025春/LIVING & DESIGN」

2月12日(水)～14日(金) 東京ビッグサイト

対象：バイヤー等 総来場者数224,401人(南ホール(L&D)45,431人)

雑貨を中心とした国内有数の見本市ギフトショーに併催された展示会で、家具・住宅設備・建材などのトータルインテリア産業の見本市になります。初出展ではありましたが、展示会の招待状チラシや説明会でも白樺プロジェクトの出展が告知され、追い風を感じました。

本事業で制作した動画や試作品を用いてシラカバ循環利用の普及を行うだけでなく、高付加価値利用の実践としてシラカバ材による**空間づくり**をブース全体で見せることも目指しました。シラカバ材のフローリングや高さいっぱいの腰壁、シラカバ立木を利用した什器などを製作し、北海道の空気感が伝わってくるような北国らしい空間を構成しました。結果的に700社以上の展示ブースから2社だけ選ばれる「**ベストブースデザイン賞**」という評価をいただきました。

ターゲットとしては、建築・デザイン事務所関係者、オフィス・宿泊施設関係者、室内グリーン設計施工業者、家具バイヤーなどを想定し、アピールしました。3日間で常時3~4人程度のプロジェクト関係者が常駐し、150名以上の方と名刺交換させていただきました。



事業実施により得られた効果

「育てる」を伝えるための礎づくり

- ・北海道大学雨龍研究林ではシラカバ天更新の試験林が、研究棟から近い国道沿いの一般の人でも観察しやすい場所で始まります。
- ・タイミングとしては、その場所で夏の森林ツアー（伐採前）、冬のツアー（冬山造材）を行うことができ、動画に記録も残せ、これから50年にわたって行われる試験林での研究を伝え続けていく礎ができました。

「使う」を伝える試み

- ・シラカバ天然更新の長年続く研究に関心を寄せてもらうことと、50年先も高付加価値で使われる仕組みづくりを伝えていくために、北海道内では森林ツアーやサイエンスカフェ、首都圏で大きな展示会に出展しました。
- ・6年前まではほとんど高付加価値で使われてこなかったシラカバ材ですが、試作品を通して新たな魅力ある製品づくりを広げ、製品だけではなくシラカバらしい空間づくりをアピールしたいと考えていたのですが、出展した展示会では「ベストブースデザイン賞」に選ばれました。

若い世代への訴求

- ・プロジェクトの活動を50年後も引き継ぐために若い世代に訴求する必要性がありましたが、森林ツアーでは大学森林サークル学生にも計画段階から参加していただき、動画撮影でも3名の森林に関心のある若い世代に動画撮影、編集を主体的にやってもらうことができました。

今後の課題と次年度以降の計画

「育てる」を伝え続ける、研究林以外にも試験林を広める

- ・北海道大学雨龍研究林の試験林では今夏より、伐採跡地でシラカバ天然更新による再生林、更新補助作業が始まります。
- ・その場所で森林ツアーを今後も重ねていき、記録動画の撮影を続け、より多くの人に長い時間のかかる森づくりについての体験や学びを提供していきます。
- ・研究林以外でもシラカバ天然更新の試験林が広がるために、育てると使うの活動をより魅力的に行い、発信を続けていきます。

「使う」と「育てる」がつながる仕組みづくりを

- ・シラカバ天然更新の試験林が広がるためには、シラカバ材がこれまで以上に消費者に支持され続ける必要があります。魅力的な製品づくり、空間づくりだけではなく、背景が伝わって製品と紐づく仕組みづくりを考えていきます。

活動の継続性の強化と世代交代

- ・プロジェクトは法人化しているものの参加有志の会費によってのみ運営されており、専門性を持った会員が各自の仕事をしながら行う活動のため、脆弱な基盤の上に成り立っています。
- ・一過性ではなく50年続く活動をしたいと考えていて、公益と実利のバランスのとれた継続性と魅力のある組織づくりを続け、世代交代を進めていきます。

テーマ：森林認証林由来の地域産材 DLT 商品開発及び DLT 地域生産拠点の創出

取組の背景と目的

組織について

北鹿地域林業成長産業化協議会(旧：大館北秋田地域林業成長産業化協議会)は秋田県大館市、鹿角市及び小坂町の2市1町を範囲(図-1)として、地域の林業・木材産業の成長産業化の実現に向けた活動を行っており、行政機関(国有林・秋田県・市町)に加え、川上(森林組合・素材生産・苗木生産等)・川中(木材加工・木材流通・家具・伝統的工芸品等)・川下(住宅事業・建築設計等)に至る各分野の事業者が参画する総勢97会員で構成する組織である。

平成29年度～令和3年度には林野庁補助事業「林業成長産業化地域創出モデル事業」に取り組み、産学官連携による森林資源の循環利用やサプライチェーン構築に関する事業を実施。川上から川下までの参画者との連携により素材生産量、再造林面積、苗木生産量等を増加させることができたほか、“忠犬ハチ公”を通じて防災協定を締結している「渋谷区」と連携し、大館市産秋田スギを同区の公共施設「渋谷区子育てネウボラ」へ供給し、都市部の木質化に向けた“地産外商”に取り組んだ。



図-1 位置図

取組の背景

当協議会は令和4年度及び令和5年度の「顔の見える木材供給体制構築事業(旧顔の見える木材での快適空間づくり事業)」の採択を受け、木材を木ダボで接合するDLT(Dowel Laminated Timber/木ダボ接合積層材)による打合せブース(図-2)及びWEB会議用個室ブース(図-3)の試作、木ダボを含むALL地域産材でのパーティション(図-4)、案内板(図-5)及びテーブル(図-6)の商品開発を行ったほか、展示会出展や説明会開催、支援学校における学習プログラムの一つとしてDLT製造トライアルの実施などの普及活動(図-7、図-8、図-9)を進めた。

取組の目的

協議会において森林資源の「循環の輪」の創造を目指し、地域の充実した森林資源の最大活用と資源循環の確立をもって林業成長産業化を実現させることを目的に、令和5年2月に令和4年度から令和13年度までの10年間を期間とする「グリーン成長構想(図-10)」を策定。構想では5つの取組の柱を設定しており、本事業においては、5つの柱のうち、住宅・非住宅分野や家具など生活関連分野での木材利用促進を目指す「森林資源の地産地消によるまちづくりへの貢献」及び都市部自治体・企業との連携化や森林認証材供給を目指す「地産外商による木材産業の競争力向上」を推進し、産学官連携による木材の地産地消および



図-2 DLTブース



図-3 DLTモックキューブ



図-4 DLTパーティション



図-5 DLTサインボード



図-6 DLTテーブル



図-7 表彰制度の受賞



図-8 DLT説明会



図-9 林福連携DLT製造トライアル

地産外商の取組を通じて、秋田スギをはじめとする地域材の需要拡大を目指すとともに、製品の優位性を向上させて、収益性を有する「地域競争力」を高めることで、山元への確実な利益還元につなげることを目的に本事業を実施するものである。

構想に掲げる5つの柱と取り組みポイント

- 1 森林資源の適正な管理・利用に向けた取り組み**
 - ・ 再造林率を向上させるための仕組みづくり
 - ・ 国産材需要の高まりに応えるための森林集約化や木材生産性向上による安定供給化
 - ・ 安定的な木材生産を支えるための路網整備の推進 など
- 2 「新しい林業・木材産業」に向けた取り組み**
 - ・ 森林情報の高度利用に向けたレーザ計測等の推進とデータ利活用
 - ・ スマート林業普及に向けた人材育成とIT産業等との連携
 - ・ ICTを活用した木材の生産流通管理の導入 など
- 3 森林資源の地産地消によるまちづくりへの貢献**
 - ・ 住宅や非住宅分野での木材利用促進
 - ・ 新しい木質部材の活用を提案できる木造設計者育成
 - ・ 家具など生活関連分野等での木材利用促進 など
- 4 地産外商による木材産業の競争力向上**
 - ・ 都市部自治体・企業との連携体制の構築
 - ・ 秋田スギや広葉樹製品の積極的なPR活動
 - ・ 「森林認証材製品供給」等による木材需要開拓 など
- 5 森林・林業・木材産業の新たな価値づくり**
 - ・ 「AKITASUGIツーリズム」等による観光客需要の拡大
 - ・ ワークेशन等における森林空間活用
 - ・ 広葉樹、特用林産物など地域資源の活用 など



北鹿地域林業成長産業化協議会
令和6年3月(一次変更)
北鹿地域林業成長産業化協議会

グリーン成長構想

構想表紙

図-10 グリーン成長構想の概要

対象とした木材・木製品、川上から川下までの流通の考え方など

木材製品についての概要や特徴

木材製品：DLT(Dowel Laminated Timber／木ダボ接合積層材／

図-11)

原材料：ラミナ／地域産秋田スギ及び広葉樹(クリ・ナラ等)、木ダボ／
地域産広葉樹

特徴等：①木ダボのみで接合、②穴あけ・ダボ打ちのシンプルな加工工程(図-12)、③接着剤不使用



図-11 DLT

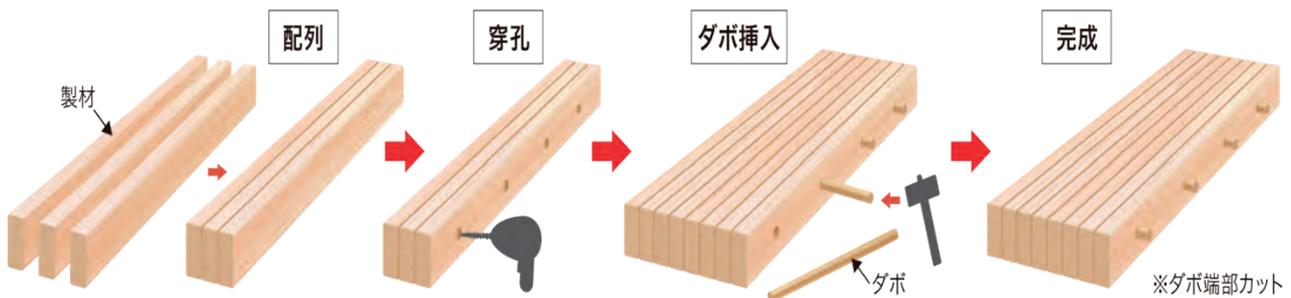
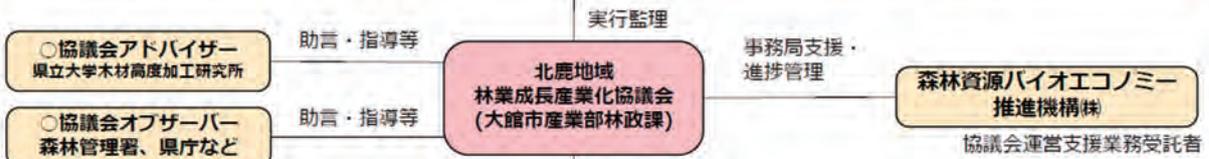
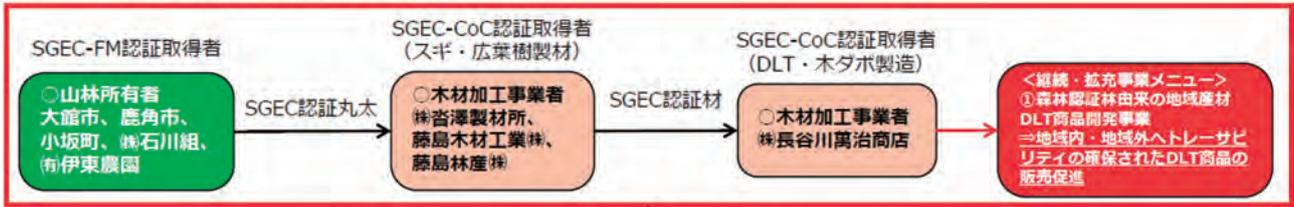


図-12 加工工程イメージ図

本事業で取り上げる木材供給体制・流通の考え方

本事業における木材供給・流通体制については次の図(図-13)のとおり。

事業内容①で想定しているサプライチェーンの範囲



事業内容②及び③で想定しているサプライチェーンの範囲

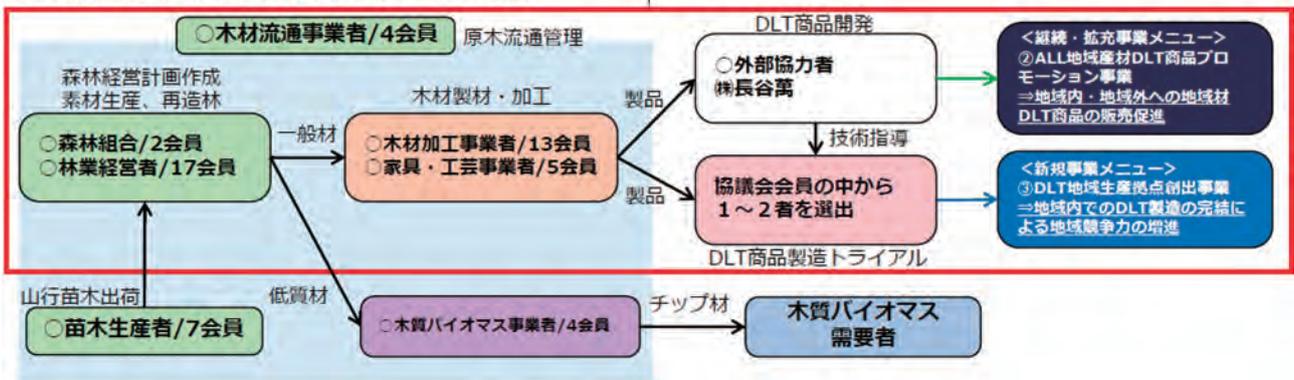


図-13 木材供給・流通体制図

事業内容及び結果

実施期間を通しての工程、スケジュール(図-14)

実施内容	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
①森林認証林由来の地域産材DLT商品開発事業【継続・拡充】		認証材手配・DLT商品開発						公共施設等設置			
							イベント等展示				
②ALL地域産材DLT商品プロモーション事業【継続・拡充】					需要者向けプロモーション活動・パンフ製作・完成						
					イベント等出展						
③DLT地域生産拠点創出事業【新規】		簡易ジグ試作		製造トライアル・試作				木ダボせん断試験			
事業必須活動(事業説明会出席等)						中間報告会出席		成果とりまとめ・報告		HP等で成果公表	

図-14 実施スケジュール(令和6年度結果)

実施内容や実施体制及び成果の普及方法等の結果

<実施結果>

本事業においては、次の①～③を実施した。前年度からの継続または拡充事業を【継続・拡充】、新規事業を【新規】と位置付けた。

① 森林認証林由来地域産材 DLT 商品開発事業【継続・拡充】

事業概要：ラミナ及び木ダボを森林認証林由来の地域産材（針葉樹ラミナ、広葉樹木ダボ）へ転換することによるトレーサビリティの確保された地域産材での DLT 試作、商品開発

事業目的：前年度に試作、商品開発した DLT パーティション・サインボード・テーブルに使用したラミナ及び木ダボは全て地域材であったが、DLT 製造までの森林認証材によるサプライチェーン構築の目途が立ったことから、本事業においては森林認証林由来の地域産材（針葉樹ラミナ、広葉樹木ダボ）を材料として、国内初となる森林認証材での DLT 試作、商品開発を行う。

実施結果：開発した DLT 商品については以下のとおり。（図-15～図-18）



図-15 森林認証 DLT ラウンジソファ



図-16 森林認証 DLT やまなみベンチ



図-17 森林認証 DLT とわだベンチ



図-18 大館市比内町産十和田石を活用



図-19 森林認証DLT家具試作におけるサプライチェーン

② DLT商品プロモーション事業【継続・拡充】

事業概要：ALL地域産材使用DLT商品（森林認証林由来の地域産材DLT商品含む）の展示会出展及び需要者向けプロモーション活動

事業目的：展示会出展によりALL地域産材使用DLT商品の販売促進を図る。展示方法については地元企業が開発したDLT商品の展示及びDLT商品パンフレットの作成・配布を行うことで需要者への訴求力向上を図るものとする。また、大館市（事務局）と協定等を締結し、大館市産秋田スギ等の利用を進めている渋谷区や同区内関係企業のほか、大館市が入会している関係団体（一般社団法人日本ウッドデザイン協会など）の会員や都市部企業等へDLT商品プロモーション活動等を実施する。

実施結果：主なプロモーション活動は以下のとおり。

ア 展示会出展

■ MOCTION AKITA 2024 (図-20)

会 期：令和6年10月24日（木）～11月5日（火）

会 場：新宿パークタワーリビングデザインセンターOZONE 5F

主 催：秋田県



図-20

■Japan Home Show & Building Show 2024(図-21)

会 期：令和6年11月20日(水)～22日(金)

会 場：東京ビッグサイト(東京都江東区)

主 催：一般社団法人日本能率協会



図-21

■SDGs Week EXPO 2024

「エコプロ2024／森と木で拓くSDGsゾーン」(図-22)

会 期：令和6年12月4日(水)～6日(金)

会 場：東京ビッグサイト(東京都江東区)

主 催：日本経済新聞社、(一社)サステナブル経営推進機構、日経BP



図-22

■Woodコレクション(モクコレ)2024 Plus(図-23)

会 期：令和6年12月19日(木)～20日(金)

会 場：東京ビッグサイト(東京都江東区)

主 催：東京都、WOODコレクション実行委員会



図-23

■森と水展示会2025(図-24)

会 期：令和7年1月24日(金)

会 場：港区立エコプラザ(東京都港区)

主 催：港区



図-24

イ プロモーション活動

渋谷区や同区内関係企業のほか、大館市が入会している関係団体(一般社団法人日本ウッドデザイン協会など)の会員や都市部企業等へDLT商品プロモーション活動等を実施した(図-25)。

活動期間等：3回

(令和7年1月23日、1月29～2月1日、2月12～14日)

訪問場所等：東京都内



図-25 DLT・森林認証プレゼン

③ DLT 地域生産拠点創出事業【新規】

事業概要：DLT 地域生産拠点の創出に向けた DLT 製造トライアル、木ダボ試作及び DLT 商品試作の実施

事業目的：本地域内での DLT 普及促進及び DLT 製造におけるサプライチェーンの完結を目的に、協議会会員による DLT 製造トライアル、木ダボ試作及び DLT 試作を実施する。また、地域産広葉樹木ダボ(ナラ、クリ、ヤマザクラ、オニグルミなど)の試作及び強度試験により DLT 木ダボとして有用な樹種の洗い出しを行う。

実施結果：以下のとおり実施した。

ア DLT・木ダボ製造実演会 in 藤島木材工業(株)・藤島林産(株) (図-26～図-28)

日 時：令和6年8月23日(金)午後3時～5時

会 場：藤島木材工業(株)・藤島林産(株) 工場敷地内

人 数：森林経営者2名、木材加工事業者8名、学校2名、国・自治体5名 計17名



図-26 DLT説明(榎長谷萬)



図-27 木ダボ製造実演



図-28 DLT製造実演・体験

イ 木ダボ試作 実施：藤島木材工業(株) (図-29～図-31)



図-29 広葉樹ラミナセット



図-30 木ダボ加工



図-31 木ダボ加工(受取)

ウ DLT及びDLT家具試作 実施：藤島林産(株) (図-32～図-34)



図-32 穴あけ加工



図-33 木ダボ打ち



図-34 DLT完成(ダボ切除前)

エ 一面せん断試験によるDLT木ダボ有用樹種の洗い出し(地域産広葉樹)

秋田県立大学木材高度加工研究所に試験を依頼し、木ダボ接合部材の一面せん断試験を実施(図-35~37)。木ダボとして、本地域で主に産出される広葉樹(ナラ、クリ、ヤマザクラ、ケヤキ、ホウノキ)6種類を試験し、各樹種の初期剛性や最大耐力などを計測した。

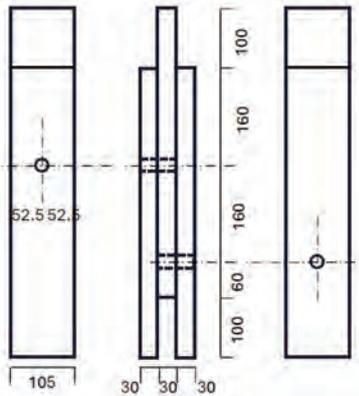


図-35 一面せん断試験体図面



図-36 一面せん断試験体

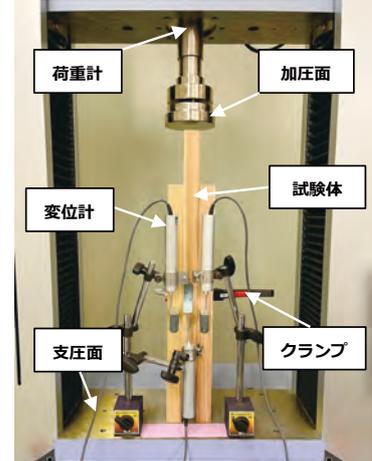


図-37 一面せん断試験の様子

試験の結果、秋田県産広葉樹ダボは従来使用されている欧州ブナの木ダボと遜色なく使用できる可能性が高いことが分かった。また、ケヤキ、ヤマザクラ、オニグルミにおいては、初期剛性や最大耐力が似ており、実用上は米国のSPF材のような樹種群として、同一仕様の木ダボとして使用できる見込みがあり、原木供給量が少量、不安定な樹種や未活用樹種の木ダボ原料化への用途が開拓できる可能性があるという意見を得た(図-38~39)。

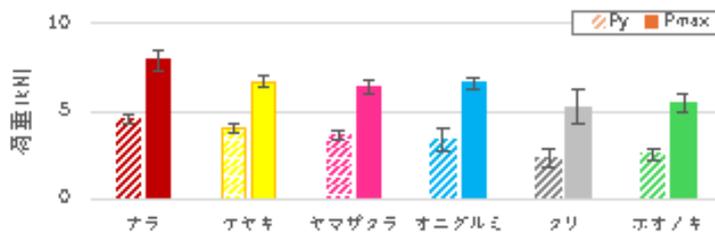


図-38 各広葉樹ダボ試験体の降伏耐力Pyおよび最大耐力Pmax(ダボ1本あたり)

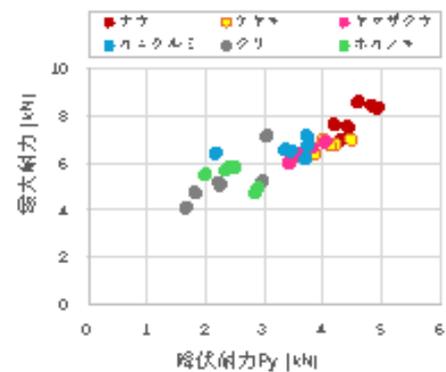


図-39 降伏耐力Pyと最大耐力Pmaxの関係

本事業の実施体制(表-1)

区分	法人等の名称	対応予定者・役割等
事業事務	大館市産業部林政課 (協議会事務局)	主任 加賀谷 洋昌 役割等: 申請・契約事務 など
進捗管理・ 指導監督	森林資源バイオエコノ ミー推進機構(株)(秋田 県能代市)	代表取締役 高田 克彦(秋田県立大学木材高度加工研究 所 所長) 役割等: 協議会運営・進捗管理、木材加工等に関する助言 など
商品開発・ 技術指導	(株)長谷萬(東京都江 東区)	執行役員 鈴木 康史 役割等: DLT 商品開発、DLT 製造に関する技術指導 など

成果普及結果等

① 表彰制度の受賞によるDLT事例の発信

DLTの知名度向上を目的に、DLT商品開発実績等について木材利用関連の顕彰制度へ応募し、以下のとおり受賞した。

■ウッドデザイン賞2024

主催団体：(一社)日本ウッドデザイン協会

受賞対象：Akitasugi DLT Furniture

受賞部門：ライフスタイルデザイン部門(図-40～41)



図-40 表彰状



図-41 Akitasugi DLT Furniture

② オンラインセミナーでの森林認証材及びDLT活用事例の発信

SGEC/PEFC ジャパン主催「全国自治体ネットワークオンライン会合」において、森林認証材の普及及び活用を積極的に進めている自治体の成功事例として、本事業を含めた森林認証とDLTの取組状況を発信した(図-42)。

日 時：令和7年1月27日(月)午後2時

配 信：Zoomウェビナー

主 催：SGEC/PEFC ジャパン

(一般社団法人緑の循環認証会議)

人 数：100名程度

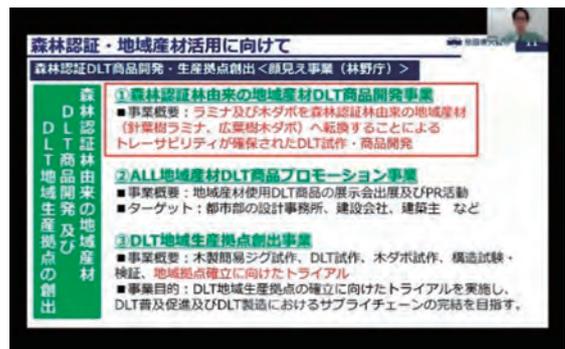


図-42 オンラインセミナーでの発表

森林経営の持続性確保に向けた取組内容の報告

① 森林認証の取得及び拡大

大館市では、市有林の持続的な森林経営を目指すとともに、当地域からの木材供給トレーサビリティの確保等を図ることを目的に、令和5年1月に市有林において森林認証(SGEC-FM/31-22-1507)を取得。また、当地域における森林認証林の拡大と森林認証材の供給体制の構築を目指すため、令和5年度に大館市の単独取得から当協議会でのグループによる森林認証を取得し、今年度においては、新たな認証グループメンバーを加え、令和6年11月27日付けで認証面積の拡大が認められた。

【森林認証グループ認証概要】

認証日：2024年11月27日

認証面積：7328.36ha(グループ/5者)

認証種類：FM(Forest Management) 認証

認証機関：公益財団法人日本適合性認定協会(JAB)

審査機関：SGS ジャパン株式会社

審査日：令和6年10月29日～11月1日(図-43)



図-43 認証審査(現地審査)の様子

② 森林認証材安定供給体制の構築

施業集約化等によるスケールメリットや素材生産量の確保の観点から森林認証(SGEC/31-22-1507)を取得している協議会会員と「森林認証材の施業及び森林認証材の販売に係る協定」を令和6年4月1日に締結し、市有林を協定フィールドとして設定。公有林から伐出された丸太を認証材として安定的に流通させるため、FM認証取得会員に加え、CoC認証を取得している流通区分の協議会会員を協定者として加えている。

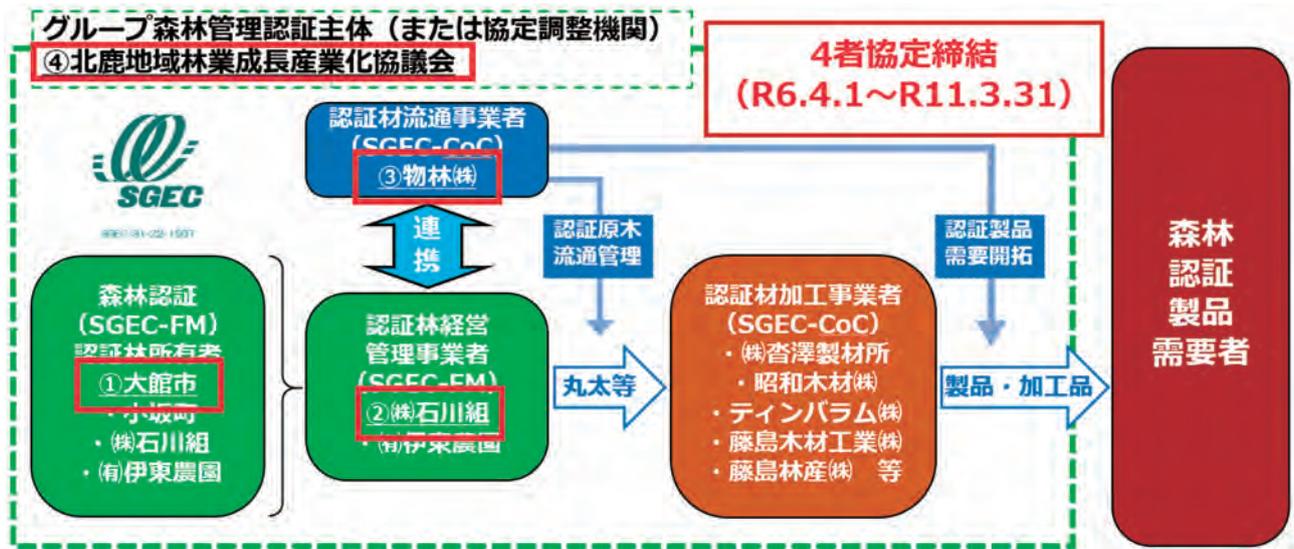


図-44 森林認証材安定供給体制図

事業結果を踏まえた今後の課題と次年度以降の取組

今後の課題

① 地域産広葉樹木ダボの用途開発

地域産広葉樹による木ダボ製造が可能となったほか、欧州ブナ木ダボと比較しても遜色なく使用できることが確認されたことから、地域産広葉樹木ダボの用途開発による更なるDLT利用事例の創出が必要。

② DLT製造の簡易化・省力化

DLT地域生産拠点を創出できたが、ドリルが固定されていないことによる穴のズレや木ダボ挿入時のラミ

ナの割れ、複雑なラミナ加工に伴う労務負担の増加が浮き彫りになったことから、DLT 製造の簡易化・省力化と併せて新たな DLT 地域生産拠点の創出に向けた木材加工事業者との合意形成が必要。

③ 森林認証材の安定供給

森林認証材の安定供給体制を構築したことにより、一定数量認証材を活用してもらえており、またデベロッパやゼネコンからの需要や要望も見えてきたことから、更なる森林認証林面積の拡大に向けた合意形成、特に認証林経営に賛同するプレイヤーの増加が必要。

次年度以降の取組

① DLT の強度補強及び軽量化に向けた木ダボの開発、耐力等検証

既存寸法である 20mm より径の太い、細い地域産木ダボの開発と併せて、木ダボの径と形状、樹種による強度や接合性能などの検証を行い、DLT の強度補強や DLT 家具の軽量化、再利用・DIY への展開可能性について議論し、商品化を目指す。

② DLT 地域生産拠点の拡大と省力化

通直な穴あけを容易にする簡易ジグの試作と性能検証、ジグ加工の形状変更や電動回転ドリルを用いた回転挿入等の試行といった技術改良と併せて、安定的な DLT 製造に向けた地域木材加工事業者との合意形成及び技術指導を実施することにより、DLT 製造機導入前の簡易化及び省力化、木材加工事業者毎の強みを活かした DLT 製造による企業競争力の向上を目指す。

③ 森林認証林の拡大に向けた合意形成及び協定フィールドの横展開

森林認証林の更なる拡大に向けた森林所有会員へのヒアリング実施(森林組合等)と併せて、新たな協定フィールド(認証林施業及び認証材販売協定)の設定及び会員自治体との協議、横展開を進め、森林認証材の供給量が薄い時期(7~11月)の供給量の増加、公有林丸太を確実に認証材として繋げることを目指す。

テーマ：持続性が確保された木材流通のための立木取引(マッチング)の場の整備

実施概要

実施団体の概要

一般社団法人「国産材を活用し日本の森林を守る運動推進協議会」は、国産材の利用促進活動を通じて、日本の森林・林業を再生することを目的とし、普及啓発・調査研究・各種イベント開催を行ってきており、この事業では活動の方向性を定め、主導する役割を担いました。

一般社団法人「林業機械化協会」は、事務局として具体的な活動の調整、情報収集、会計事務等を行いました。

事業の目的

人工林資源の多くが成熟期を迎えている中で、製材等の価格は上昇しても立木価格は低迷したままとなっており、立木取引においては再造林など持続可能な森林の経営に必要なコストが考慮されていない状況にあります。

こうしたことから、伐って使って植える循環サイクルを実現するため、立木取引を見える化し、木材需要者が持続性担保を確認した上で、森林所有者が納得する価格で購入する場の整備を目的として取り組みました。

事業内容・結果

A 有識者委員会

委員一覧

区分	所属・役職	氏名
素材生産	(有)佐川運送 代表取締役	佐川 賢司
製材	協和木材(株) 代表取締役社長 ※代理 専務取締役	佐川 広興 (佐川 和佳子)
木材利用	京都大学大学院農学研究科 教授	立花 敏
森林経営	全国森林組合連合会 専務理事	富山 洋
森林経営	宮崎大学 農学部 教授	藤掛 一郎
流通	ナイス株式会社 資材事業本部	宮代 博幸

会議の開催

日程等	主な議題
第1回 令和6年7月 (書面)	1 背景 2 立木取引システムのイメージ 3 今年度の事業の進め方事業の背景と方向性
第2回 令和6年10月28日 (林友ビル)	1 これまでの取組状況と今後の動きについて 2 出品物件の内容について 3 質疑 出席：委員4名、オブザーバー8名
第3回 令和7年1月31日 (TKP飯田橋ビジネスセンター)	1 試行実施とインターネットサイトの運営 2 出品者等からの状況報告 3 質疑 出席：委員6名(代理を含む)、出展者等3名 オブザーバー7名



(第2回委員会：挨拶する島田会長)



(第3回委員会：挨拶する立花座長)

イ 試行の実施

県名	出品及び購入候補者等	働きかけの実施状況	対応等
高知県	・北川村、馬路村、県森連、香美森林組合、山林協会、県木連、県庁、津野町、仁淀川町、「土佐林業クラブ」、「仁淀川林産協同組合」、「高知県再造林推進会議」ほか	・各首長及び担当者等への説明及び意見交換・質疑等 ・情報誌の記事の紹介及びリーフレット・パンフレットによる説明など	・仁淀川町から町有林の出品について、条件整備の上、第1号として高知県、川崎重工(株)、仁淀川町による『協働の森』の一部を出品。現地案内(2回)を実施 ・以降、官行造林地等の出品を検討 ・「土佐林業クラブ」での説明会(12/5)
福島県	・古殿町役場 ・個人所有林(郡山市)の出品希望の相談あり ・公募により集まった参加者23名に対し説明(福島市内)	・担当者に対し、出品のための具体的な事務の流れなども含め説明 ・リーフレット等により説明	・町内で会計上の取り扱いを調整 ・第1号物件の出品に続いて、2件目の条件整備に着手。現地案内を実施 ・個人所有者の出品意向があり個別説明
山口県	・県庁、県森連、山口西部森林組合、「リフォレながと」、長門市、製材会社(下関市)ほか	・県庁、長門市などの担当者への説明(地元森林組合の理解・協力の必要性・重要性について指摘あり)	・地域での説明会の開催の可能性の検討。 ・「リフォレながと」は前向きに自身の役割等を検討
長野県	・県庁 ・根羽村	・「信州の木活用課」が主体となって県内市町村の中から候補地を選定・推薦することで合意 ・根羽村で県、村、森林組合等と打合せ	・根羽村は出品の具体的なやり方等を引き続き検討 ・購入者は名古屋圏の需要者となる可能性が高いことから、東海地方木材関係者等への説明を検討
岩手県	・西和賀町 ・岩手県森林組合連合会	・町内は航空レーザー測量ほぼ100%だが、森林が小規模・分散のため、現段階でこの仕組みに乗るのは難しい。 ・市況が悪い中では説明された立木市場の仕組みが動くとは思えない。 ・いわゆるBusiness to Consumerの関係づくりの意味は新しく有意義 ・県森連総会で講演	・今後とも情報提供を実施

ウ 出品物件

立木市場サイト(https://www.rinkikyo.or.jp/ryuboku/)に掲載しました。

番号	場所	樹種	林齢	面積	材積	最低価格	締切日
4	高知県吾川郡仁淀川町	スギ	55年生	2.14ha	1,333m3	1,265万円	2025/1/31
5	福島県石川郡古殿町	スギ	74年生	1.77ha	939m3	1,342万円	2025/3/31

エ インターネットサイトの運営管理等

サイト委託先による操作方法の研修を両協会関係者が受講し、出品物件の掲載、情報の追加等を適切に実施しました。また、サイトにFAQタグを設定するとともに、サイトへのアクセシビリティ向上のため国産材活用協議会 HP に立木市場タグを新設しました。



事業実施により得られた効果

試行の結果

サイトを一般公開してから1月末までの間で、サイトへアクセスは2,914回(471人)になりましたが、売買契約の成約には至りませんでした。

立木市場の理解向上・普及

有識者委員会ではゼネコンや設計事務所から立木市場の話題が紹介されるなど、立木市場の取組に対する理解が向上してきていると推測されます。また、国交省の補助事業で再生林に資するものとの条件が付けられるなど持続可能な木材取引が重要性を増してきており、今後の事業の中で一層の普及等に努めていきます。

今後の課題と次年度以降の計画

次年度以降の課題と計画は以下のとおりです。

- ① サイトの運営は、「一般社団法人国産材を活用し日本の森林を守る運動推進協議会」が通常の事業として行う。
- ② サイトへのアクセシビリティの向上、判りやすい広報に努め、出品者、買受希望者等を増加させていく。
- ③ 試行ではなく民民の取引の場として本格的に展開していくことから、サイトの整備等に対する支援は補助事業には求めない。
- ④ 持続可能木材に対する業界関係者や一般国民の意識向上と需要喚起の取組、持続可能木材を対象とした国産材マークの普及などとの連携に努めることとし、関連する補助事業など適切な財源や支援を求めることも検討する。

テーマ：公共施設木造・木質化に向けた地域材供給体制整備

実施概要

実施団体の説明

新潟県木材組合連合会は県内の木材流通の川上から川下までを網羅した唯一の団体で、木材利用を優先する社会の実現をめざし、持続可能な木材利用の推進、地域木材産業の活性化、安全・安心の木材利用供給の推進などに取り組んでいる。

事業の目的

令和3年10月、「都市(まち)の木造化推進法」が制定され、公共部門のみならず民間での木造化等の動きが顕著となっている。耐火建築物資材等の技術革新が進み、中高層建築物等の木造の可能性が大きく広がり、SDGsの環境意識、2050カーボンニュートラル等の流れもあり、大都市を中心に木造化・木質化が着実に進み始めている。

現在、新潟市西蒲区役所の新庁舎整備事業が予定されており、令和6年5月「西蒲区役所新庁舎基本構想」が策定されている。新潟市には8つの行政区があり総面積は72,644ha、そのうち森林面積は5,434ha、林野率は7.5%で、森林は主に、西蒲区の角田山・多宝山が3,296ha、秋葉区の里山が1,474ha、日本海沿いの飛砂防備機能を有する海岸保安林が664haである。

西蒲区の角田山(峰岡林業)では明治中期よりスギの植林がはじめられた。大正期には早期伐採の林業地として全国的に有名となり視察や品評会も頻繁に行われるようになった。隣接する多宝山(西山林業)でも同様に大正時代より林業が盛んとなり、目が細かく、太さが一定で質の高い「西山杉」として有名となった。両地区とも戦後の住宅復興需要期に最盛期を迎えたが、昭和40年代以降、木材生産が停滞し、手つかずの状態が続いたものの、現在、利用可能な高齢級の優良な森林を豊富に有している。このため、西蒲区役所整備を機に西蒲区内林業の再来を目指すべく森林・林業・木材産業関係者が一体となった取組を進め、新庁舎の木造化・木質化を推進するとともに、伐って、使って、植えて、育てる循環型林業の確立に向けて取組を進めるものとする。

事業内容・結果

地域の木材利用を考える検討会

西蒲区役所整備を機に、目に見える形での森林資源の循環利用を推進していきたい。あわせて、素材入荷量の増加に対応できる製材加工体制の構築に向けて、市内においては新潟市木材連合会の協力を得ながら、他地域に係る部分については当連合会が主体となって製材工場間の連携を図り、将来にわたって県産材製品の安定的供給を図るための体制を構築していきたいと考えた。なお、木材の調達についても新潟県森林組合連合会と連携を図り対応を進めていくものとした。

また、一般流通材で対応するためにも、プレカット協会と連携し加工や金物接合を効果的に活用する構法を検討するなど、地域の工務店とも連携し共通する住宅部材について検討していきたいと考え実施した。

検討会メンバー：新潟県新潟地域振興局、新潟市、新潟県森林組合連合会、新潟県木造住宅機械プレカット協会、新潟市木材連合会



第1回検討会

日 時：令和6年8月29日(木) 14:00~15:30
 会 場：新潟木材会館
 参加者：9名
 内 容：・検討会趣旨説明
 ・西蒲区の森林の現状
 ・公共施設等非住宅分野での木造・木質化について

第2回検討会

日 時：令和6年11月6日(水) 14:00~15:30
 会 場：新潟木材会館
 参加者：7名
 内 容：・事業の進捗について
 ・過去の公共建築等対応事例
 ・顔見え事業中間報告会について

第3回検討会

日 時：令和7年1月24日(金) 14:00~15:30
 会 場：新潟木材会館
 参加者：9名
 内 容：・新潟市西蒲区役所新庁舎整備事業について
 ・事業の進捗について
 ・次年度の取組について

研修会の開催

主伐・再造林研修会

西蒲地域は、利用可能な高齢級の優良な森林を豊富に有しており、その活用が課題である。消費地が近く地の利を活かして、主伐・再造林の低コスト化も十分可能な地域であり、近隣森林組合の実施個所において研修会を実施し、伐って、使って、植えて、育てる循環型林業の確立に向けた取組を推進した。

日 時：令和6年11月15日(金) 10:00~15:00
 会 場：[現地研修] 長岡市日野浦地内
 [室内研修] 長岡市ニュータウンセンター
 対象及び参加者：県及び市職員、森林組合等林業関係者 20名
 内 容：[現地] 低コスト主伐・再造林の取組箇所
 [室内] 取組事例 中越よつば森林組合 再造林プロジェクト
 富山県西部森林組合 集約化団地の取組



木材利用推進セミナー

今後の新設住宅着工数の減少が見込まれるなか、いかに木材需要の拡大を図っていくのか検討する中で、中小規模の製材工場の多い当県において、製材工場が連携しながら対応できる、一般流通材を活用した非住宅や中大規模建築物の木造化を推進することが重要であることから、建築物の設計にあたり、一般流通材や構造金物など住宅用既製品の使用を意識した計画について、設計者や施工者に普及するためのセミナーを開催した。

日時：令和6年10月29日(火) 13:30~16:40

会場：新潟ユニゾンプラザ 大会議室 WEB併用

対象及び参加者：木材産業及び建築・設計担当者 会場40名、WEB18名

内容：非住宅・中大規模建築物の木造化を考える

講演1 功刀友輔氏(一社 中大規模木造プレカット技術協会)

『一般流通材を活用した地域の低層住宅の木造化』

講演2 山田壘史氏(株タツミ)

『既製品金物の活用と木造化のターゲット(中小規模低層建築物)』



非住宅・中大規模建築物の木造化でセミナー

毎年10月は木材利用促進月間

約40名が参加—県木連

県木材組合連合会(県木連、重川隆廣会長)は10月29日、令和6年度の木材利用推進セミナーを新潟市の新潟ユニゾンプラザで開いた。毎年10月は木材利用促進月間。

非住宅・中大規模建築物の木造化を考える—をテーマとしたセミナーには、組合員会社の担当者など約40名が出席した。なお、本セミナーはZoomによるオンライン配信も行われた。

セミナーでは、(一社)中大規模木造プレカット技術協会理事の功刀友輔氏が「一般流通材を活用した地域の低層非住宅の木造化」と題して講演した。この中で功刀氏は、カーボンニュートラルや健康な木の育成といった循環型社会の形成に向けて、一般流通材とプレカットを活用した中大規模木造建築物の普及が不可欠と指摘し、それに向けた取り組みの方策について、国内の木材利用状況や実際の木造施設などを紹介しながら説明した。

セミナーではこのほか、タツミ商品企画開発チームの山田壘史氏が「既製品金物の活用と木造化のターゲット(中小規模低層建築物)」と題し、建築物の木造化に適した金物の活用方法などについて説明した。

冒頭、あいさつした重川会長は「国では木材の利用の促進が図られているが、本県においてはその利用のスピードは首都圏と比べて遅いと感じている」と指摘した上で「(取組の推進に向けて)本セミナーを活用してもらいたい」と呼びかけた。

セミナーの様子

現地検討会の開催

公共建築物の木造化・木質化等に向けた県施策の推進並びに木材業界の需要拡大に向けた取組に向けて、実際に地域材を活用した施設において、県及び市町村の建設担当者等向けに検討会を実施した。

日 時：令和6年12月13日(金) 14:00~16:00

会 場：ラポルテ五泉 多目的室

対象及び参加者：県及び市町建築・設計担当者等 16名

内 容：県産材利用の取組について

非住宅分野における木材利用について

五泉市産材活用交流拠点複合施設「ラポルテ五泉」の施設説明及び見学



ラポルテ五泉(五泉市パンフレットより)



普及宣伝の実施

新潟県人口の3分の1を占める新潟市の中心である、新しくなった新潟駅構内及びバスターミナル等で、JR利用者のみならず買い物客等に対し、再生可能な資源として、木材を利用することの大切さ、日々生活の中での木のある環境、暮らし等木の良さをPRするため、記憶に残りやすく多くの情報を伝えることのできる動画等を活用し、デジタルサイネージで放映し、人々の生活を支える森林・木材に関する知識を普及するとともに、身近な建築物の木造化・木質化への理解並びに住宅建築にあたって木造を選択してもらえるよう機運を高める。あわせて、雑誌においても若年層等をターゲットとし森林資源の循環利用への理解促進等PR活動を通じ、森林・林業・木材産業並びに木を使う応援団として県都から気運を盛り上げるための集中的な広報・啓発活動を行った。

■新潟駅J-Spotビジョン



期間：令和6年11月1日~30日

対象：一般県民等

内容：新潟駅構内通路及び在来線改札内

コンコースに設置 23面で放映

木材利用により循環型社会をつくる

アニメ版普及動画(30秒)

■トレインチャンネル



期間：令和6年11月1日～30日
 対象：一般県民等
 内容：新潟県内走行E129系車両
 114両 342画面で放映
 木材利用が森づくりにつながる
 普及動画(30秒)

■新潟駅バスターミナルサイネージ



期間：令和6年11月4日～12月3日
 対象：一般県民等
 内容：新潟駅バスターミナル24か所で放映
 木材利用が森づくりにつながる
 普及動画(15秒)

■月刊にいがた



木と暮らそう。

先人たちが育ててくれた森林を伐採し住宅や家具などに使うとともに、伐採した跡地に新たな苗木を植えて育てる循環型林業は、伐る・使う・植える・育てるを繰り返し、森林資源を持続的に活用していく林業のことです。

伐る

伐採
伐採は、伐採計画に基づき、適切な時期に伐採を行うことです。伐採は、森林の更新を促すために必要です。

使う

使う
伐採された木材は、住宅や家具などに使われます。使うことで、森林資源が有効に活用されます。

人が手入れすると森は元気になります。

新潟の木が採れなくなり山が手入れされず、森林には、日光が届かず、樹が地面に下りて生えなくなり、手入れされた森林は、明るく下草が生い茂り、多様な生物が育ちます。また、土砂の流出や崩壊を防止し、水を貯えながら多様な種類の鳥獣が繁殖されます。

育てる

間伐
木が成長するにつれて、木が倒れやすくなるので、木を倒して間伐を行います。間伐は、森林の健全性を保つために必要です。

植える

植栽
伐採された跡地に、新たな苗木を植えます。植栽は、森林の再生を促すために必要です。

新潟県木材組合連合会 <https://kenmokuren.jp>

森が手入れされると環境がよくなり、自然がさらに豊かになります。

循環型林業を確立し、森の手入れを確実に推進することによって、森林の持つ多面的な機能を維持・発揮します。

- 二酸化炭素を吸収し、環境を浄化する
- 水を育む
- 動植物の生息・生育の場
- 木質バイオマス
- 木質エネルギー
- 木質資源の活用
- 木質資源の活用
- 木質資源の活用
- 木質資源の活用

木質資源の活用は、森林の手入れによって実現されます。木質資源は、木材や木質バイオマス、木質エネルギーなどに活用されます。木質資源の活用は、森林の手入れによって実現されます。

新潟県木材組合連合会 <https://kenmokuren.jp>

期間：令和7年1月25日発売号
 対象：一般県民等
 内容：森林資源の循環利用や森林整備の重要性の普及宣伝等

事業実施により得られた効果

西蒲区の木材を使った庁舎建設は目標達成へのプロセスであり、西蒲区の森林の循環利用が再開される状況を生み出すことを大きな目標として動き出した。

現在、新潟市西蒲区役所新庁舎整備事業は基本設計に着手中であり、令和7年9月末に完了予定である。

本取組では森林・林業関係者による川上から川下までの関係者による地域の木材利用を考える検討会をはじめ、川上から川下に至る各種取組を講じてきた。

新たな木材の利用の流れを創出するための需要拡大策としては、住宅需要が減少する現状から、今後は非住宅・公共建築物部門での地域材需要を拡大することが重要となる。中大規模の建築物等に要求される材料をしっかりと供給するためには、地域内の関係者の連携はもちろんだが、建築物の構造・設計も重要な一因となる。このため、一般流通材を活用し住宅用プレカットで加工できる構造により、納期の短縮、コスト低減につなげることで木材の地域内需給の可能性が高まることから、これらの手法に関するセミナーによる周知等進めた。また、最終的には一般消費者が地域材を使おうという意識醸成を含め、全般的な取組を進めた。

これらの活動は、直接、区役所の木造化等につながるものではないが、庁舎建設計画が具体化していく過程で大きな影響を与えることができることを期待している。

今後、基本設計から実施設計の段階で臨まれる地域材製品の供給に向けた準備態勢は整いつつあるものと考えられる。

今後の課題と次年度以降の計画

新潟市西蒲区は、豊かな自然や観光資源、歴史文化等の豊富な特色がある。この魅力を掘り起こす方法と、実際に現地を訪れるきっかけとなるような新庁舎における効果的な情報発信の一つとして、林業の歴史等踏まえ地域産木材等を極力取り入れた西蒲区らしい庁舎建設に向けて、基本設計の受託者が決定したところである。地域住民が親しみの持てる庁舎となるよう新潟市及び受託者と木造・木質化、地域材の活用について調整し、対応可能な構法・製品等について検討会メンバーで具体的に働きかけ、積極的な活用を依頼していきたい。今後は、令和8年度実施設計、9年度建設工事着手、10年度末完成に向けて、必要とされる地域材及び製材品等遅滞なく確実に供給できる体制を構築したいと考えている。

最終的な目標である、西蒲区の森林の循環利用に向けて、引き続き川上から川下の関係者が一体となった取組を継続していくものとする。

安定的な素材の供給に関しては県・市と協力しながら、主伐・再造林及び利用間伐等実施可能箇所を選定し森林所有者の了解や森林経営計画策定による計画的な森林経営の推進に向けた活動を実施する。また、地域内の森林は高齢級で大径化したスギが多いことから、大径材の建築部材を主体とした効率的活用について、関係者と検討していくものとする。

さらに、地域の小規模な製材工場を活かすためにも、非住宅及び中大規模建築物の木造化については、一般流通材を活用し、住宅用プレカットで加工できる構造・設計による、納期の短縮、コスト低減を図るなどにより、地域内需給の可能性を高め、確実な利用につなげる手法等を普及させるとともに、一般消費者含め地域材を使うという意識醸成を図るための普及・宣伝等継続していくことが重要である。

テーマ：木材伝票の電子化による流通合理化に向けた合意形成

実施概要

実施団体の説明

- ・代表者：センター長 高岡 満
- ・設立：平成30年4月
- ・所在地：富山県富山市八丁6931
- ・所属組織：富山県森林組合連合会、富山県木材組合連合会

富山県素材生産組合、富山県建築設計監理協同組合

富山県内では、平成30年4月に「とやま県産材需給情報センター」を開設し、県産材の需給情報を川上、川中、川下で共有し県産材木材供給体制を整えた。

令和元~3年度にかけては、より使い易い県産材の環境を整えることを目的とし、「とやま県産材需給情報センター」を中心とした県内木材流通に係る川上、川中、川下の幅広い事業者、関係者に参画いただいた「富山県SCM推進フォーラム」を立上げ、「効率的なサプライチェーンの構築支援事業」に取り組んだ。

また、「とやま県産材需給情報センター」が公共建築物の設計にできるだけ早い段階で関わり、製材品が円滑に納入されることで、建築主に県産材の使い易さを感じていただける取組を推進した。

事業の目的

背景

川上の素材生産者からの供給について、未だに手書きの伝票による出材や、それらの伝票をパソコン入力による集計、県産材証明に係る書類事務などの作業が煩雑であり、数量の把握に手間取っているという現状がある。

目的

このことから、県産材の流通情報を統一して管理するITソリューションを活用したシステムを構築するため、関係者間での合意形成を図り、システムの仕様を決定する。

期待する効果

- ① 手書き伝票による出材、パソコン入力による伝票集計、県産材証明に係る書類事務などの煩雑な作業をデジタル化により大幅軽減(効率化)
- ② 川上から川下までのサプライチェーンのデジタル化により、トレーサビリティを確保
- ③ 県産材の供給拡大、活用推進!!

事業内容・結果

1. 各素材生産業者による伝票の運用実態調査

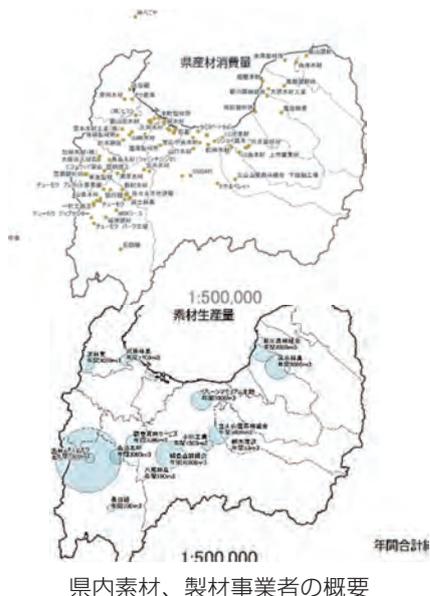
県内素材生産事業者に対して、現状における丸太の素材生産からの流通の流れについて、関連事業者に

ヒアリング及び現地調査を実施。事業者は富山県西部に集中的に所在しており、比較的なコンパクトな商圏で丸太を流通させているといえる。ほとんどの素材生産事業者は流通時の伝票は手紙もしくは、打ち込みデータのメール転送である。また、県西部には、富山県内における県産材消費箇所が多く、近隣石川県に大規模な合板工場があるが、中間に集荷機関が入り、その流通経路は比較的な単純な経路で流通させているといえる。

(帳票サンプル) 木材納品書 素材生産者→製材事業者

・ 生産者は納品書を作成し納品先に送付・代金請求しているが、情報は紙で授受される計量票を集計、起票する必要がある

事業者伝票の使用状況



県内素材、製材事業者の概要

2. 先進地視察やシステムの試用、既存システム等の検証

先進地視察

場所：鳥取県森林組合連合会（鳥取県鳥取市湖山町西2丁目413番地）

内容：鳥取県産材SCMシステムの内容と運用について

- ・ とやま県産材需給情報センターが採択を受けた令和6年度顔の見える木材供給体制構築事業において、納材伝票のデジタル化に向けた合意形成や実証実験を行ってきたところであり、その中における先進地視察として、鳥取県でのSCMシステムについて視察を行ったもの。
- ・ 鳥取県のシステムについては令和7年度までの3か年、林野庁の補助金を使って整備中であり、今後は他の地域への波及効果も期待している取組である。
- ・ 鳥取県での素材生産量は10年間で1.5倍まで増加したが、300千㎡で頭打ちとなっている。
- ・ 県森連は入札や相対取引のみでせり売りの市場は持っていない。他に県内には3つほど市場があり、そこではせり売り。8~9割程度の流通については県森連で把握ができていく状況。
- ・ 「鳥取県産材サプライチェーンマネジメント推進フォーラム」や、「鳥取県産材活用協議会」（いずれも県森連が事務局）と情報共有しながら複数のテーマで協議や実証実験を行っている。全国に3道県（北海道、静岡、鳥取）でコンソーシアムが設立されているが、川下まで含めたものとなっているのは鳥取県だけ。
- ・ コンソーシアムでの取組内容は、次のとおり。

1. 森林基本情報を基に施業プラン書・施業指示書・実績報告書等を自動作成できる「森林施業プラン支援システム」の導入

2. 各種証明書および納品書等を電子処理できる、「川上・川中・川下の生産流通SCMシステム」の構築
3. 中間土場を核とした素材データの連携・生産管理

以上、県森林組合連合会が主導して、市場からの流通の見える化はシステム化にむけて、順調に取り組まれている。課題は、山側の伐採計画や、森林経営計画などとデータが連携でき、川上から川下までつながることが理想である。ただし、素材事業者もたくさん存在するなかで、その取組を普及させていくのは困難が予想される。また、富山県とのデータ連携の可能性についても今後協議をすすめていく。



視察状況
(鳥取県SCMシステムの説明)



鳥取県 丸太集積の状況

3. システムの仕様検討

実際に3社10名の事業者の協力を得て、現場でリアルタイムにタブレット端末に検寸データを入力すること。また、そのデータを一元で管理し、その後のSCM等のシステムに活用できるものかどうかを検証した。



協力事業者への説明状況



素材生産現場における入力状況

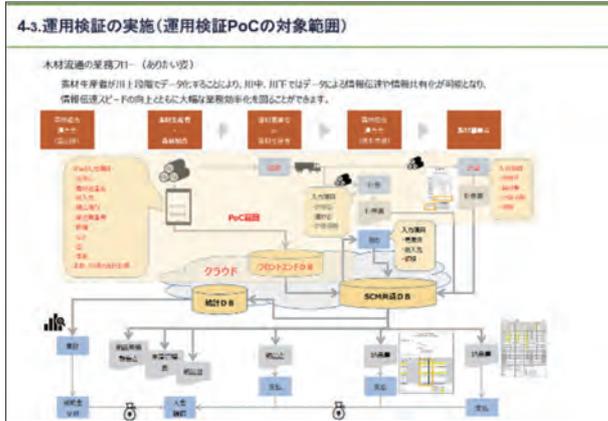


トラック積込時入力状況

成果

川上でのデータ化を目指す上で、音声入力への取組を含め、現場での操作性確認を検証対象の中心においた。各社で入力されたデータの相互利用までは実施できないという制約付きの検証環境ではあったが、

運用検証の参加事業者からは、大変高い関心を持ってもらい、前向きにデータ入力に取り組むことができた。また、その前向きな取組結果として、有益な意見や多くのアドバイスがあった。また、総合的に見ると、当初懸念していた現場における「デジタルデバイスに対するアレルギー感覚」は少ないことがわかった。



流通時の情報を活用していく仕組み図 (あるべき姿)



実際の入力の端末

4. 関係者による合意形成

意見1

音声入力以外の方法として、ログカウンター(丸太の材積計算ができる無料アプリ)など、既に利用実績のあるスマホアプリからクラウドを経由したデータ連携ができないか。

解決案(仕様)1

- ・スマホアプリの「木材検収システム(ジツタ)」による素材生産者側のデジタル化をはかる。
- ・チップ工場における重量情報の入力が必要
- ・検尺情報をクラウドにアップロード(素材生産者～運材業者～チップ製造者／製材業者への連携)

【参考】運用検証用SaaS環境 管理画面②(入力状況_序盤)

The screenshot shows the 'ConMas Manager' interface. It features a navigation menu on the left and a main data table. The table lists various entries with columns for ID, name, status, and dates. The status column shows '入力完了' (Input completed) for several entries.

ID	商品名称	元ID	KEY	状態	登録日時	登録数	登録日時	登録数
25	納品票_豊田木材社_20241217	25	1	入力完了	2024/12/17 13:43	豊田木材社01	2024/12/17 13:43	豊田木材社01
24	2024年12月17日_永原木材_神代	24	1	確認中	2024/12/17 13:40	永原木材	2024/12/17 13:40	永原木材
23	2024年12月17日_東海木材_豊田市山本	23	1	確認中	2024/12/17 13:34	東海木材	2024/12/17 13:34	豊田木材
22	2024年12月17日_西原森林組合02_中野内	22	1	確認中	2024/12/17 10:47	西原木材	2024/12/17 10:47	西原森林組合02
21	2024年12月17日_西原森林組合01_北井	21	1	確認中	2024/12/17 10:47	西原森林組合01	2024/12/17 10:47	西原森林組合01
19	原木受入票_もりもりパルス	19	1	確認中	2024/12/17 10:44	西原森林組合02	2024/12/17 10:44	西原森林組合02
18	原木受入票_もりもりパルス	18	1	確認中	2024/12/17 10:36	永原木材	2024/12/17 10:36	西原森林組合02
17	納品票_豊田森林組合	17	1	確認中	2024/12/17 10:13	西原森林組合03	2024/12/17 10:13	西原森林組合03
16	納品票_豊田森林組合	16	1	確認中	2024/12/17 10:04	西原森林組合01	2024/12/17 10:04	西原森林組合01
15	納品票_豊田森林組合	15	1	入力完了	2024/12/17 09:02	西原森林組合04	2024/12/17 09:02	西原森林組合04
14	納品票_豊田森林組合	14	1	確認中	2024/12/17 10:00	西原森林組合02	2024/12/17 10:00	西原森林組合02
13	納品票_豊田森林組合	13	3	確認中	2024/12/17 10:00	ユーザー01	2024/12/17 10:00	ユーザー01
12	納品票_豊田木材社_20241217	12	1	入力完了	2024/12/17 09:24	豊田木材社01	2024/12/17 09:24	豊田木材社01
11	納品票_豊田木材社_20241217	11	1	入力完了	2024/12/17 09:12	豊田木材社01	2024/12/17 09:12	豊田木材社01

入力された情報が管理されている状況(データベース)

意見2

通信環境の悪い山土場において、確実に素材生産者から川下へタイムリーに情報伝達できるようにするにはどのような対策が考えられるか。

解決案(仕様)2

- ・キャリアの通信環境が悪い場所におけるデータ伝達手段(山土場の出材作業→運材業者)の構築。
 1. QRコードの表示と読み取りによるデータ転送
 2. ニアバイシェア(端末間通信機能)によるandroid端末同士のデータ転送
 3. モバイルプリンタによるQRコード付き伝票の出力、運材業者への手渡し

意見3

- ・改正クリーンウッド法(2025/4/1 施行)への対応を考えると、A~D材を問わず、素材生産者による出材場所情報の入力と川中以降への情報連携が必要。
- ・SCMシステムの構築~運用にあたっては、需給情報センターの役割定義が重要なポイントになるのではないか。
- ・具体的には、受益者のシステム利用料金や各種証明書発行費用等を財源としたシステムの維持管理機能、素材生産量を現状の10万m³/年を10年間で20万m³/年への拡大を目指す中での施業プランナー育成(経営計画の立案)支援などが考えられる。
- ・鳥取県SCMの事例(考え方)を参考としてシステム設計するのが現実的ではないか。

解決案(仕様)3

- ・川上系システムをSCMシステムへ接続する。
- ・改正クリーンウッド法に準拠した原材料情報(伐採地、樹種、証明書)の伝達システム(林野庁提供予定)へ、SCMシステムを接続。



合意形成をはかるための会議の実施

事業実施により得られた効果

- ・素材生産者様(2社7名、iPad6台)だけでなく、チップ製造事業者様(1社3名、iPad1台)において運用検証ができたことにより、

7-1.「県産材流通情報システム」の構築 Step1 (R7年度～)

参考：「木材検収システム」の画面サンプル

タップ入力（音声入力も可能）



同一径級の一括入力



入力内容の確認



「木材検収システム」について

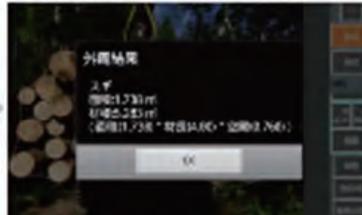
販売会社
株式会社シツタ（宮内）
岩手県松山市中村一丁目6番1号
開発会社
株式会社ビィ システム（佐藤社長）
札幌市北区北九条西3丁目10番地1

- ・対応OS
androidのみ
- ・データ連携（クラウドなど）
現状は手動によるメール送信
DB連携などがカスタマイズは可能
- ・マスタ管理（伐採地、樹種、出荷先...）
パソコンでマスタ（リスト）作成
PCとのケーブル接続によるスマホへ転送可
- ・スマホ間のデータ転送
現在は機能がないが、カスタマイズは可能
QRコードは比較的対応はしやすい
- ・導入価格 初期費用160,000円
年費費用60,000円/10

（1）検尺前 積層計算用外周認識 (A)



積層計算/材積確認 (立派字は任意設定)



既存検尺入力アプリの状況

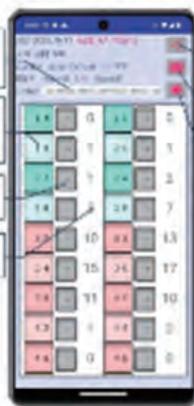
7-1.「県産材流通情報システム」の構築 Step1 (R7年度～)

参考：「ログカウンタープラス2」の画面サンプル

基本情報入力



タップ入力（音声入力も可能）



「木材検収システム」について

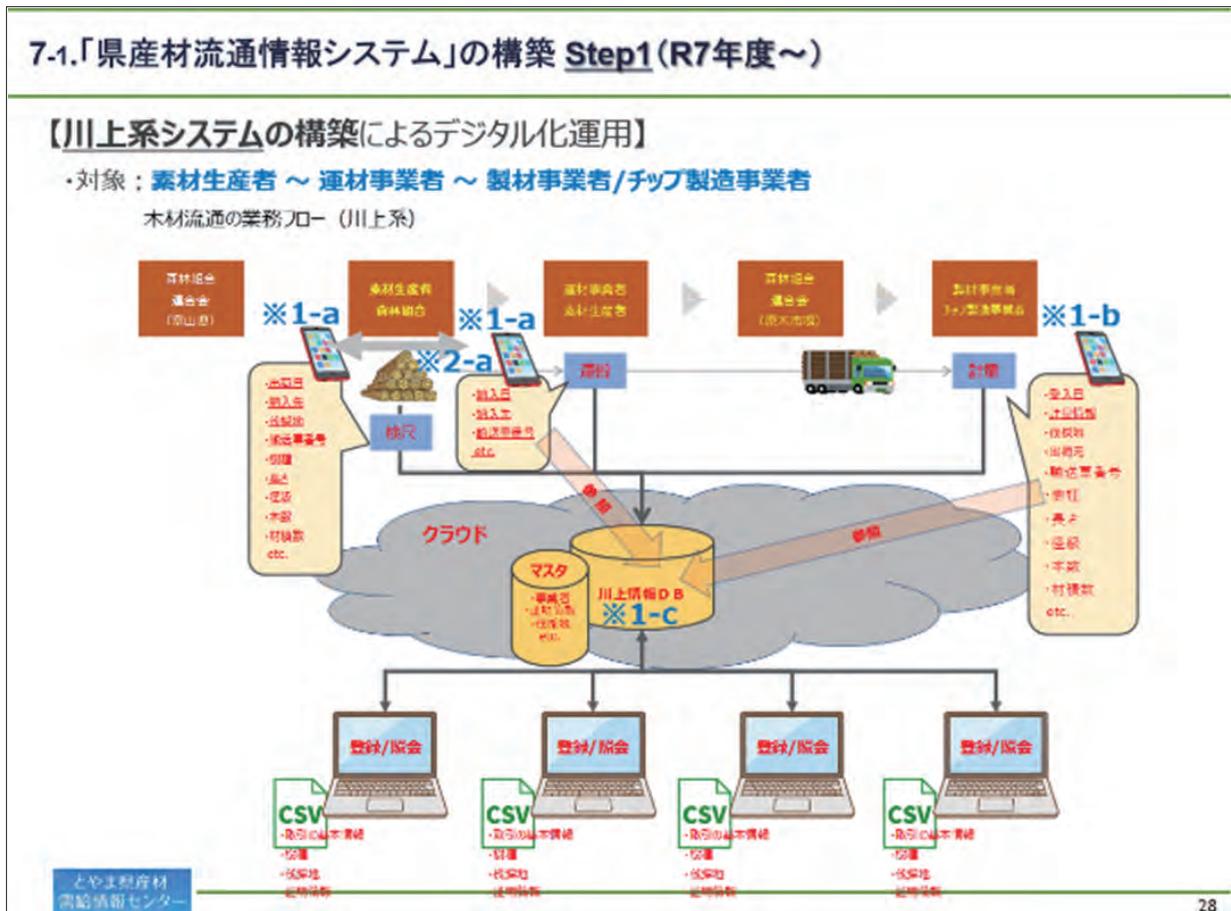
開発・販売会社
有限会社北谷産業
石川県七尾市つつし3-43

- ・対応OS
androidのみ
- ・データ連携（クラウドなど）
現状は手動によるメール送信
（LINEなどのクラウドサービスによる連携も可能）
- ・アプリ開発のキャパシティは少なからずである
ことから、カスタマイズ対応、リリースの継続
性に懸念あり

今回比較した2つのアプリの中では、「木材検収システム」をベースに検討するのが妥当ではないかと考えます。

今後、開発を検討必要なアプリ(例)

- ・令和7年度事業として、素材生産者～運材業者～チップ製造業者／製材業者の範囲で情報共有できる仕組み作り、スモールスタート的に運用実証を実施できる環境を準備する必要がある。
- ・課題としては、クラウド側アプリの開発費、運用費の検討が必要。また、スマホアプリ「木材検収システム（ジツタ）」のカスタマイズ費用(要見積)及び運用性(安定性)の検証、川上系システム側のインターフェース開発費、川上系システム、SCMシステム双方の運用費をどのように捻出するかを検討も必要となる。
- ・令和7年度に川上系システムとして、開発実際に行い運用をしていくための試算検討の結果、需給情報センターとしてのシステム構築、ライセンス管理をし、各事業者を利用して運用した場合、収入から経費を差し引いて、概ね月20～25万円の収益を見込める予定であり、運用は最小限経費で運用し、できる限り素材事業者や製材事業の月負担を最小化していくことは必須となる。



令和7年度取り組むべき、川上系システムの構築イメージ

テーマ：「アテ林業／能登ヒバ」の持続化に向けた高付加価値サプライチェーンの構築

実施概要

実施団体の説明

公益社団法人石川県木材産業振興協会	能登森林組合
代表者 代表理事 通善 一洋	代表者 代表理事組合長 亀井 順一郎
所在地 石川県金沢市湊1丁目86-1	所在地 石川県鳳珠郡穴水町麦ヶ浦17-5

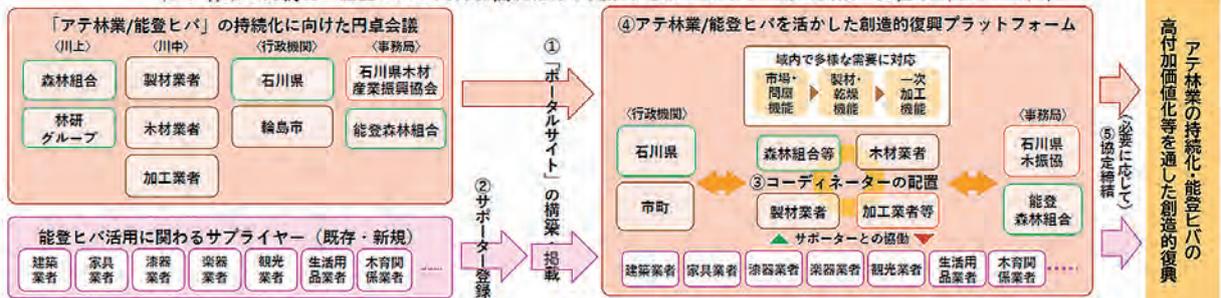
事業内容

- ・能登半島地震による被害で崩れた「能登ヒバ」のサプライチェーンの再構築と担い手確保に向けて、「基礎調査」を経て、関係組織等が参画した「円卓会議」を設置。
- ・能登半島地震に加えて奥能登豪雨で、多数の山腹崩壊や林道・製材所の損壊が発生しており、その復旧が先決であることから、能登の実情や歴史・文化を踏まえつつ、中長期的な視点での支援を呼び掛けるために、「ビジョン」を策定。
- ・森林所有者が再造林等の意欲を高めるため、「アテ林業」の持続化、小径木等の「能登ヒバ」の高付加価値化、能登の実情の情報発信や関係人口の創出に向けて、異業種のサプライヤー等の開拓と協働を促進

「アテ林業」の持続化・「能登ヒバ」の高付加価値化・能登の関係人口の創出等に向けた
サプライヤー等の企業・団体の開拓・主体化の仕組みづくり

- ✓ 能登半島地震及び奥能登豪雨災害で、山腹崩壊・土砂流出等は102箇所（豪雨災害は35箇所）、林道等は2,246箇所（同73箇所）、木材加工流通施設は36箇所以上の被害がみられる上、森林組合等は災害復旧対応への要請や担い手の減少等で、能登ヒバは生産量は減少しているが、復興需要等もあり市況価格は高騰
- ✓ 能登地域の被災地の実情を広く周知し、被災施設等が復旧・再建して生産基盤が整った後を見据えた中長期的な視点の取組や、能登ヒバの資源量・材質特性等を鑑みつつ、歴史・文化性や「能登の里山里海」との関係性等のストーリー性を活かした需要創出等も重要
- ✓ 「アテ林業・能登ヒバを活かした能登の創造的復興に向けたビジョン（別紙）」を定めた上で、能登の林業・製材業・木材産業関係者が連携し、(1)「アテ林業」の持続化、(2)「能登ヒバ」の高付加価値化、(3)「能登の里山里海」や森林・林業・木材産業等の実情の情報発信、(4)能登の関係人口の創出等について、中長期的に共創頂けるサプライヤー等の企業・団体の開拓・主体化に向けて以下の取組を実施
 - ①「ポータルサイト」の構築：アテ林業・能登ヒバの特性や被災地の実情、林業・木材産業関係者、サポーター等の想いや取組を紹介
 - ②「能登ヒバサポーター」の登録：上記の趣旨に賛同し、継続的に能登ヒバを支援・利用するサプライヤー等を開拓・主体化
 - ③「コーディネーター」の配置：多様な事業者間のマッチングや対話や連携・協働を促進し、多様な研究開発や協働取組を促進
 - ④「プラットフォーム」の構築：業種や分野を越えた共同広報・イベント実施等を通して、情報発信・関係人口創出・コト消費の促進
 - ⑤ 協定制度等の検討：アテ林業の持続化・能登ヒバの高付加価値化に寄与する木材利用、研究開発、人材確保等を促す協定制度の検討

〈アテ林業の持続化・能登ヒバの高付加価値化等に貢献するサプライヤー等の開拓の仕組み（イメージ）〉



するために「サポーター」登録の仕組みと「プラットフォーム」の構築、「コーディネーター」の配置等を実施。
 ・「プラットフォーム」が、アテ林業・能登ヒバを活かしたイノベーション・エコシステムとしての機能を発揮できるように、関係団体と連携した支援等を整理した。

(1) 基礎調査

① アテ林業・能登ヒバの生産・加工・流通等の実態調査(輪島市の状況)

災害の影響

令和6年(2024年)1月1日に発生した能登半島地震(M7.6)と、同年9月21日の奥能登豪雨という二重の災害に見舞われた。これらの災害は市内全域に甚大な被害をもたらし、特に能登ヒバの生産、加工、流通に大きな影響を及ぼした。

能登ヒバの生産への影響

地震と奥能登豪雨により、森林の土砂崩れや倒木が発生し、能登ヒバの生育環境が大きく損なわれた。特に地震による地盤の隆起や沈下、豪雨による過剰な水分供給が、樹木の根系に悪影響を及ぼし、生育不良や枯死が報告されている。

加工業への影響

製材所や加工施設も被災し、建物の損壊や機械設備の故障が相次いだ。これにより、能登ヒバの加工能力が大幅に低下し、製品の供給が滞る事態となった。また、従業員の安全確保や労働力の不足も深刻な課題となっている。



流通への影響

道路や橋梁の損壊により、能登ヒバの輸送ルートが寸断され、流通網が混乱し、主要幹線道路の通行止めが物流に大きな影響を及ぼした。これにより製品の出荷の遅延や市場供給の不足が生じ、取引先や消費者への影響も避けられなかった。

② 高付加価値化・再植林促進の先進事例調査(岐阜県飛騨市)

小径広葉樹の高付加価値化・販路拡大を取り組む岐阜県飛騨市の視察を行い、多様な事業者が参画した「コンソーシアム」の設立、地域おこし協力隊による「コーディネーター」配置、サプライヤー開拓に向けた多様な「普及啓発・人材育成」、研究機関等と連携した「研究開発」、多様な主体の主体化に向けた「交流拠点」の設置、広葉樹の「流通拠点」の配置等を組み合わせることで、顔が見えてストーリー性のあるサプライチェーンを構築することで、高単価・高付加価値の市場創出を実現できる可能性を確認した(奥能登豪雨により、輪島市関係者が参加できなかった)。

【日 程】2024年9月24日(火)~25日(水)

【場 所】岐阜県飛騨市・高山市

《1日目》①道の駅アルプ飛騨古川「飛騨産直市そやな」見学

②デジタルものづくりカフェ「FabCafe Hida」

③飛騨市役所

④広葉樹流通(西野製材所・(株)柳木材)見学

⑤「森の端オフィス」見学・ヒダクマ説明

《2日目》⑥飛騨市森林組合「価値の高い森づくり(広葉樹施業)」説明

⑦広葉樹の使い手・木工房「kinoworkshop」視察

⑧飛騨市役所応接室(木質化現場)見学・意見交換

⑨(株)飛騨産業 地域材利用家具・アロマ製造等 見学

【仕組み・体制】飛騨市役所 説明・飛騨市役所応接室(木質化現場)見学

・「飛騨市・広葉樹のまちづくり」説明(飛騨市林業振興課)

・「広葉樹活用コンシェルジュ」説明((株)やまかわ製材舎)



飛騨市・広葉樹のまちづくり説明
(飛騨市林業振興課)



飛騨市役所応接室(木質化現場)



【交流拠点】デジタルものづくりカフェ
「FabCafe Hida」



【交流拠点】「森の端オフィス」見学
ヒダクマの新拠点、広葉樹を多用した
モデル的な建築物



【川上】飛騨市森林組合 見学
価値の高い森づくり(広葉樹施業)



【川中】広葉樹流通拠点 見学
西野製材所、榎柳木材



【川下】広葉樹の使い手・木工房
「kinoworkshop」視察



【川下】(株)飛騨産業 地域材利用家具
アロマ製造等 見学

③ 高付加価値サプライヤー開拓に向けたシーズ調査

(一社)日本ウッドデザイン協会・事務局、(公社)国際観光施設協会・役員等関係者を能登半島に案内して、顔が見えるストーリー性のあるサプライヤー開拓の可能性について協議した。

その結果、(一社)日本ウッドデザイン協会はビジネス・マッチング部会と連携して、(公社)国際観光施設協会は能登半島被災地復興支援委員会と連携して、サプライヤー開拓に向けた取組を実施できることになり、両組織の会員からの能登ヒバ利用の要望も生まれた。

【日 程】2024年8月23日(木)

【場 所】石川県輪島市・穴水町

【視察先】

- ①能登森林組合 本所
- ②能登木材総合センター
- ③石川県健康の森(アテ林業見学)
- ④山腹崩壊被害箇所・被災製材所(旧鳳至木材)
- ⑤能登森林組合木工所
- ⑥蔵田木工所(木地師)
- ⑦輪島塗 蔦屋漆器店
- ⑧輪島塗会館見学・輪島漆器商工業組合意見交換
- ⑨ココハオダヤ見学(能登ヒバを活用したゲストハウス)
- ⑩ココハサトマチ見学(奥能登元気プロジェクト見学・商品展示)



①能登森林組合



【川上】②石川県健康の森(アテ林業見学)



【川中】④旧鳳至木材(地震により廃業)



【川下】⑥蔵田木工所
(能登ヒバを使った曲げ物等の木地師)



【川下】⑦輪島塗 寫屋漆器店
(能登ヒバの曲げ物・指物等を使用)



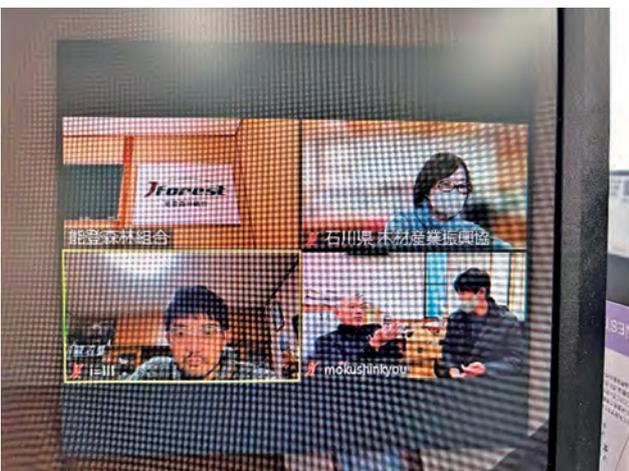
【川下】⑧輪島塗会館
見学・輪島漆器商工業組合 意見交換

(2) 円卓会議開催・アクションプラン策定

被災事業者等の状況を鑑みて、テーマ毎に関係者等と個別協議、全体総括として円卓会議の開催

円卓会議① 2025年1月9日(木)

Web開催 能登ヒバコーディネーター委嘱



円卓会議② 2025年2月13日(木)

場所：能登森林組合



円卓会議③ 2025年2月26日(水) 14:00～

場所 TKPガーデンシティPREMIUM金沢駅西口

参加者 102名 オンライン参加 61名

「アテ林業・能登ヒバを活かした能登の創造的復興フォーラム」



基調講演：深町加津枝氏



地震・奥能登豪雨災害の状況報告
森林管理課 棚部課長補佐



地震・奥能登豪雨災害の状況報告
(株)九内製材所 坂下代表取締役



高付加価値化、取組事例発表
加賀木材(株)小島事業部リーダー



高付加価値化、取組事例発表
フルタニランバー(株)古谷代表取締役



創造的復興プラットフォーム紹介
関軒 能登ヒバコーディネーター



能登の復興的サポーター任命式



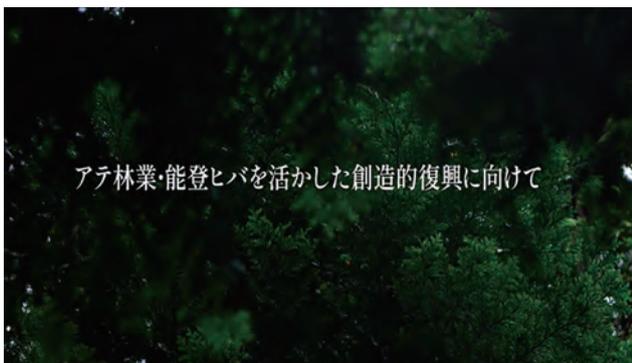
現地視察



現地視察

(3) 広報・サプライヤー等開拓

① 広報資材の制作



・WEBサイト制作

「アテ林業・能登ヒバを活かした
創造的復興に向けて」



・パンフレット制作

② 展示会出展



(a)「モクコレ2024」
2024.12/19～20、於：東京ビックサイト



(b)国際ホテル・レストラン・ショー
2025.2/4～7、於：東京ビックサイト

事業実施により得られた効果

- ・能登半島地震に加えて奥能登豪雨により、関係者は多大な被害を受けたが、丁寧な対話を重ね、各主体が復旧・復興に向けて重視する要素を「ビジョン」として取りまとめることによって、幅広い事業者の賛同を得た「プラットフォーム」を創設することができた。
- ・特に、能登の実情が十分に周知されていないことであることに起因した mismatch や、根源的な課題である担い手不足の解消を鑑みて、①「アテ林業」の持続化、②「能登ヒバ」の高付加価値化に加えて、③能登の実情の情報発信、④能登の関係人口の創出を含めて、域外の異業種のサプライヤー等が「サポーター」として登録する仕組みを構築できた。
- ・そして、「サポーター」には多様な業種の15団体・社の参画が得られ、①では石川県山林協会と連携した「アテ林業」に特化した再造林基金、石川県緑化推進委員会と連携した「苗木づくり」からはじまる「能登・復興の森づくり」のメニュー構築に着手できた。また、②では、(公社)国際観光施設協会や日本ウッドデザイン協会と連携して、会員事業者と連携した技術開発や需要創出等に向けた基盤を構築することができた。
- ・特に、(公社)国際観光施設協会と協働した「国際ホテル・レストラン・ショー」への出展や、「創造的復興フォーラム」への多様な異業種のサプライヤー等との参画と対話を通して、具体的な異業種連携による「リーディングプロジェクト」の構想も提起された。

今後の課題と次年度の計画

- ・2024年度事業により「ポータルサイト」や「プラットフォーム」が構築され、先導的な取組が期待される「サポーター」の参画が得られたことから、具体的にアテ林業や能登ヒバ、奥能登地域の課題解決に資する「リーディングプロジェクト」の実施が望まれる。
- ・そこで、初動期の2025年度には資金調達を図りながら、参画した異業種の多様な「サポーター」等と新たに「プロジェクトチーム」を形成し、イノベティブな「リーディングプロジェクト」の始動や「アドバイザー」による伴走支援を行い、構想を具体化する。
- ・さらに、「プラットフォーム」がイノベーション・エコシステムとしても自走化・社会実装していけるように、主催者と関係団体等が連携した機能強化を図る。

テーマ：ぎふの木ネット協議会会員によるデジタルとリアルな顔の見えるマーケティングの融合による岐阜県産材の普及促進

実施概要

実施団体の説明

ぎふの木ネット協議会とは

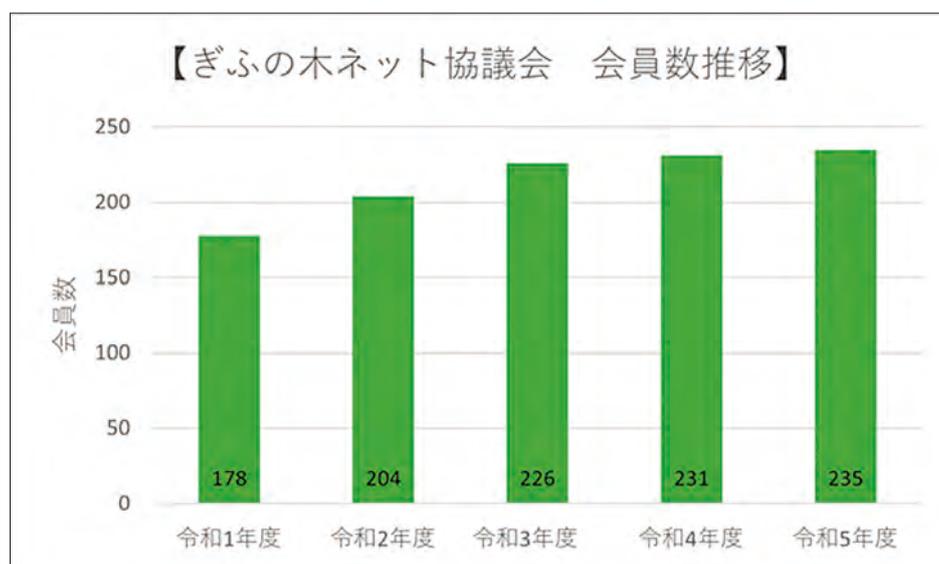
地元岐阜県産材の普及促進を目的に、2019年4月 岐阜県林政部の支援を得てヤマガタヤ産業が中心となって「ぎふの木ネット協議会」を設立した。（※ぎふの木ネット協議会公式HP <https://gifunoki.net/>）

「山を守る、人を守る、技術を守る」の三本柱で未来の子供たちのために、豊かな森林と環境、人の健康を守り、地方創生に寄与すること。ユーザーが安心できる木質空間の創出と、地域社会・地域産業基盤の整備発展、サステナブルで持続可能な木材資源循環の流通体制構築によるSDGsの目標達成を目指す団体である。

現在会員とオブザーバー合わせて235の団体（令和5年2月末現在）で構成されており、業種は林業・製材所・プレカット工場・工務店・設計事務所・不動産事務所・建材メーカー・家具メーカー・銀行・IT企業というように多岐にわたる。当協議会では、勉強会、各種講演、フォーラム等を開催し、地域材活用や、サプライチェーン構築についての活動を行ってきた。

なかでも多くを占めているのが、地元エリアの工務店であり、各社が協議会活動の中で岐阜県産材の活用に取り組み、一般ユーザーにもPRをしている。

会員については、初年度から徐々に増えてきており、岐阜県を中心に愛知、滋賀などの近隣エリアや関東方面の企業も参加する団体となってきた。



事業の目的

協議会の会員が集まる機会があるごとに県産材活用促進に向けて活動をしてきており、その結果少しずつではあるが、地域からの認知度は出てきているが、まだ十分とは言えない。施主である一般ユーザーへの働きかけも重要であり、ユーザーの意識がかわることで地域材の選定につながると思っている。

これまでのぎふの木ネット協議会の活動は、BtoBの活動が主であり、BtoCの活動はほとんど行ってこなかった。協議会そのものや協議会事務局(ヤマガタヤ産業)と施主や一般市民などへ接点が少なく、これら一般ユーザーに対して県産材活用、県産材製品販売のアプローチを行う活動を行っていきたいと考えている。

特にコロナが明け、人々の行動が通常に戻った今、WEBだけでなくリアルで地域の木材を感じてもらえるような体験もとても重要になってきていると感じている。WEBとリアルの両方のメリットを生かしながら、一般ユーザーに地域材についてPRしていく必要がある。



すでに開発したWEB上のサービス「デジタル展示場 モクタウン」を機能強化し、より一般ユーザーがひきつけられるコンテンツ発信に合わせて、リアルイベントを行うことにより、WEBとリアルの融合で、より私たちの思いをダイレクトに伝えていく活動を行う。

「県産材について知る」「県産材を扱っている業者について知る」「県産材製品について知る」といったWEBおよびリアルの体験を通じて、ユーザーに県産材を身近に感じてもらうことで、県産材関連製品の販売量を増やしていきたい。

事業内容・結果

1. デジタル展示場モクタウンを活用し、ユーザーに県産材を伝える活動

テレビCM

岐阜の放送局であるシーシーエヌ(株)にてモクタウンについて15秒のテレビCMを8月~10月までの3か月間(451回)放送を行った。



コンセプトブック

BtoC向けにぎふの木ネット協議会のコンセプトブックを製作。協議会の説明や活動報告・デジタル展示場モクタウンの紹介の他、コラムとして森の現状や木材の特徴についてもまとめた。

一般の方に活動内容や森・木材について知ってもらい、県産材活用推進につなげるための配布資料として考えている。

(配布計画)

- ・各種イベントにて、一般の方に協議会の活動をPRし県産材活用促進を促す。
- ・各会員企業が開催するイベントにて参加者に配布し、活動の趣旨を伝える。
- ・新規会員への説明資料として使用する。



PR動画

家を建てる際に木材を使うことを考えるきっかけを与え、かつ協議会の認知度の拡大を目的とし、森や木が私たちに与える影響と住宅に木を使うことが森を守ることに繋がるというメッセージを込めた。

撮影地は岐阜県関市の21世紀の森で、全国的にも珍しい株杉と呼ばれる特徴的なスギと、普段私達が木材として使用することが多い真っすぐな形状のスギが混在している森林である。

動画前半のメッセージにある「木々はいつも守り続けてきた」という言葉に沿う樹齢400年~500年の印象的なスギを映し、動画後半には私達に身近な森林を見せることにより、森林や木材が身近に感じられ、かつ自ら木材を使っていきたいと思わせるようなナレーションと映像にしている。

木材を使うことがカーボンニュートラルや環境・森の循環にとって重要なことであるということは、一般的によく理解できる社会であると思う。しかし、それを自分のこととしてとらえてもらうことが重要だと考えている。

そこで本動画では、

「だから次は、あなたの番だ」

という強烈なキーワードを盛り込み、より自分のこととしてとらえられるよう、そのタイミングで色調も変化させるなどの工夫を行い、より印象的に感じられるようにした。

映像の放映シーン・視聴者の感想	
協議会のサイト	トップページに掲載。音声聞こえないことも想定し、字幕付きで掲載した。
協議会フォーラム (2024.11.29)	イベント時に大きな会場で放映した。会場を暗転させる演出と、あえて印象に残るよう、字幕なしで映像に集中させた。 その後、あの動画を使いたいという声が多く聞かれた。今後の使用方法を検討中。
YouTube	YouTubeに掲載し、会員にも伝えた。希望者には映像を使えるようにしていく。
木育施設で放映 (2025.1.11~2.2)	ぎふ木遊館での常設展示期間中、来場者が見るスペースのモニターにて放映した。



だから次は あなたの番だ



岐阜の木を使い 家を立てよう

NA :

木々は、いつも守り続けてきた。
何十、何百、何千年と。
土に根を張り、森を造り、
あるときは災害から、またある時は大気汚染から。
私たちを守っているのは、いつも彼らだった。

だから次は、あなたの番だ。

岐阜の木を使い、家を立てよう。
そしてまた木を植え、森を育てよう。
その循環が、私たちの暮らしを安全を、
健康を作っていくのだから。

地域の木を使うこと、
それは私たちの暮らしを守ること。

ぎふの木ネット協議会

YouTube URL : <https://www.youtube.com/watch?v=guG8TATSduI>

パネル

ぎふの木ネット協議会の活動やモクタウン、県産材や木材についての認知度向上のため、パネルを作成した。本パネルはイベント時やぎふ木遊館の常設展などで展示した。



2. 工務店と一般ユーザーにリアルな森林と木材流通を知ってもらうための見学会

工務店向けの見学会

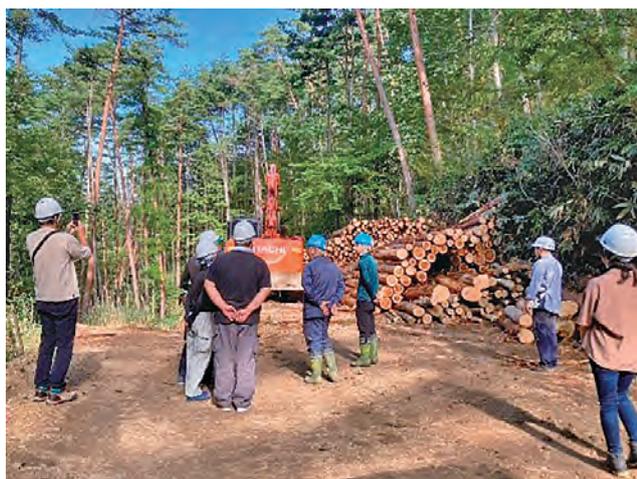
日 付：2024年10月2日

場 所：岐阜県高山市内

参加者：4社5名

工務店向けに森林と工務店とのつながりを知るための見学会を岐阜県高山市内にて実施。

工務店向けに営業活動に活かせる見学会として、現場見学をメインに岐阜県産材の流通や森林・林業・木材加工の流れを学ぶ場として、5名の工務店の方に参加いただけた。実際に伐採現場・植林現場・原木土場を見学し、参加者からは立木から製材品への流れについて理解を深めることができ、伐採、植樹後の現場見学についても、実際に見る、ということの大切さを改めて感じた感想をいただけた。



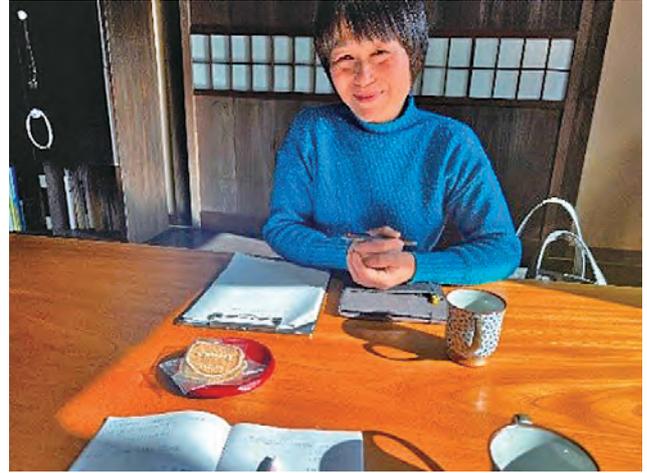
個別相談会

10月2日の林業勉強会を踏まえ、工務店に対して、林業と工務店が連携したPR活動のための個別相談会を開催した。

【A社】



【B社】



(主な意見)

A社	岐阜のブランド材の認知はあるが、デザインの問題でかっこよく見えていない。県産材=かっこいい、となるような見せ方ができる活動を考えたい。
	岐阜の木を使ってもらえるように、木がいいなと思わせるようなイベントも重要。 ・幼稚園児たちとその親を山へ連れていくようなイベント ・木を伐る現場と伐った木材が何になっているのかがイメージできるようなイベント
B社	県産材活用につながるような働きかけを中心に行ってほしい。
	植林イベントなどのワークショップの他、工務店がブース出展できるような住宅フェアも希望する。
	協議会が作成したメッセージ動画(今回補助金制作したコンセプト動画)はとても良いため、ぜひ色々なところで、PR活動に使ってほしい。

上記のような聞き取りを元に岐阜県産材の活用につながるイベントやPR活動などを含めた次年度の計画を立てる予定である。

3. 顔の見える県産材つながるシートの作成

工務店が住宅完成時に施主に渡す資料として作成。シートを通じて施主等に木材企業とのつながりを感じてもらえるようにすることで、自分たちが自然環境に貢献している意識を感じてもらおう。

シートに記載するのは、住宅に使用されている木材使用量、建築会社の写真と想い・メッセージ、プレカット工場・製材工場等である

今後、希望する企業に対しては協議会として随時発行をしていく予定である。

毎月発行のメルマガや隔月発行の通信で案内を続け、周知を図っている。



11月29日ぎふの木ネット協議会主催のフォーラムにて会員に周知し、県産材活用に意欲的だった会員工務店については、フォーラムの中で表彰し、記念の盾を進呈し、その贈呈式を行った。

表彰工務店は、その盾を記念として社内に飾っており、施主へのPRや地域材利用の切り口として使っていると報告を受けている。



4. 木の塗り壁「Mokkun」の普及PR

「Mokkun」の普及のためのイベント

日付：2025年1月18日

場所：ぎふ木遊館

参加者：前半(4組8名)・後半(6名13名) 計21名

木の塗り壁Mokkun(*1)の消臭効果を活かし、絵の具で色付けしたMokkunを小さく丸めた消臭ボールを作るワークショップを行った。

消臭ボールを作る過程でヒノキの香りも感じてもらいながら、親さんからはMokkunに興味を持ってもらっている方が多く、性能や実際にどんなところに使われているかなど話をする機会があり、商品の良さや実際に使ってみたいとの声があった。また、ぎふ木遊館内にMokkunが塗られている壁があることも使用感が伝わり大変良かった。

またこのイベントの様子が、岐阜県、市町村、岐阜県森林組合連合会等が協力し、(社)岐阜県山林協会が発行している機関誌「森林のたより」2025年3月号に取り上げられた。

＊1 木の塗り壁 Mokkunとは

Mokkunは新しい材料でありながら今まで活用できていなかった端材を主原料にした木の塗り壁。
木を伐って使い、そしてまた植えて育てることで、森林の循環が生まれ豊かな環境を守る事にもなり、「資源を最後まで使い切る」社会の課題にも挑戦している製品である。



ぎふ木遊館通信

ぎふ木遊館では、大型水型遊具や水のおもちゃで楽しく木にふれあってもらおうと以外に、土日・祝日を中心に、季節に合った遊びや木のものづくりなどの木育プログラムを実施しています。
今回はその中の【木のねんどで消臭ボールづくり】と【けん玉やってみよう!】の2つのプログラムを紹介します。

木のねんどで消臭ボールづくり

職員はぎふの木ネット協議会の伊藤なるみさん、ギャラリー企画展「ぎふの木ネット協議会 夏草の森について考える企画展」の一環として、ビオトープの素材を利用した塗り壁材を「木のねんど」として、消臭ボールを作るプログラムを行いました。
結果で着色された木のねんどを小さな制子製に丸めて、持ち帰り用のカップに入れていきます。制子製を丸くする子もいれば、木のねんどの感触を楽しみたいようにしっくりと作り、カップいっぱいになる前に凍結する子もいるなど、それぞれの楽しみ方をしていただきました。
使用するのは塗り壁材ということで、塗っただけの感触を体験していましたが、実際はややザラッとしており木の質感を感じました。そして何より、木の香りが残って、付き添いの親さんも感心していました。
消臭ボールは乾いてからも木の香りが残ること、改めて木の可能性を感じるとともに、素材の有効活用を学べるプログラムでした。

感知を楽しみながら丸める姿は
塗り壁材を握るとごろも感触
塗り壁材は木の匂いがするね

常設展

日時：1月11日(土)～2月2日(日)

場所：ぎふ木遊館(*2)

木の塗り壁 Mokkun の認知度向上のためパネルの掲示、パンフレットの配布等、岐阜県が運営するぎふ木遊館で、約1か月間行った。

*2 ぎふ木遊館とは

岐阜県岐阜市にある岐阜県が運営する木育施設。「ぎふ木育」の推進拠点として森林とのつながりを親子で体験できる施設となっており、岐阜県産材でつくった10種類の大型遊具や100種類以上のおもちゃを、幅広い年齢が一緒に遊べる施設である。



パネル作成・展示

木の塗り壁 Mokkun の PR のため、パネルを作成した。本パネルはイベント時やぎふ木遊館の常設展などで展示した。



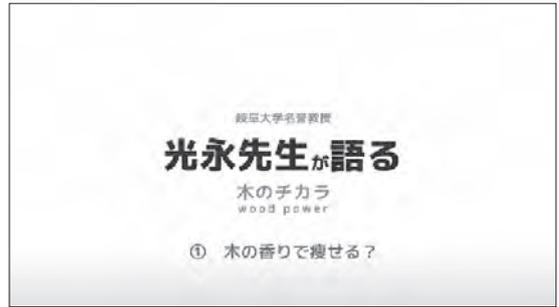
動画制作

「Mokkun」および木の香り「スギ」「ヒノキ」を中心とした木の塗り壁に関する今までの研究成果をまとめた。

岐阜大学応用生物科学部 名誉教授 光永徹先生との共同研究を過去約10年間にわたり続けている。今回は今までの成果をまとめることを目的とし、ヒノキ、スギといった樹種の香りをかぐことで、私たちの心体にはどのような影響を受けるのかを先生に語っていただき、それを動画にまとめた。

(動画タイトル)

①木の香りで痩せる?
②木の香りはストレスに関係するの?
③木の香りで記憶障害が改善する
④「αピネン」の力 ヒノキの香りの正体
⑤「αピネン」の力 ヒノキの香りの正体
⑥実証実験やってきました①
⑦実証実験やってきました②
⑧木の香りで作業効率は上がる
⑨木の香りで睡眠の質向上
⑩免疫力アップにつながる木の香り
⑪循環型の社会を目指して 適材適所に木を



光永教授は今までにスギ、ヒノキ、ヒバの香りを抽出し、それらが

- ・ ストレスの緩和
- ・ 副交感神経、交感神経との関連
- ・ 作業効率の向上
- ・ 睡眠の質の向上

などを実証するための様々な実験を行い、その中でストレスや記憶障害の改善に関して成果を示す実験データを得ている。

木材学会の中でも、特に木材の香りについて研究をしている研究者は少ないという点からも、今まで大学等の研究室で研究されてきた様々な木の香りの効能について、世の中に発信することができたことは、大きな価値がある。

動画はYouTubeにて公開している。

YouTube再生リスト：「光永先生が語る木のチカラ」

<https://www.youtube.com/playlist?list=PL7stYXYvnPcRlbutHF42li0ErgShi0f5D>

5. プレミアム国産材家具の魅力発信

プレミアム国産材家具の魅力発信のためのイベント①

日 付：2024年12月21日

場 所：板蔵ファクトリー株式会社 (岐阜県瑞穂市稲里88-1)

参加者：10組13名

プレミアム家具のマーケットの開拓を目的として、その魅力を知ってもらうための、ショールームの見学と木工体験イベントを実施した。

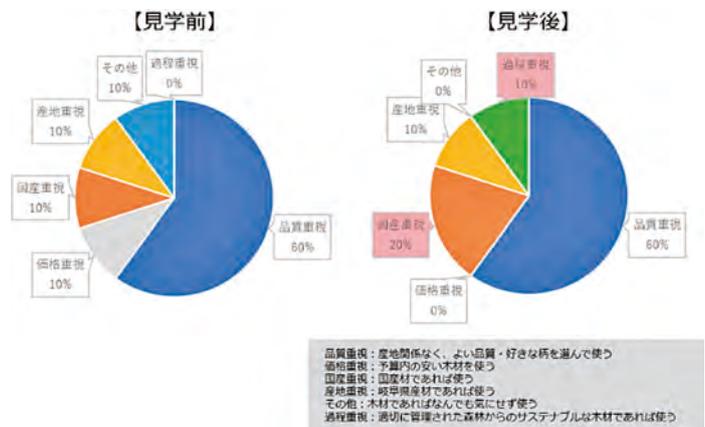
イベント前半には国産材を使ったプレミアム家具や一枚板を含めショールームの見学を行い、後半にはクリ材を使用した我谷(わがた)盆作りで丸ノミやカンナなどを使用した木工体験を行った。

参加者から見学については、木が大きく育つまでの年月を想像すると使いたくなる。木目の美しさが印象に残った。木工体験については、普段使わない珍しい道具が使えて面白かった、と感想をいただけ、積極的に木材を使っていきたいという意見が多かった。



アンケートでは、見学前は「安い木材であれば購入する」と選択されていたのが、見学後は「国産材」や「適切に管理されたサステナブルな木材を使いたい」と記載があり、参加者の認識を変えることが出来たと考える。

その他、体験後木製品を生活に取り入れたくなったとの回答が80%であった。



プレミアム国産材家具の魅力発信のためのイベント②

日 付：2025年2月8日

場 所：板蔵ファクトリー株式会社(岐阜県瑞穂市稲里88-1)

参加者：3組8名

プレミアム家具のマーケットの開拓を目的として、その魅力を知ってもらうための、ショールームの見学と木工体験イベントを実施した。

天候の影響のため当初の予定を変更し、ショールームは自由見学とした。

前回同様に参加者の感触は良く、自由見学後に家具の見積もり依頼を受け、結果、販売につながった。



SNS 広告

プレミアム国産材家具の魅力発信のためのイベントにてSNS広告を使い集客を行った。1か月間ほどInstagramを通して集客を行ったが、目的人数まではどちらもおおよそ1週間程度で応募があり、キャンセル等も考慮し2週間前後広告を出したが、応募者多数のため予定の広告期間は途中で切り上げた

モクタウン 森のツアー広告レポート 2024/10/1

Instagram 広告 (期間: 9/25 ~ 9/30)

Adname	配信	リーチ	インプレッション	クリック数	表示回数	クリック率 (%)	掲載期間	リーチ/広告枠
森のツアー-森見旅	すべて	14,345	21,186	1,410	426,677	0.33	2024/09/25 ~ 2024/10/15	¥1,860
	プロフェッショナル	212	237	100	4,155	2.4	2024/09/25 ~ 2024/10/15	¥750
	フォーマット	4,782	4,284	1,82	47,208	3.85	2024/09/25 ~ 2024/10/15	¥1,525
	Instagramストーリー	10,352	14,703	1,408	¥13,959	481	2024/09/25 ~ 2024/10/15	¥1,533
合計集客数		14,745	21,388	1,410	426,677	0.33		¥1,860
広告枠単価					¥13,959			1,860円/枠

クリック数 ... 655 回
表示回数 ... 21,186 回
費用 ... 26,677 円

広告仕様
● 9/25 ~ 9/30 8,000 円/日

モクタウン 木のイスを作ろう広告レポート 2025/2/3

Instagram 広告 (期間: 1/1 ~ 1/15)

Adname	配信	リーチ	インプレッション	クリック数	表示回数	クリック率 (%)	掲載期間	リーチ/広告枠
木のイス作り2025/01/01	すべて	38,998	45,732	1,410	427,056	0.33	2025/01/01 ~ 2025/01/15	¥750
	Instagramストーリー	8,080	9,305	1,133	46,003	2.45	2025/01/01 ~ 2025/01/15	¥743
	フォーマット	30,918	36,427	1,277	421,053	3.03	2025/01/01 ~ 2025/01/15	¥695
合計集客数		38,998	45,732	1,410	427,056	0.33		¥1,860
広告枠単価					¥13,959			1,860円/枠

クリック数 ... 1,410 回
表示回数 ... 45,732 回
費用 ... 27,056 円

広告仕様
● 1/1 ~ 1/15 2,000 円/日

事業実施により得られた効果

本事業を通じて、以下の成果を得た。

(1) 一般ユーザーの関心度

協議会発信で、各イベントを企画することで、興味関心を持ったユーザーが接触しやすい雰囲気を作り出した。

イベントはSNSを活用したWEBでの広告をメインに集客をした。その中で、一般的なWEB広告よりもクリックされる確率が高いことが大きな発見であった。イベントの内容と広告との親和性が高かったこともその理由ではあるだろうが、協議会が主催していることが一般ユーザーへの安心感につながって、より集客に貢献できたと感じた。

イベントを行って、話を聞いてみると、木材について関心度の高い人たちであり、私たちの話に耳を傾けてもらった。

この結果を協議会の会員企業にも報告をする中で、会員企業にも関心を持ってもらった。2月以降のイベントは協議会事務局だけでなく、各参加企業も主体となって一緒にイベントを運営していく方向で進めることとなった。

(2) 各工務店の取組に対する意識向上

実際の山に入り実施した勉強会では、参加した工務店の反応がとても良く、自分たちが関わっている事業に対する意義を再認識できたという声が多かった。その話を聞いて、次回はぜひ参加したい。という声も多く、実際に体験することの重要性を強く感じた。

こういった体験を増やし、その思いが施主まで届くような流れを作っていくことが重要だと感じている。

(3) 木材の研究

今まで研究は行ってきていたが、それを発信することが少なかったため、それらを整理して情報発信ができた。

環境面から考えたときに、木材の有効活用は「循環型資源」「SDGs」「カーボンニュートラル」など様々なキーワードから重要視される資源であるが、自分から使いたいと思わせるには十分ではなかった。

ところがこの研究により、木材を使用することで、自分や周りの人により直接的にメリットが感じられることを伝えることができた。

「ストレスの緩和」「睡眠の質向上」「作業効率アップ」「記憶障害の改善」はすべて自分たちに関わることでとらえることができ、木材活用の促進につながるのではないかと期待が持てる結果となった。

(4) 会員企業の連携

今年度協議会としては、年に2回のフォーラムや各種セミナーを開催してきた。

その中で、各種取組に参加された企業同士の連携を図ることができたと思っている。

特に一般向けのイベント開催については、今後自分たちも運営側として参加したいという企業が現れ、実際に3月22日にイベント開催を企画し、共同で開催する方向で進んでいる。

この連携の中で、会員企業みんなで県産材・国産材活用の促進を広めていくことができればと思っている。こういった連携が今後も生まれることを期待している。

今後の課題と次年度以降の計画

① 通 年

ユーザーに県産材を伝えるデジタル展示場「モクタウン」に関する活動

- ・モクタウンのコンテンツ製作
- ・モクタウン内でイベント計画
- ・各木材関係事業への訪問および記事作り
- ・YouTubeやSNSでの情報発信
- ・モクタウンに関するパンフレット製作
- ・一般ユーザーへの周知に関する活動

② 年間計画

4月	木育 ワークショップ	県産材・国産材の魅力発信
5月	木育 ワークショップ	県産材・国産材の魅力発信
6月	木育 ワークショップ	県産材・国産材の魅力発信
7月	フォーラム開催	サプライチェーン構築のための発信
8月	森のツアー	工務店と一般ユーザーにリアルな森林と木材流通を知ってもらうための見学会
9月	木育 ワークショップ	県産材・国産材の魅力発信
10月	会員向け 森の勉強会	工務店と一般ユーザーにリアルな森林と木材流通を知ってもらうための見学会
11月	岐阜県 木育イベント	県産材・国産材の魅力発信
12月	フォーラム開催	サプライチェーン構築のための発信
1月	木育 ワークショップ	県産材・国産材の魅力発信
2月	木育 ワークショップ	県産材・国産材の魅力発信
3月	木育 ワークショップ	県産材・国産材の魅力発信

テーマ：顔の見える木材供給体制構築事業の概要—中大規模木造建築の設計支援—

実施概要

実施団体の説明

当会は川上の素材生産、川中の加工・流通、川下の家づくり団体等を会員・賛助会員に持ち、広範な木材事業者を傘下に有する県内唯一の団体。徳島県は人工林資源が充実し、古くから林業・木材加工業が成立してきた地域で、特に徳島小松島港湾に昭和40年代に造成された臨海型の津田木材団地には、最終需要に近いプレカット等の加工体制が充実し、2年前には徳島南部自動車道のインターチェンジが開通。近畿圏へのアクセスが向上している。こうした中、令和3年のウッドショックに対応し、外材資源に頼らない県産材の力強いサプライチェーンを構築するため、令和3年8月に川上から川下からなる「徳島サプライチェーンマネジメント推進フォーラム(以下SCM)」(当会が事務局)を組織化した。

事業の目的

令和3年10月、「都市(まち)の木造化推進法」が制定され、公共部門のみならず、民間での木造化の動きが顕著となり、SDGsの環境意識も高まり、木材業界に追い風が吹いている一方、資材高騰等の煽りを受け戸建住宅が軒並み減少し、公共・非公共部門の非住宅で安定的な木材需要を確保する必要がある。

昨年度、弊会は「顔の見える木材供給体制構築事業」の採択を受け、中大規模木造建築物への木材安定供給体制について検討を重ね、「情報の共有化」「県産材を検討する場の設定」「ニーズにあった製品の標準化やJAS材供給体制」など課題を明らかにした。

今年度は、以下の項目に取り組む事とした。

- ・川上から川下の「顔の見える関係性」を構築
- ・製品市場、プレカットが中心となった情報発信
- ・設計者が容易に木材情報を知り、積算等に活かせるシステムづくり

事業内容・結果

① 情報交換会の開催

川上から川下までの関係者が参加した2回の「情報交換会」を通し、情報共有と顔の見える関係性強化を図った。主な発言は次のとおり。

- ・供給者側の役割として「早期に設計者と材料供給者が情報共有し、設計に活かすことが必要である」、「納期について、遅いと使ってもらえない」、「ストックをどこで誰がするか」
- ・発注者側の役割として「民間商業施設にどうアプローチするか」、「設計者が山に寄り添う必要」
- ・オブザーバーからは「山を知らない設計者は山を殺す」という意見が出された。



SCM情報交換会 R7.2.25(徳島市)

- ・プラットフォームをつくるに当たっては、以下の意見が出された。

「プラットフォームを顔の見える関係に。すぐ電話でき誰かにたどり着けるよう」

「プラットフォームは初めての方へ情報を出すのに有効」

「視覚的に、またどういう建物に規制がかかるのか、どの条件をクリアすれば良いのかなど整理すべき」

「CO₂貯蔵など、木材を使う意義も出したい」

「県内のJAS工場、どういう材があり納期がどれくらいか」

「木造の良いところも必要だが、失敗例を繰り返さない様な情報提供を検討すべきだ」

② 先進地視察

SCMのメンバーと建築士、県林務・建築担当職員らで愛知県豊田市、三重県津市の以下の箇所を視察。材料供給・建築技術等の課題を調査した。

イ. 豊田市博物館は坂茂氏設計。地上4階、延面積7,800㎡で国内初のZEB Ready認証の建物。市担当職員から「構造材に拘らず目に触れる場所で使ってもらおう。公共事でアピールして、民間工事で量を使ってもらえるようにしたい」との話を伺った。

ロ. 三重大学レーモンドホールは、1951年に三重県立大学の図書館として建築。棟木・母屋・垂木・火打梁など丸太材で構成された架構をそのまま表しで表現し、現代にも通じる設計である。ここを会場に、三重大の淵上准教授の「地域材を使うことの影響・地域経済への効果を定量化し見える化する試み」は、地域材を選択する際のツールになりそう。

ハ. 2001年4月にオープンしたウッドピア松阪は、全体41haのうち敷地が23.4ha。原木丸太は三重のほか、和歌山、奈良など広範囲から集まる。原木市場と製品市場を視察した。ウッドピアの原木は良材が集まり、単価も高かった。淵上氏の「三重県は中小製材が171工場あり全国2位。大径材でも手入れされていけば価格は上がる」との話には希望がもてた。



ウッドピア R6.10.4 (松阪市)

③ 専門部会の開催

製品市場とプレカット工場とが連携した「専門分科会」を開催。設計者等への支援システムについて検討した。

- ・主な意見は以下の通り。

「見積依頼をする時点で寸法等のミスマッチが起こる」

「県産材の規格寸法を設計者にわかっていただきたい」「確認申請後は構造的な変更が難しい。早めにプレカットと打ち合わせ出来れば良い」「プレカット工場で出来る事と出来ない事があるが、相互に連携し補完する必要がある」



専門部会 R6.10.11 (徳島市)

④ 技術研修

- ・製材と需要者をつなぐキーマンとなる「市場営業マン」の技術力向上を図る研修会を開催。木材・建築に詳しいエヌ・イー・コンサルタントの宮林正幸氏を招聘し、「最近の木造建築に対応した木材性能についてー特に中大規模木造の構造材ー」について講演していただいた。
- ・ドットコーポレーションの平野陽子氏にファシリテーターを務めていただき、徳島木材市場連盟の玉置氏、濱

口氏とトークセッションを行った。

交わされた意見は以下の通り。

「集成材と製材をどう組み合わせるか」「設計者と事例を共有する機会を設ける必要がある(単価、面積、屋根架構など)」「製材は納期が課題、長さ・納期などを整理すべき」「市場としてグレーディング材をどう売るか」

- ・製品市場で中大規模木造建築用の材料(目視等級JASのグレーディング材)を取扱う事を想定。県農林水産総合技術支援センターの橋本上席研究員が木材のヤング係数測定等を実演。



技術研修会 R7.1.29(徳島市)

⑤ 製品市場・プレカット工場調査

製品市場が扱う製品について寸法・品質、納期等を調査するとともに、プレカット6工場にヒヤリングを実施。加工できる製品寸法や形状等のほか、保有する機械等の調査を行った。

調査で明らかになった事項は以下の通り。

- ・中大規模木造では、同じCAD導入の工場が連携して加工することがある。
- ・プレカットできない複雑な箇所の加工を得意としている工場がある。
- ・早い段階で設計者と打合せできれば、加工できることが多くなる。
- ・設計段階でチェック漏れがある場合がある。CAD入力すると、NGが出て修正でき正確な木拾いもできる。
- ・確認申請がおりた後では変更が難しい。
- ・施工、意匠設計、構造設計など関係者が多く、図面承認に時間がかかる。
- ・特記仕様書で、無垢材にSD15をチェックすることが多い。SD15は難しく理解してもらうのに手間取る。
- ・県産材のストックがあるとかなり使いやすくなる。

⑥ プラットフォームの基本システム設計

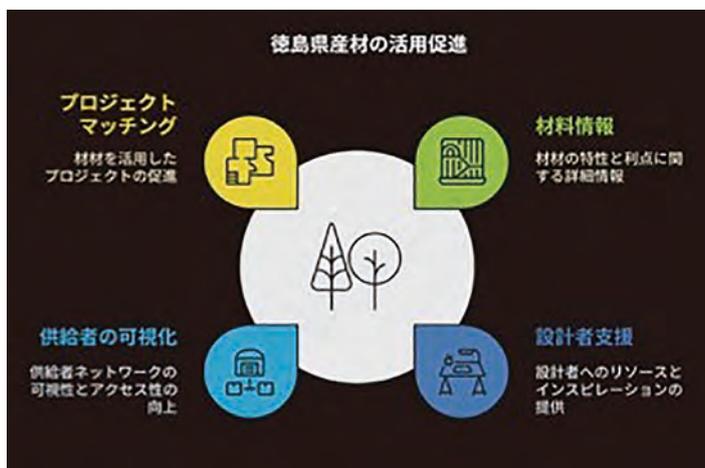
プラットフォーム基本システム設計を行った。その目的を以下の通りとした。

イ. 設計者(建築家・施工業者など)と木材供給者(製材業者・流通業者など)が情報を共有し直接つながることができる仕組みを提供。

ロ. 徳島県の木材資源を活用した持続可能な建築を推進できるよう貢献するもの。

また、プラットフォームを作るに当たって、事業目的を達成するため4つの機能を持たせることとした。

- A. プロジェクトマッチング:木材を活用したプロジェクト支援
- B. 材料情報:材料性能や環境貢献などの詳細情報
- C. 供給者の可視化:木材流通の可視化とユーザからのアクセス向上
- D. 設計者支援:リソース(資源)提供とインスピレーション



事業により得られた効果

【川上から川下の「顔の見える関係性」を構築】について

情報交換会の開催によって供給側と需要者側の意思疎通が図られた。交わされた意見はプラットフォームに反映することとした。

先進地視察では構造材に拘らず、内装・家具で多くの方に地域材を見ていただくという考え方が参考になった。三重大学の淵上氏の地域材の環境・地域経済への貢献を「見える化」する試みは発注者側への大きなアピールになると感じた。

【製品市場、プレカットが中心となった情報発信】について

製品市場・プレカット合同の専門部会を開催したが、双方が顔を合わせて意見を交わすのは恐らく初めての事。連携した事業活動が期待できる。

特にプレカットを対象とした調査では、

製品市場を対象とした技術研修会は、市場営業マンが最近の建築基準法改正の内容をつぶさに知ること、新たな営業展開の可能性があると感じさせられた。また交わされた意見はプラットフォームに反映させることとした。

プレカット工場調査では、特に県内プレカット加工能力等が把握できた。県内工場では一般的な住宅加工機に比べて最大長さや断面寸法が大きいものを加工でき、プレカット出来ない複雑な加工を手加工していた。これは強みになるものであり、プラットフォームにより、設計者へ情報発信すべきである。

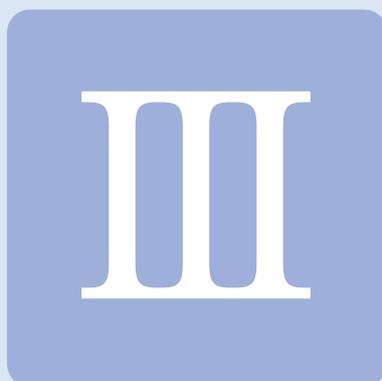
【設計者が容易に木材情報を知り、積算等に活かせるシステムづくり】について

プラットフォームの開設で、設計者が県産材の規格寸法を知る事で積算等がスムーズに出来る。木材供給者においても自社木材を建築プロジェクトに採用してもらう事も可能となり、さらには設計者との接点が増え、新規取引の機会が拡大することを期待する。

今後の課題と次年度以降の計画

この事業において集積した木材関連データとプラットフォームの基本システム設計を具体化するため、徳島県事業を活用して、弊会ホームページに新たに「プラットフォーム」を作成している。今後は県、市町村、企業の方々など発注者に知っていただくとともに、情報がアップデートしていく様、SCMのメンバーのほか、建築関連団体、県林務・建築当局と連携することとしている。

また、委員から「木材を使うことだけで、環境に良いと言ってきた時期は終わったという共通認識がこのSCMでできたと思う。」という発言があったように、全国的に課題となっている再造林問題を川上だけの問題にせず、「グリーンウォッシュ(見せかけの環境保護)」と言われないよう、木材資源を建築に活用する中で、持続的な森林経営を考えていきたい。



資料編

一般社団法人 白樺プロジェクト

北鹿地域林業成長産業化協議会

一般社団法人 国産材を活用し日本の森林を守る運動推進協議会
一般社団法人 林業機械化協会

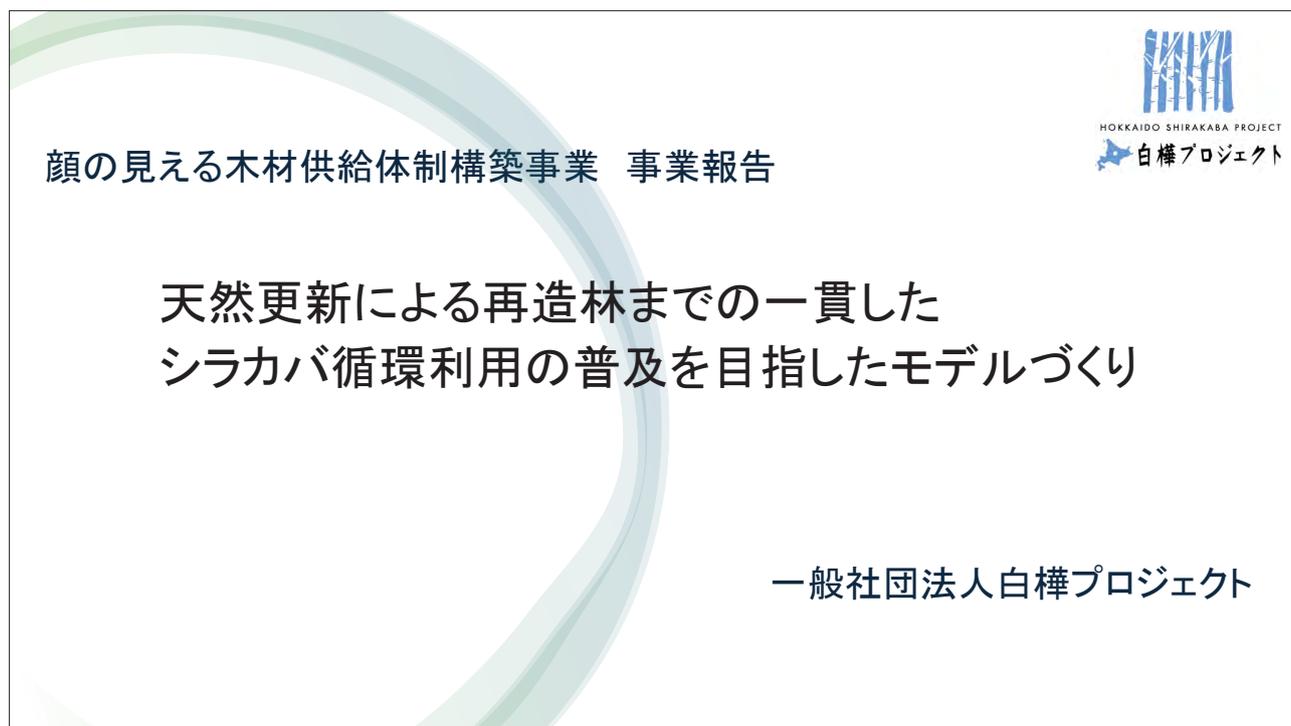
新潟県木材組合連合会

とやま県産材需給情報センター

公益社団法人 石川県木材産業振興協会
能登森林組合

ぎふの木ネット協議会

徳島県木材協同組合連合会



一般社団法人白樺プロジェクト 事業報告

「天然更新による再造林までの一貫したシラカバ循環利用の普及を目指したモデルづくり」

1. 白樺プロジェクトの紹介

- ・2018年秋に、**産官学**の有志のメンバーで発足
 - (産)家具・建築・建築資材流通関係者、デザイナー(プロダクト、グラフィック)
 - (官)北海道立林産試験場研究員
 - (学)北海道大学研究林教授、静岡大学経済学部教授
 - (協力者)その他、林業者、クラフト作家、ハーブ農家、大学森林サークル学生など
- ・「シラカバを北海道の持続可能な地域資源として再評価し、**産業として文化として地域に根付かせる**」ことが目標
- ・シラカバを人の手で「育てる」と、高付加価値で「使う」の、両輪の活動



一般社団法人白樺プロジェクト 事業報告

「天然更新による再造林までの一貫したシラカバ循環利用の普及を目指したモデルづくり」



2. 事業の背景と目的

<背景>

- ・比較的資源に恵まれているとされる北海道でも、**優良な広葉樹資源が減少傾向**。
- ・広葉樹の中でも比較的人の手で育てやすい**シラカバが持続可能な地域資源**になりうる。

<目的>

- ・高付加価値化と**産官学連携**により、**シラカバの循環利用の普及**を目指す。

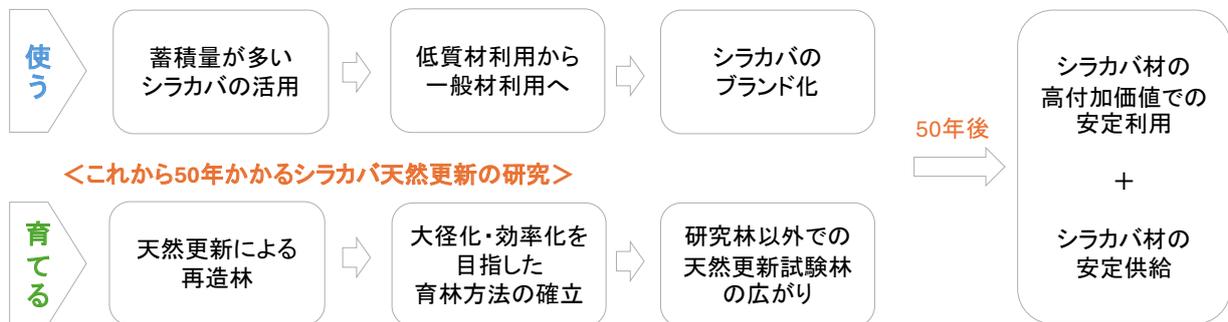
一般社団法人白樺プロジェクト 事業報告

「天然更新による再造林までの一貫したシラカバ循環利用の普及を目指したモデルづくり」



2. 事業の背景と目的(図式化)

<50年後も高付加価値で使い続けられる仕組みづくり>



北海道の地域性に合った
低コストで生態系への負
荷の少ない広葉樹施業

シラカバならではの
製品づくり、空間づくり
木一本まるごと利用

持続可能な森林経営
と
シラカバの循環利用



2. 事業の背景と目的(シラカバ循環利用のイメージ1・・・「育てる」)

- ・シラカバの伐採適齢期は40年～50年生と考えられる(寿命は80年～100年程度)。
- ・大径化を目指すと言っても、胸高直径30cm以上になるものは少ない。
20cm～30cmが大半(天然のシラカバ林では、一般的に20cmを超えるものは2割以下)
- ・再造林・育林に関して、天然更新のメリットを活かし、**低コスト・省労力で、生態系への負荷が少なく、北海道の地域性に合った方法**を目指す。
- ・シラカバ天然更新の研究自体は40年以上前から行われており(素材生産ではなく、森林化するため)、近年は掻き起こしに「**表土戻し**」という技術を加えて、**従来より成長を促進**できている。
- ・これからは、**除伐や間伐を効率的に行うための技術開発**を行う予定。



2. 事業の背景と目的(シラカバ循環利用のイメージ2・・・「使う」)

- <以前のように優良な広葉樹が豊富にあるときは考える必要はなかった問い(?)>
- ・もともと未利用材で、小径にしかない木をあえて使う必要はあるのか？
使ったとしても、うまくいくのか？
 - ・材料としての特別な優位性がないと消費者から支持されないのか？
 - ・仮に高付加価値で使われたとしても、一過性に終わらないか？

一般社団法人白樺プロジェクト 事業報告

「天然更新による再造林までの一貫したシラカバ循環利用の普及を目指したモデルづくり」



HOKKAIDO SHIRAKABA PROJECT
白樺プロジェクト

2. 事業の背景と目的(シラカバ循環利用のイメージ3・・・「事業の背景」)

- ・広葉樹の需要と供給については、今後はどのような見通しか？
広葉樹に限っては国内自給率は1割に満たないと言われている。
- ・森林王国北海道に広葉樹は十分あるのか？ これからも出材し続けるのか？
- ・量的な問題と、質的な問題、樹種の多様さの問題もある。
おそらく小径木が増えていく。小径木でも伐り出し続けられるのか。
出材コスト、製造コストが増え、低生産性の悪循環に陥らないか？
- ・生態系、地球環境への課題はどうか？

一般社団法人白樺プロジェクト 事業報告

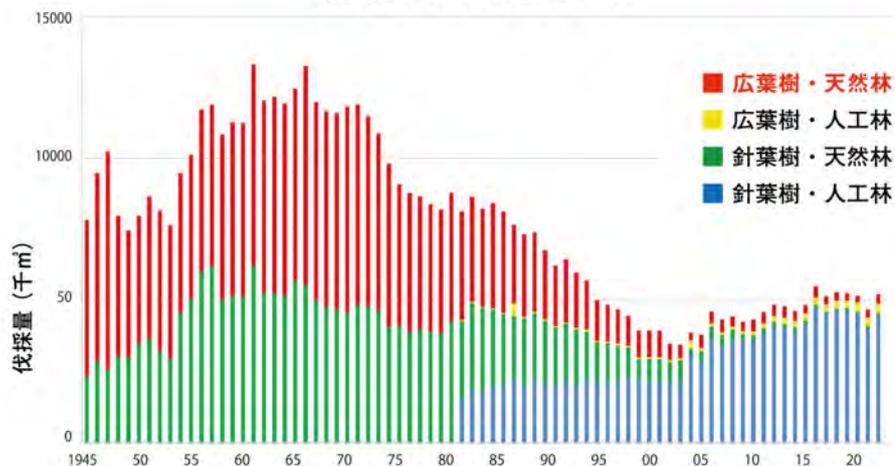
「天然更新による再造林までの一貫したシラカバ循環利用の普及を目指したモデルづくり」



HOKKAIDO SHIRAKABA PROJECT
白樺プロジェクト

2. 事業の背景と目的(シラカバ循環利用のイメージ4・・・「統計1」)

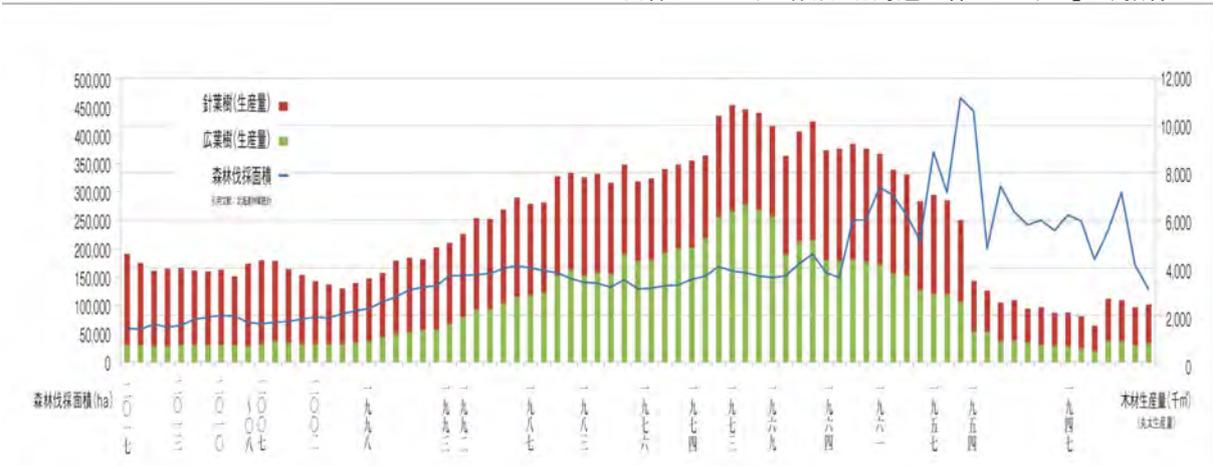
北海道の森林伐採量 千 m^3 北海道林業統計から作成



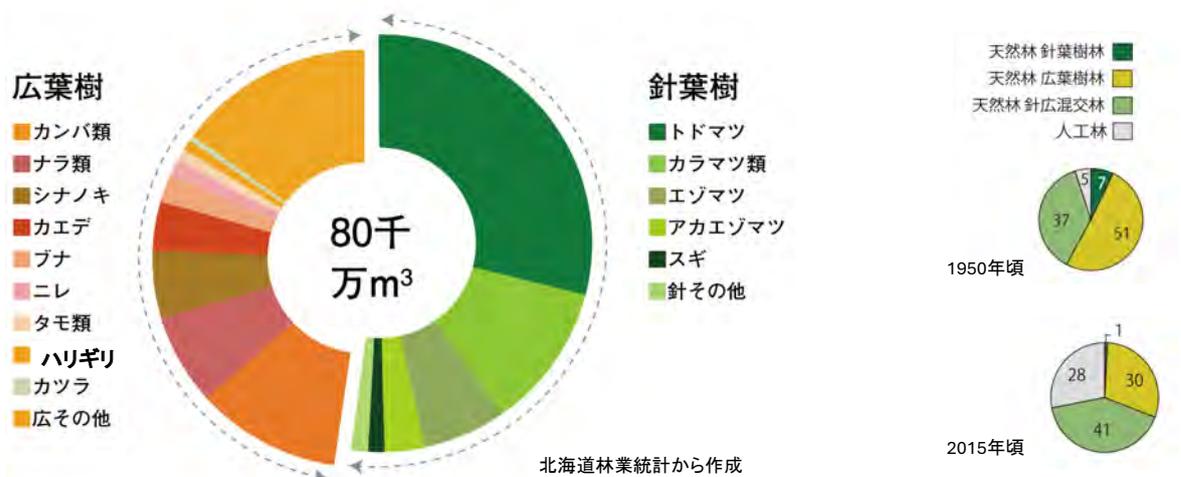


2. 事業の背景と目的(シラカバ循環利用のイメージ5・・・「統計2」)

白樺プロジェクト作成「北海道の森ストーリー」より抜粋



2. 事業の背景と目的(シラカバ循環利用のイメージ5・・・「統計2」)



一般社団法人白樺プロジェクト 事業報告

「天然更新による再造林までの一貫したシラカバ循環利用の普及を目指したモデルづくり」



HOKKAIDO SHIRAKABA PROJECT

2. 事業の背景と目的(シラカバ循環利用のイメージ6・・・シラカバの可能性) 白樺プロジェクト

・従来未利用材で、小径にしかないシラカバの可能性

- ①木一本まるごと利用できる(幹以外にも、外樹皮、内樹皮、樹液、葉、枝、小径木)
 - ⇒ 文化・産業としての広がり、間伐主伐以外の収益源、多面的な人の関わり創出
- ②人の手で育てられる広葉樹(パイオニアツリー、早生樹、自生種)
 - ⇒ 低コスト・省労力の持続可能な森林経営、生態系への負荷が少ない林業
- ③北国北海道のイメージを彷彿させる、誰もが知っている木(北方林を構成する重要樹種)
 - ⇒ 地域性を持ったブランド化、木製品以外のデザイン、地域のアイデンティティの象徴

一般社団法人白樺プロジェクト 事業報告

「天然更新による再造林までの一貫したシラカバ循環利用の普及を目指したモデルづくり」



HOKKAIDO SHIRAKABA PROJECT

2. 事業の背景と目的(シラカバ循環利用のイメージ7・・・循環利用の可能性) 白樺プロジェクト

・未利用材だったシラカバ材の製品が支持され、循環利用が普及するには

- ①小径で、材料に他の材料にはない優れた性質がなくても「売れる・使われる」仕組みに挑戦する
 - ⇒ (これまで)樹皮を活かしたデザイン、北国らしい空間、振動特性を利用した楽器製作、他
- ②「育てる」背景を伝える
 - ⇒ 北海道の森林について考える ⇒ シラカバ利用が一つの有効な選択肢である
 - 「育てる」と製品が結びつく仕組みづくり
- ③シラカバの材質としては、柔らかさはあるものの強度的には十分(クルミやサクラと同等)
 - ⇒ 蓄積量が多い、人の手で育てられて安定供給可能 ⇒ スタンダード的な位置づけ
 - ⇒ 大事なものはデザイン





3. 事業内容の報告 (2024.7~2025.2)



3. 事業内容の報告

①森林ツアー(夏) 「森林ツアーと樹皮採集ワークショップ」

7月5(土)~6日(日) 北海道大学雨龍研究林(北海道幌加内町) 参加50名

⇒天然更新の実際について見て感じてもらった、他地域(長野、岩手)の取り組みの交流



北海道の原生林(森のすがた、遷移)



掻き起こし(天然更新補助作業)



7年生天然更新施業地



夜の発表会、交流会



伐採予定のシラカバ林



樹皮採集ワークショップ

一般社団法人白樺プロジェクト 事業報告

「天然更新による再造林までの一貫したシラカバ循環利用の普及を目指したモデルづくり」



HOKKAIDO SHIRAKABA PROJECT
白樺プロジェクト

3. 事業内容の報告

①森林ツアー(冬) 「冬山造材見学と原生林散策ツアー」

1月17(金)~18日(土) 北海道大学雨龍研究林(北海道幌加内町) 参加31名
⇒ シラカバ丸太の付加価値向上への取り組みの理解



仕分された丸太



用途を決め、玉切り(付加価値)



シラカバ丸太断面と刻印



原生林散策



密度管理について学ぶ



除伐体験

一般社団法人白樺プロジェクト 事業報告

「天然更新による再造林までの一貫したシラカバ循環利用の普及を目指したモデルづくり」



HOKKAIDO SHIRAKABA PROJECT
白樺プロジェクト

3. 事業内容の報告

②サイエンスカフェ(楽器) 「みつゆき 白樺アイリッシュハープ演奏会」

10月4(金)北海道東川町約50名、10月5日(土)大丸札幌店6Fグリーンパティオ約60名
⇒ 身近なシラカバ材が楽器にも使われることで、再評価へのきっかけ



東川町演奏会



白樺ハープ誕生の話



音で木を感じる(癒しの楽器)



札幌大丸百貨店



シラカバの家具でくつろぎながら



ハープ奏者みつゆき

一般社団法人白樺プロジェクト 事業報告

「天然更新による再造林までの一貫したシラカバ循環利用の普及を目指したモデルづくり」



HOKKAIDO SHIRAKABA PROJECT

白樺プロジェクト

3. 事業内容の報告

②サイエンスカフェ(野球道具)「野球道具のモノづくりと、道産カンバ材の可能性を考える」

2月26日(水)北海道大学総合博物館 30名

⇒ 森林や木材に関心がそれほどでもない人に、野球から関心をもってもらえた



(株)ONE4ALLの松坂CEO



あいさつ



ダケカンバ・バット(シラカバの近縁種)

現在はメープル材(輸入材)が主流

過去の道産アオダモ利用の話も



質疑応答



参加者は30名程度

一般社団法人白樺プロジェクト 事業報告

「天然更新による再造林までの一貫したシラカバ循環利用の普及を目指したモデルづくり」



HOKKAIDO SHIRAKABA PROJECT

白樺プロジェクト

3. 事業内容の報告

②サイエンスカフェ(協働)

「AALTOトーク&映画上映会」

9月1日(日)東川町

Artek社(フィンランド)と協働 約160名

～同じ北方林でのシラカバ利用の比較～

⇒ 共通するシラカバでフィンランドの話が身近に感じられた、との声も

「森のバトン地域材ミーティング」

10月21(月)～22日(火)岐阜県飛騨高山

第1部「森から考えるものづくり」 約50名

第2部「これまでとこれから」 約40名

～各地の地域材の取り組みの交流～

⇒ 各地域の固有の事情から、取り組みの多様性をお互い認識し、客観的に考えることができた。



一般社団法人白樺プロジェクト 事業報告

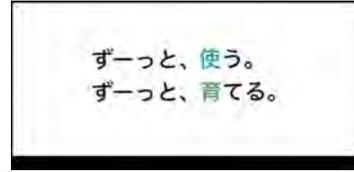
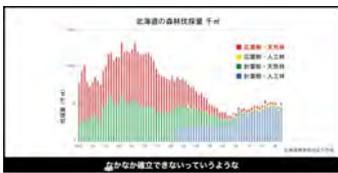
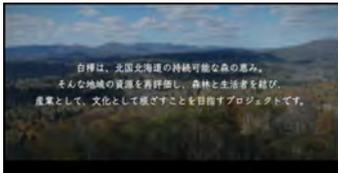
「天然更新による再造林までの一貫したシラカバ循環利用の普及を目指したモデルづくり」



HOKKAIDO SHIRAKABA PROJECT
白樺プロジェクト

3. 事業内容の報告

③動画制作 …インタビュー動画を中心に



一般社団法人白樺プロジェクト 事業報告

「天然更新による再造林までの一貫したシラカバ循環利用の普及を目指したモデルづくり」



HOKKAIDO SHIRAKABA PROJECT
白樺プロジェクト

3. 事業内容の報告

④試作品製作(3社製作)



【樹凜工房】
リビングセット
(ソファ、センターテーブル)
ホームユース
「偽芯を活かしたデザイン」



【シロロデザインスタジオ】
ホテル客室小物(小引出、ティッシュボックス、ソープディッシュ)
「異素材(人工大理石)との組み合わせ」

【木と暮らしの工房】
譜面台、ウマ・ワークテーブル
「フォールディング(折りたたみ)」



【他に、展示会用】
樹皮の鉢カバー+シラカバ小径木、シラカバ立木の什器



3. 事業内容の報告

⑤展示会出展

ギフトショー/LIVING & DESIGN 2月12日(水)～14日(金) 東京ビッグサイト
総来場者数224,401人(うちLIVING & DESIGN出展南ホール45,431人) 総出展社数2,728社
⇒ メンバー3～4名が常時対応したが、ずっと話しているような状態で、手ごたえを感じました。



- ・メッセージ1「シラカバは北海道の持続可能な地域資源」
- ・メッセージ2「始まっています。シラカバ天然更新の50年の研究と、50年後も使われ続ける仕組みづくり」
- ・動画上映
- ・「ベストブースデザイン賞」受賞



4. 事業実施により得られた効果

<「育てる」を伝えるための礎づくり>

- ・北海道大学雨龍研究林ではシラカバ天然更新の試験林が、研究棟から近い国道沿いの一般の人でも観察しやすい場所**で始まります**。
- ・タイミングとしては、その場所で夏の森林ツアー(伐採前)、冬のツアー(冬山造材)を行うことができ、動画に記録も残せ、これから50年にわたって行われる試験林での研究を伝え続けていく**礎ができました**。

<「使う」を伝える試み>

- ・シラカバ天然更新の長年続く研究に関心を寄せてもらうことと、50年先も高付加価値で使われる仕組みづくりを伝えていくために、北海道内では**森林ツアーやサイエンスカフェ、首都圏で大きな展示会に出展**させてもらいました。
- ・6年ほど前まではほとんど高付加価値で使われてこなかったシラカバ材ですが、試作品を通して**新たな魅力ある製品づくり**を広げ、製品だけではなく**シラカバらしい空間づくり**をアピールしたいと考えていたのですが、結果的に東京の展示会では700社以上の展示ブースから2社だけ選ばれる**「ベストブースデザイン賞」**を頂くことができました。

<若い世代への訴求>

- ・プロジェクトの活動を50年後も引き継ぐために若い世代に訴求する必要性がありましたが、**森林ツアーでは大学森林サークル学生にも計画段階から参加**して頂き、**動画撮影でも3名の森林に関心のある若い世代に動画撮影、編集を主体的に**やってもらうことができました。

一般社団法人白樺プロジェクト 事業報告

「天然更新による再造林までの一貫したシラカバ循環利用の普及を目指したモデルづくり」



HOKKAIDO SHIRAKABA PROJECT
白樺プロジェクト

5. 今後の課題と次年度以降の計画

<「育てる」を伝え続ける、研究林以外にも試験林を広める>

- 北海道大学雨龍研究林の試験林では今夏より、伐採跡地でシラカバ天然更新による更新作業が始まります。
- その場所で森林ツアーを今後も重ねていき、記録動画の撮影を続け、今後もより多くの人に長い時間のかかる森林更新作業について体験や学びを提供していきます。
- 研究林以外でもシラカバ天然更新の試験林が広がるために、育てると使うの活動をより魅力的にしていきます。

<「使う」と「育てる」がつながる仕組みづくりを>

- シラカバ天然更新の試験林が広がるためには、シラカバ材がこれまで以上に消費者に支持され続ける必要があります。魅力的な製品づくり、空間づくりだけではなく、背景が伝わって製品と紐づけられる仕組みづくりを考えていく予定です。

<活動の継続性の強化と世代交代>

- プロジェクトは法人化しているものの参加有志の会費によってのみ運営されており、専門性を持った会員が各自の仕事しながら行う活動のため、脆弱な基盤の上に成り立っています。
- 一過性ではなく50年続く活動をしたいと考えていて、公益と実利のバランスのとれた継続性と魅力のある組織づくりをして、世代交代も進めていきます。

令和6年度 顔の見える木材供給体制構築事業
成果報告会

森林認証林由来の地域産材DLT商品開発 及び DLT地域生産拠点の創出

—美しい森を、
未来の子どもたちへ。—

令和7年3月12日



北鹿地域
林業成長産業化協議会



当協議会は、森林認証
SGEC-FM (グループ認証)
を取得しています

次 第

- 1 事業テーマ・メニュー
- 2 事業実施結果
- 3 今後の課題と展望



大館市観光キャラクター
「はちくん」 ※チェーンソーVer.

1 事業テーマ・メニュー

北鹿地域
林業成長産業化協議会

2

Dowel 木ダボ
Laminated 積層
Timber 木材



簡易な加工工程

- ①木ダボだけで接合する木質素材
- ②穴あけ・ダボ打ちというシンプルな加工工程
- ③接着剤は使いません

写真・図提供：(株)長谷萬

1 事業テーマ・メニュー

北鹿地域
林業成長産業化協議会

3

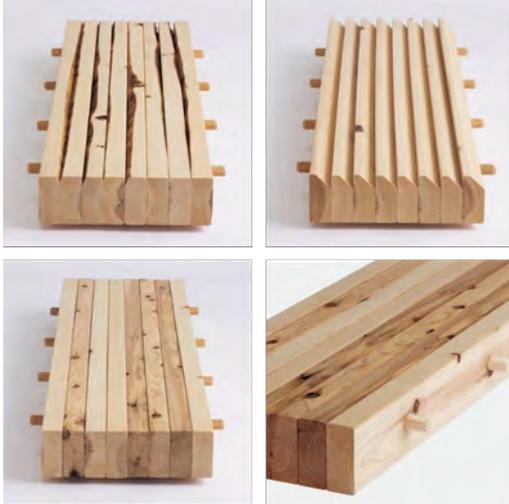


丸身材・皮付き材
を用いたDLT



図提供：(株)長谷萬

**丸身や皮付き材、工場の
デッドストックなど
低質材の活用も可能**



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



化学物質を用いず、環境にも配慮した
SDGsの時代にふさわしい国産材料

写真提供：(株)長谷萬

テーマ

森林認証林由来の地域産材
DLT商品開発及び
DLT地域生産拠点の創出

①森林認証林由来の地域産材DLT商品開発事業

■事業概要：ラミナ及び木ダボを森林認証林由来の地域産材（針葉樹ラミナ、広葉樹木ダボ）へ転換することによるトレーサビリティが確保されたDLT試作・商品開発

②ALL地域産材DLT商品プロモーション事業

■事業概要：地域産材使用DLT商品の展示会出展及びPR活動
■ターゲット：都市部の設計事務所、建設会社、建築主 など

③DLT地域生産拠点創出事業

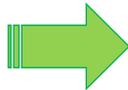
■事業概要：木製簡易ジグ試作、DLT試作、木ダボ試作、構造試験・検証、地域拠点確立に向けたトライアル
■事業目的：DLT地域生産拠点の確立に向けたトライアルを実施し、DLT普及促進及びDLT製造におけるサプライチェーンの完結を目指す。

2 事業実施結果

テーマ ① 森林認証林由来の地域産材DLT商品開発事業



広葉樹丸太



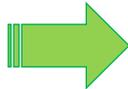
※伝票等に認証番号及び「100%SGEC認証材」であることを記載



SGEC-FM認証



秋田スギ丸太



※伝票等に認証番号及び「100%SGEC認証材」であることを記載



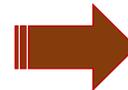
SGEC-CoC認証



※加工及び分別管理
株式会社 沓澤製材所



広葉樹木ダボ



※全加工工程で記録及び分別管理が必要



SGEC-CoC認証

※加工、分別管理及びラベリング取得



最終消費者



北鹿地域
林業成長産業化協議会

写真提供：(株)沓澤製材所、藤島林産(株)、(株)長谷川萬治商店

2 事業実施結果

テーマ ① 森林認証林由来の地域産材DLT商品開発事業

◆ 開発したSGEC認証DLT家具



ラウンジソファ



やまなみベンチ



とわだベンチ

とわだベンチには大館市産の「十和田石」を活用

※十和田石とは大館市内町でのみ埋蔵が確認されている「緑色凝灰岩」



写真撮影：アキテッジ、北鹿協議会事務局

2 事業実施結果

テーマ ①森林認証林由来の地域産材DLT商品開発事業

◆SGEC認証DLT家具設置状況



秋田犬の里（秋田犬展示スペース 入口）

写真撮影：北鹿協議会事務局

2 事業実施結果

テーマ ①森林認証林由来の地域産材DLT商品開発事業

◆SGEC認証DLT家具設置状況



秋田犬の里（受付窓口）

写真撮影：北鹿協議会事務局

2 事業実施結果

北鹿地域
林業成長産業化協議会

10

テーマ ①森林認証林由来の地域産材DLT商品開発事業

◆SGEC認証DLT家具設置状況



秋田犬の里（秋田犬展示スペース 中央）

写真撮影：北鹿協議会事務局

2 事業実施結果

北鹿地域
林業成長産業化協議会

11

テーマ ①森林認証林由来の地域産材DLT商品開発事業【関連事業】

◆森林認証林（SGEC-FM）面積の拡大

認証日 2024年11月27日取得

認証面積 7,328.36ha（グループ／**5メンバー**）

認証種類 FM（Forest Management）認証

認証機関 公益財団法人日本適合性認定協会（JAB）

審査日 令和6年10月29日～11月1日



◀現地審査



書類審査▶

▶評価される観察事項（認証審査クロージングミーティングにて）

- 大館市の単独認証からわずか2年で地域をけん引するグループ認証となり、これまでの事務局の取り組みは大きく評価される。
- 協議会では「森林認証林の施業及び森林認証材の販売に係る協定書」の締結により、認証林からの認証原木をCoC事業体に繋がるよう取組み、また合板会社への認証原木の安定供給体制の構築も進められており、その成果が期待される。

写真撮影：北鹿協議会事務局

2 事業実施結果

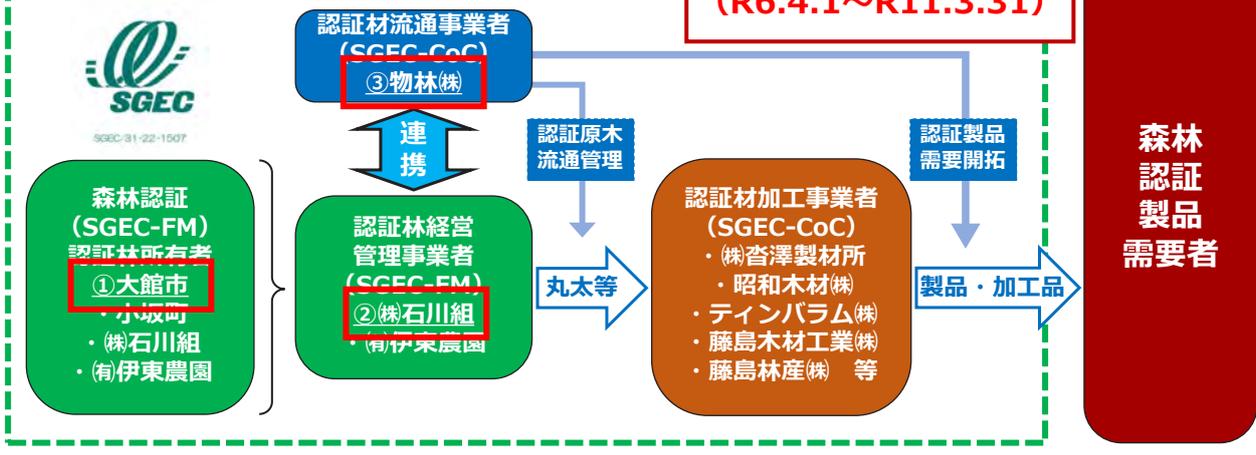
テーマ ①森林認証林由来の地域産材DLT商品開発事業【関連事業】

◆森林認証材の安定供給体制構築

グループ森林管理認証主体（または協定調整機関）

④北鹿地域林業成長産業化協議会

4者協定締結
(R6.4.1~R11.3.31)



2 事業実施結果

テーマ ①森林認証林由来の地域産材DLT商品開発事業【関連事業】

◆森林認証林由来丸太伐出実績 <令和5年9月~令和6年11月>

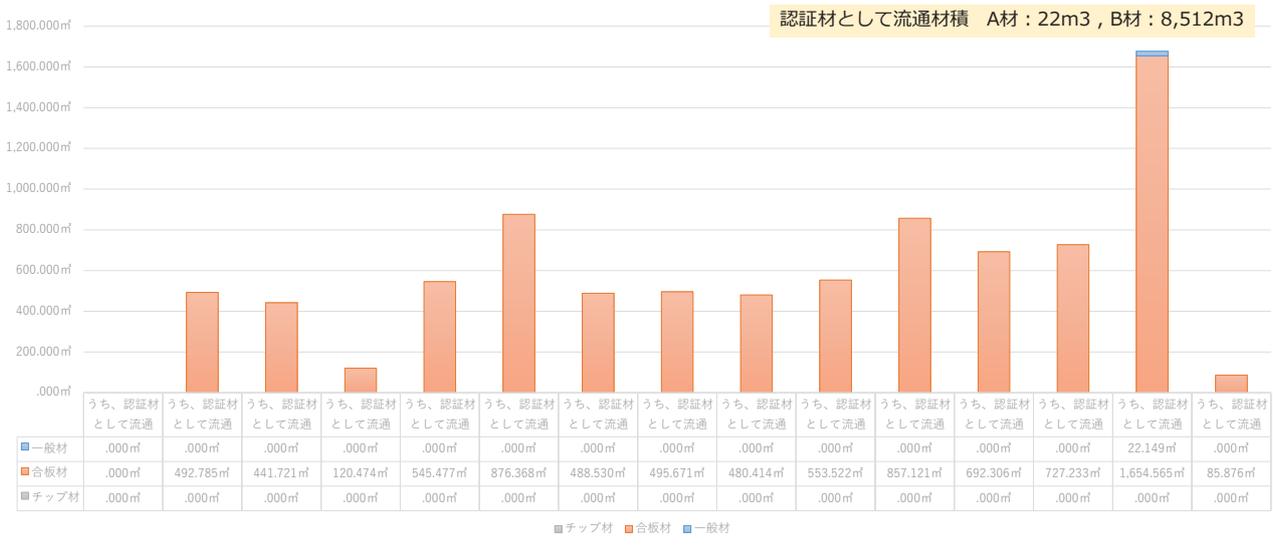
森林認証林由来丸太伐出材積 24,560m³



2 事業実施結果

テーマ ①森林認証林由来の地域産材DLT商品開発事業【関連事業】

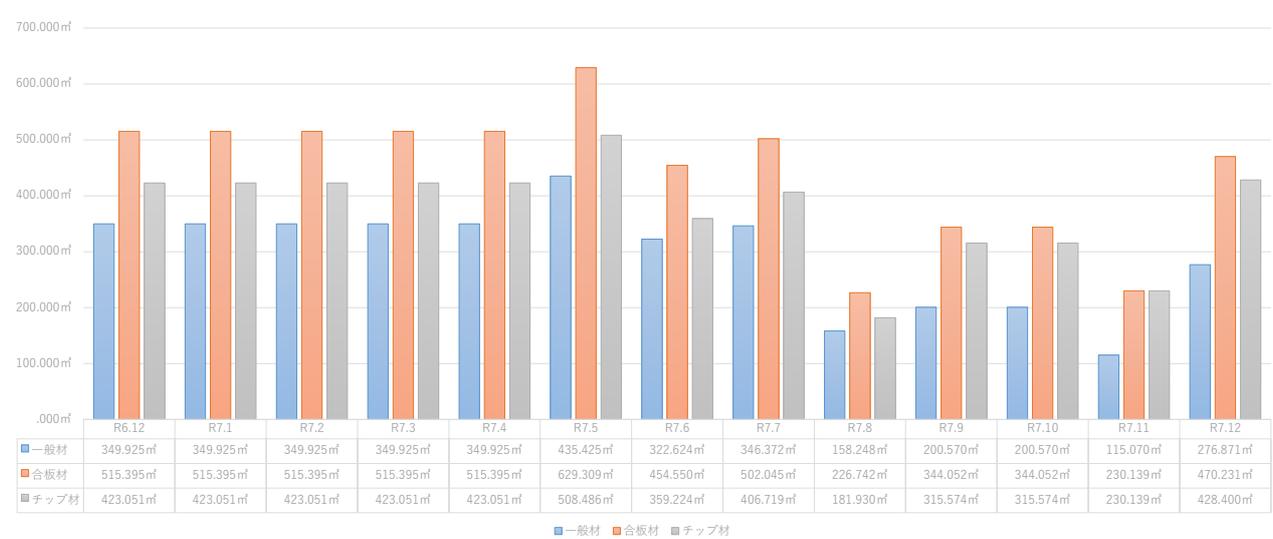
◆森林認証丸太流通実績<令和5年9月~令和6年11月>



2 事業実施結果

テーマ ①森林認証林由来の地域産材DLT商品開発事業【関連事業】

◆森林認証林施業及び供給計画<令和6年12月~令和7年12月>



テーマ ②ALL地域産材DLT商品プロモーション事業

◆出展イベント

①MOCTION AKITA 2024 ※自治体企画展示（秋田県）

- ・会場：新宿パークタワーリビングデザインセンターOZONE 5F
- ・開催期間：令和6年10月24日～11月5日

②Japan Home Show & Building Show 2024 ふるさと建材・家具見本市

- ・会場：東京ビッグサイト
- ・開催期間：令和6年11月20日～22日

③SDGs WeeK EXPO 2024 「エコプロ2024/森と木で拓くSDGsゾーン」

- ・会場：東京ビッグサイト
- ・開催期間：令和6年12月4日～6日

④WOODコレクション（モクコレ）2024 Plus

- ・会場：東京ビッグサイト
- ・開催期間：令和6年12月19～20日

⑤みなとモデル二酸化炭素固定認証制度 木材製品展示会・森と水展示会2025

- ・会場：港区立エコプラザ
- ・開催期間：令和7年1月24日

テーマ ②ALL地域産材DLT商品プロモーション事業

◆出展物品

写真撮影：アキテッジ



やまなみベンチ



やまなみベンチと鳳凰山



ローテーブル



ベンチソファ



ハンガーラック、ガラスシェルフ、ディスプレイテーブル

2 事業実施結果

テーマ ② ALL地域産材DLT商品プロモーション事業

◆ 出展状況

<MOCTION AKITA 2024>

<JH&BS 2024>

<エコプロ2024>

<森と水展示会2025>



写真撮影：北鹿協議会事務局

2 事業実施結果

テーマ ② ALL地域産材DLT商品プロモーション事業

◆ 出展状況

<モクコレ2024Plus>

写真撮影：北鹿協議会事務局



2 事業実施結果

テーマ ②ALL地域産材DLT商品プロモーション事業

■アンケートの実施

- ・ DLT及び森林認証に関するアンケート（WEB）
- ・ アンケート対象者：展示会来場者

■展示会毎の回答者数

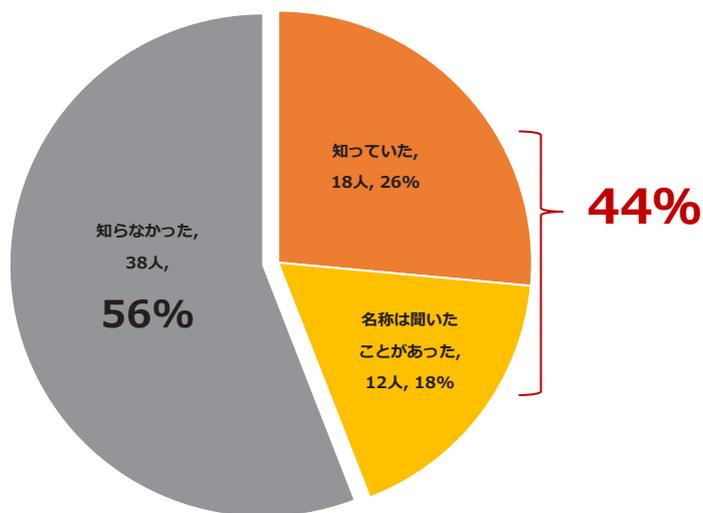
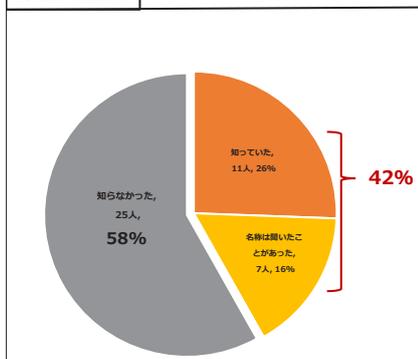
会期	展示会名	回答数
令和6年11月20日（水）～22日（金）	Japan Home Show & Building Show 2024 ふるさと建材・家具見本市	12
令和6年12月4日（水）～6日（金）	SDGs Week EXPO 2024/エコプロ2024 森と木で拓くSDGsゾーン	24
令和6年12月19日（木）～20日（金）	WOODコレクション（モクコレ）2024 Plus	32
計		68

2 事業実施結果

テーマ ②ALL地域産材DLT商品プロモーション事業

DLT認知度

令和5年度実績

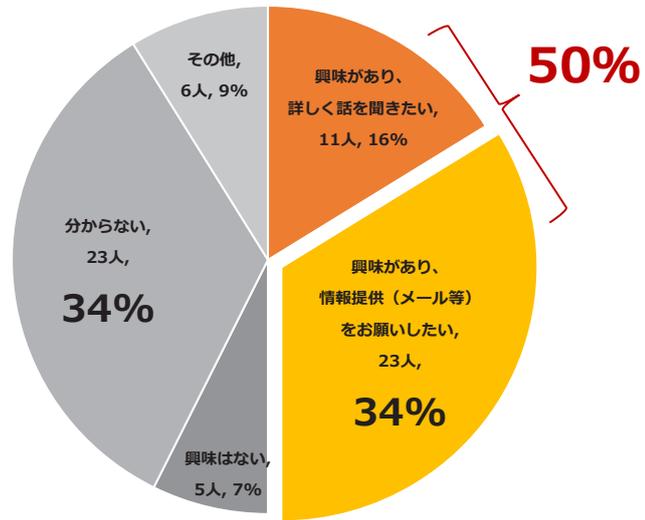
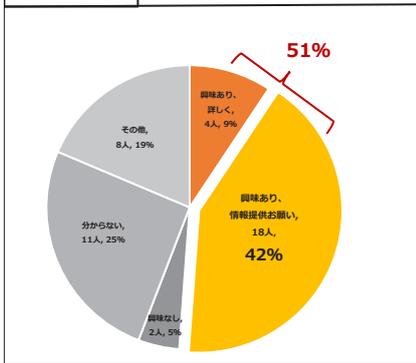


2 事業実施結果

テーマ ② ALL地域産材DLT商品プロモーション事業

DLT関心度

令和5年度実績

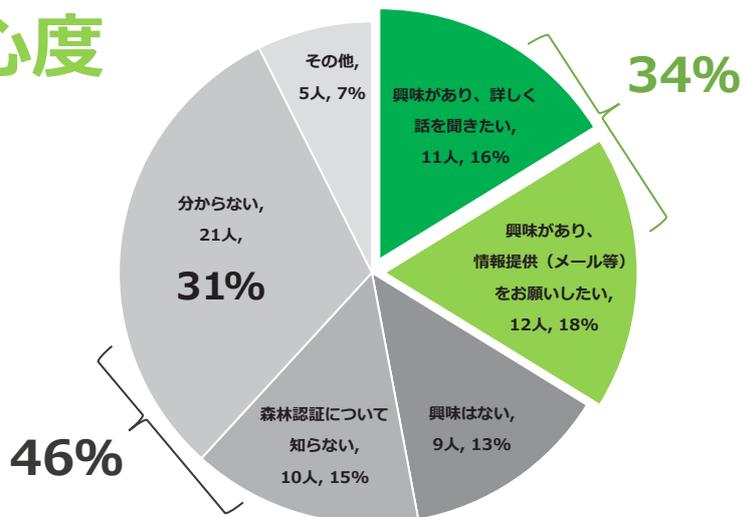
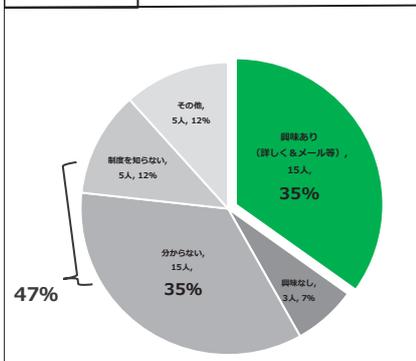


2 事業実施結果

テーマ ② ALL地域産材DLT商品プロモーション事業

森林認証関心度

令和5年度実績



2 事業実施結果

テーマ ② ALL地域産材DLT商品プロモーション事業

■ アンケート・企業訪問意見（一部抜粋）

○ DLTの利用についての意見・要望

- ・木ダボの接合箇所を増やしてでも柱や梁で使えるようになるといい。【工務店】
- ・**木ダボの太さや樹種**によって幅広く用途活用できるとよい。【メーカー】
- ・釘や接着剤不使用という点を活かし、**再利用**にも積極的に取り組んでほしい。【研究機関】
- ・簡易な工法であるため、**DIY**などで一般の利用者にも普及させてほしい。【官公庁・自治体】
- ・不燃性、耐火性等の特性の付与に期待する。【研究機関】

○ 森林認証材（原木または製品）についての意見・要望

- ・森林認証材は積極的に使用したいが、高い経費を支払わずとも認証されるようなシステム作りが望ましい。【商社】
- ・ただの国産材活用はどこ企業もやっている。今後は**トレーサビリティが確保**され、**確実な再生林**と**生物多様性に配慮した森林経営**がなされた山から生産された木材（森林認証材）を積極的に使っていきたい。【デベロッパー】
- ・**森林認証材の安定供給が可能となる仕組み作り**をお願いしたい。【ゼネコン】
- ・森林認証材かつJAS材で機械等級E70のものを安定的に供給できるようであれば構造材として使いたい。【ゼネコン】

2 事業実施結果

テーマ ③ DLT地域生産拠点創出事業

◆ DLT・木ダボ製造実演会 in 藤島木材工業(株)・藤島林産(株)



DLT製造実演会



木ダボ製造実演



DLT製造実演&体験



写真撮影：北鹿協議会事務局

2 事業実施結果

テーマ ③DLT地域生産拠点創出事業

◆木ダボ試作風景



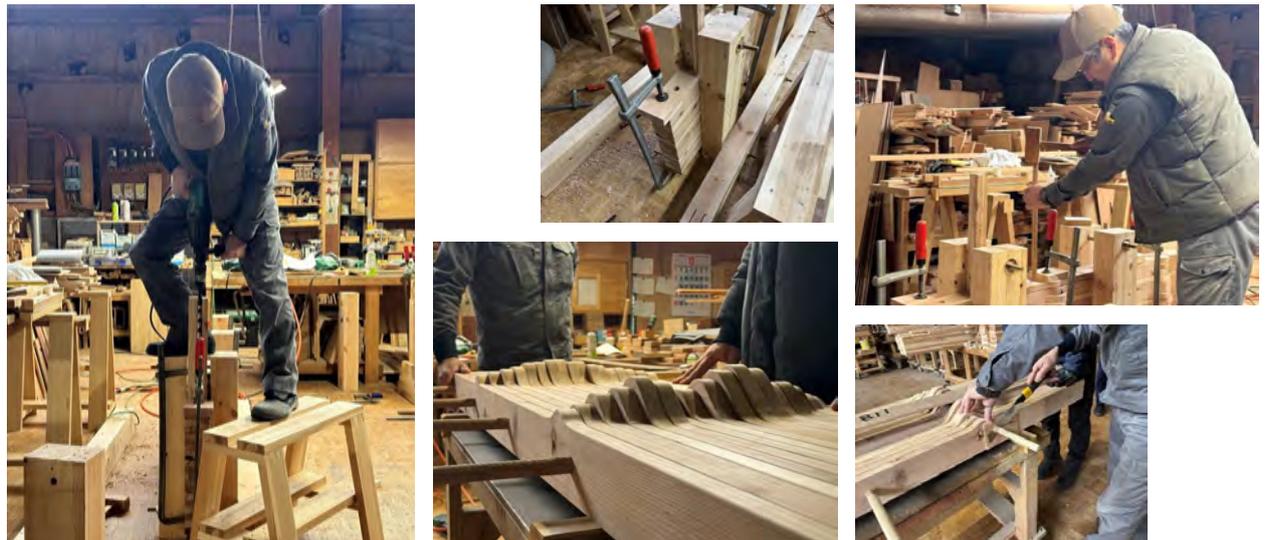
写真提供：藤島木材工業㈱

2 事業実施結果

テーマ ③DLT地域生産拠点創出事業

◆DLT及びDLT家具試作風景

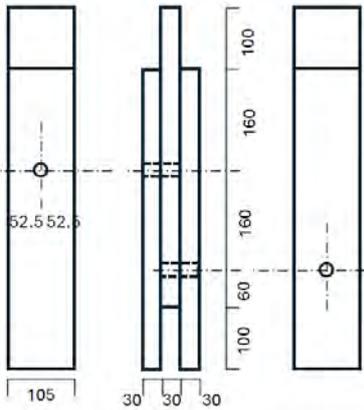
写真提供：藤島林産㈱



2 事業実施結果

テーマ ③ DLT地域生産拠点創出事業

◆ DLT木ダボ有用樹種洗い出し（地域産広葉樹）

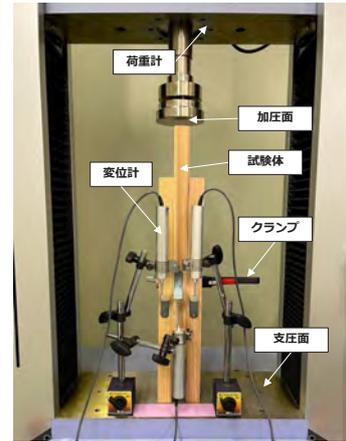


一面せん断試験体図



一面せん断試験体（非認証材）

※地域産材であるナラ、クリ、ヤマザクラ、ケヤキ、オニグルミ、ホウノキの試験体



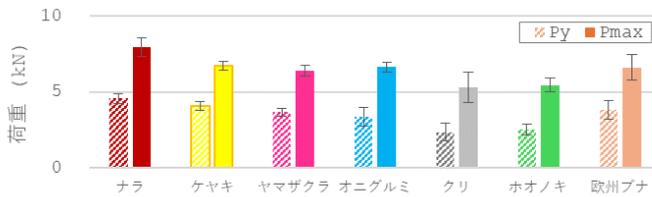
一面せん断試験の様子

写真撮影：北鹿協議会事務局

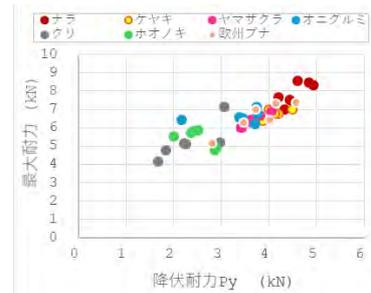
2 事業実施結果

テーマ ③ DLT地域生産拠点創出事業

◆ DLT木ダボ有用樹種洗い出し（地域産広葉樹）



各広葉樹ダボ試験体の降伏耐力Pyおよび最大耐力Pmax（ダボ1本あたり）



降伏耐力Pyと最大耐力Pmaxの関係

試験結果（秋田県立大学 木材高度加工研究所 教授 足立 幸司 氏 より）

- ・秋田県産広葉樹ダボは従来使用されている木ダボと比較しても遜色なく使用できる可能性が高い。
- ・せん断性能は概ね気乾密度に比例するが樹種毎に変形挙動が異なるため適用する部材や構造体の仕様に応じた検証には樹種特性の考慮が重要
- ・ケヤキ・ヤマザクラ・オニグルミといった樹種は初期剛性や最大耐力が似ており、実用上は米国のSPF材のように樹種群として**同一仕様の木ダボとして使用できる見込み**があり、原木供給量が少量・不安定な樹種や未活用樹種の木ダボ原料化への用途が開拓できる可能性がある。

データ提供：秋田県立大学 木材高度加工研究所

3 今後の課題と展望

今後の課題

課題1：地域産広葉樹木ダボの用途開発

地域産広葉樹による木ダボ製造が可能となったほか、欧州ブナ木ダボと比較しても遜色なく使用できることが分かったことから、地域産広葉樹木ダボの用途開発による更なるDLT利用事例の創出が必要。



地域産広葉樹木ダボ

写真提供：秋田県立大学 木材高度加工研究所

3 今後の課題と展望

今後の課題

課題2：DLT製造の簡易化・省力化

DLT地域生産拠点を創出できたが、ドリルが固定されていないことによる穴のズレや木ダボ挿入時のラミナの割れ、複雑なラミナ加工に伴う労務負担の増加が浮き彫りになったことから、DLT製造の簡易化・省力化と併せて新たなDLT地域生産拠点の創出に向けた木材加工事業者との合意形成が必要。



手作業でのやまなみ加工



木ダボ挿入穴のズレ

写真提供：藤島木材工業(株)・藤島林産(株)

今後の課題

課題3：森林認証材の安定供給

森林認証材の安定供給体制を構築したことにより、一定数量認証材を活用してもらえており、またデベロッパやゼネコンからの需要や要望も見えてきたことから、更なる森林認証林面積の拡大に向けた合意形成、特に認証林経営に賛同するプレイヤーの増加が必要。

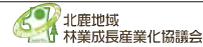
今後の展望

展望1：DLTの強度補強及び軽量化に向けた木ダボの開発、耐力等検証

既存寸法である20mmより径の太い、細い地域産木ダボを開発し、径と形状、樹種による木ダボの強度や接合性能など検証。

⇒DLTの強度補強やDLT家具の軽量化、再利用・DIYへの展開可能性について検証し、商品化を目指す。

3 今後の課題と展望



34

今後の展望

展望2：DLT地域生産拠点の拡大と省力化

- ・通直な穴あけを容易にする簡易ジグの試作と性能検証、シボ加工の形状変更や電動回転ドリルを用いた回転挿入等の試行。
- ・安定的なDLT製造に向け、地域木材加工事業者との合意形成及び技術指導の実施。

⇒DLT製造機導入前の簡易化及び省力化、木材加工事業者毎の強みを活かしたDLT製造による企業競争力の向上を目指す。

3 今後の課題と展望



35

今後の展望

展望3：森林認証林の拡大に向けた合意形成及び協定フィールドの横展開

- ・森林認証林の更なる拡大に向けた森林所有会員へのヒアリング実施（森林組合等）。
- ・新たな協定フィールド（認証林施業及び認証材販売協定）の設定及び会員自治体との協議。

⇒森林認証材の供給量が薄い時期（7～11月）の供給量の増加、公有林丸太を確実に認証材として繋げることを目指す。



伐ったら、植える。
私たちが果たす未来への責務です

ご清聴ありがとうございました

END

一般社団法人 国産材を活用し日本の森林を守る運動推進協議会 一般社団法人 林業機械化協会

顔の見える木材供給体制構築事業 事業報告

持続性が確保された木材流通のための 立木取引（マッチング）の場の整備

一般社団法人 国産材を活用し日本の森林を守る運動推進協議会
一般社団法人 林業機械化協会

1. 事業の目的

<背景>

- ・ 気候変動対策における国際的な法的枠組みとして採択された「パリ協定」等を踏まえ、令和3年10月に「地球温暖化対策計画」が閣議決定され、2030年度の森林吸収量の目標（約3,800万CO₂トン（2013年度総排出量比2.7%））を新たに設定
- ・ 地球環境問題、充実する森林資源等を背景に高まる国民の期待の中、日本林業にとって最も大きな課題は、新たな木材需要の拡大と確実な再生林の実施
- ・ 立木取引においては再生林など持続可能な森林の経営に必要なコストが考慮されていない状況

<目的>

伐って使って植える循環サイクルを実現するため、立木取引を見える化し、木材需要者が持続性担保を確認した上で、森林所有者が納得する価格で購入する場の整備を可能としていくための立木価格の実現

2 有識者委員会

<会議の開催>

有識者委員一覧

区分	所属・役職	氏名
素材生産	(有)佐川運送 代表取締役	佐川 賢司
製材	協和木材(株)代表取締役社長 ※代理 専務取締役	佐川 広興 (佐川 和佳子)
木材利用	京都大学大学院農学研究科 教授	立花 敏
森林経営	全国森林組合連合会 専務理事	富山 洋
森林経営	宮崎大学 農学部 教授	藤掛 一郎
流通	ナイス株式会社 資材事業本部	宮代 博幸

会議の開催

日程等	主な議題
第1回 令和6年7月 (書面)	1 背景 2 立木取引システムのイメージ 3 今年度の事業の進め方事業の背景と方向性
第2回 令和6年10月28日 (林友ビル)	1 これまでの取組状況と今後の動きについて 2 出品物件の内容について 3 質疑 出席：委員4名、オブザーバー8名
第3回 令和7年1月31日 (TKP 飯田橋ビジネスセンター)	1 試行実施とインターネットサイトの運営 2 出品者等からの状況報告 3 質疑 出席：委員6名(代理を含む)、出展者等3名、オブザーバー7名

<主な議論>

- 掲載物件の希望最低価格について（調査費用、再造林費用(補助金の扱い)、現場の担当者は価格が一桁違うとの認識、価格は森林所有者が設定など）
- 立木の新しい買い方について（詳しくない森林所有者へのハードルの低さが重要、地域企業の持続経営への配慮が必要、大規模なゼネコン、ビルダーは数年先の資材確保が可能、素材生産業者や製材業者などとのネットワークや立木の仕分けに関するコーディネート機能が重要など）
- 再造林の確保について（銀行に信託口座を作り一旦再造林の経費を預け、再造林の実施を証明したら造林経費を引き出せる方式など）
- 持続性が担保された木材の評価について（「持続可能性木材ブランド」の確立が必要、「持続可能な国産材マーク」の新設の検討、首長など民間の評価や見方が急速に変化、国交省の建築物等整備推進事業の補助要件に再造林に資するものとの規程、立木市場の取り組みをゼネコン等の話題に）

3 試行の実施

<各種働きかけ>

県名	出品及び購入候補者等	働きかけの実施状況	対応等
高知県	・北川村、高島村、高森連、香美森林組合、山林協会、志木達、県庁、津野町、仁淀川町、「仁淀川林産協同組合」、「高知県再造林推進会議」ほか	・各首長及び担当者等への説明及び意見交換・質疑等 ・情報誌の記事の紹介及びリーフレット・パンフレットによる説明など	・仁淀川町から町有林の出品について、条件整備の上、第1号として高知県、川崎重工(株)、仁淀川町による「協働の森」の一部を出品。現地案内(2回)を実施 ・以降、官行造林地等の出品を検討 ・「佐佐木業クラブ」での説明会(12/5)
福島県	・古殿町役場 ・個人有林(郡山市)の出品希望の相談あり ・公募により集まった参加者23名に 対し説明(福島市内)	・担当者に対し、出品のための具体的な事務の流れなども含め説明 ・リーフレット等により説明	・町内で会計上の取り扱いを調整 ・第1号物件の出品に続いて、2件目の条件整備に着手。現地案内を実施 ・個人所有者の出品意向が個別説明
山口県	・県庁、東海連、山口西部森林組合、「リフォレながと」、長門市、製材会社(下関市)ほか	・県庁、長門市などの担当者への説明(地元森林組合の理解・協力の必要性・重要性について指摘あり)	・地域での説明会の開催の可能性を検討 ・「リフォレながと」は前向きに自身の役割等を検討
長野県	・県庁 ・根羽村	・「沼州の木活用課」が主体となって県内市町村の中から候補地を選定・推薦することと合意 ・根羽村で県、村、森林組合等と打合せ	・根羽村は出品の具体的なやり方等を引き続き検討 ・購入者は古屋園の需要となる可能性が高いことから、東海地方木材関係者等への説明を検討 ・今後とも情報提供を実施
岩手県	・西和賀町 ・岩手県森林組合連合会	・町内は航空レーザー測量ほぼ100%だが、森林が小規模・分散のため、現段階での仕組みに難し ・市況が悪い中では説明された立木市場の仕組みが動くとは思えない。 ・いわゆる Business to Consumer の関係づくりの意味は新しく有意義 ・県森連総会で講演	

<出品物件>

番号	場所	樹種	林齢	面積	材積	最低価格	締切日
4	高知県香川郡仁淀川町	スギ	55年生	2.14ha	1,333m3	1,265万円	2025/1/31
5	福島県石川郡古殿町	スギ	74年生	1.77ha	939m3	1,342万円	2025/3/31

<結果>

- 12月2日から一般公開(ユーザー登録)を開始し、1月末までに471人2,914回のアクセスはあったが、成約には至らなかった。

4 サイトの運営

<管理者の習熟>

- ・ サイト委託先による操作方法の研修を両協会関係者が受講
- ・ 委託先のサポートを活用して、2物件の掲載、情報の追加等を適切に実施

<改善>

- ・ サイトにFAQタグを新設
- ・ サイトへのアクセシビリティ向上のため国活協HPに立木市場タグを新設

<結果>

- ・ ユーザー登録者数が12名に止まっており、出品数の大幅な増加が課題



5 来年度以降の取り組み

- ・ サイトの運営は、「一般社団法人国産材を活用し日本の森林を守る運動推進協議会」が通常の事業として行う。
- ・ サイトへのアクセシビリティの向上、判りやすい広報に努め、出品者、買受希望者等を増加させていく。
- ・ 試行ではなく民民の取引の場として本格的に展開していくことから、サイトの整備等に対する支援は補助事業には求めない。
- ・ 持続可能木材に対する業界関係者や一般国民の意識向上と需要喚起の取り組み、持続可能木材を対象とした国産材マークの普及などとの連携に努めることとし、関連する補助事業など適切な財源や支援を求めることも検討する。

公共施設木造・木質化に向けた地域材供給体制整備



ほたるの里交流館
新潟市西蒲区福井地区(H17)

新潟県木材組合連合会

1

事業の目的

新潟市西蒲区の角田山(峰岡林業)では明治中期よりスギの植林がはじめられた。大正期には早期伐採の林業地として全国的に有名となり視察や品評会も頻繁に行われるようになった。

隣接する多宝山(西山林業)でも同様に大正時代より林業が盛んとなり、目が細かく、太さが一定で質の高い「西山杉」として有名となった。

両地区とも戦後の住宅復興需要期に最盛期を迎えたが、昭和40年代以降、木材生産が停滞し、手つかずの状態が続いたものの、現在、利用可能な高齢級の優良な森林を豊富に有している。

このため、現在計画されている、西蒲区役所新庁舎の木造・木質化の推進を機に、西蒲区内林業の再来を目指すべく、地域の木材流通の川上から川下までの各段階における現状の認識、課題解決に向けた各種取組を実施し、地域材供給体制の基盤づくりを行うものとし、最終目標である、伐って、使って、植えて、育てる循環型林業の確立に向けて取組を進めるものとする。 2

西蒲区役所新庁舎基本構想

新潟市「西蒲区役所新庁舎基本構想」
令和6年5月より



- 基本構想**
 - ・新庁舎建設にあたっての指針となる基本的な考えを示します。
 - ・基本方針、建築位置、導入する機能などを検討します。
- 基本設計 実施設計**
 - ・工事を実施するための設計を行います。
 - ・デザイン、構造、設備の検討、設計図・設計書の作成、事業費の確認などを行います。
- 建設**
 - ・設計に基づき、新庁舎を建設します。

基本構想の位置づけ

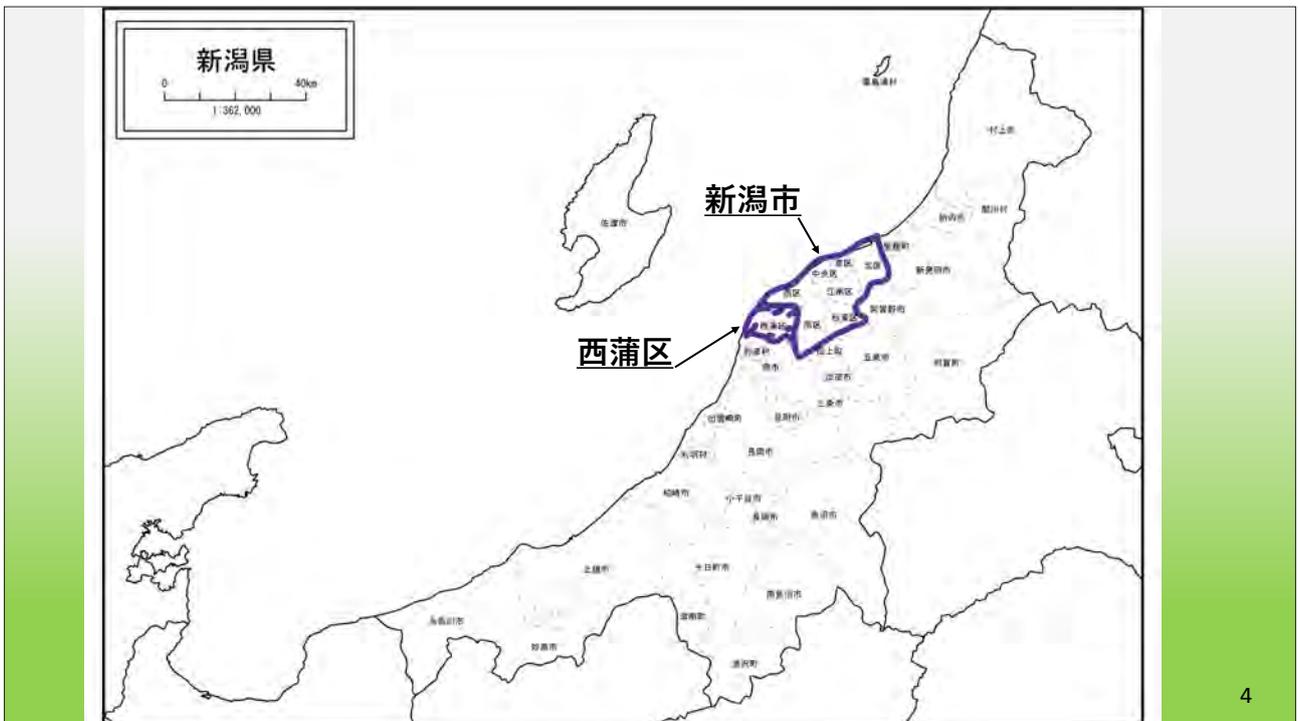
(4) 西蒲区らしい特色や特徴を取り入れた庁舎

これからつくる西蒲区役所についてのアンケート結果を踏まえ、木材をはじめとした自然や各地区の歴史文化、観光資源など西蒲区らしい特色や特徴を取り入れて整備します³

令和6年5月

新潟市

西蒲区役所 地域総務課





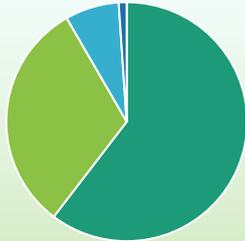


新潟市西蒲区の森林(人工林)の現状

■ スギ 61% ■ クロマツ 31% ■ アカマツ 7% ■ その他広 1%

旧巻町 (峰岡林業)

人工林樹種別
(人工林率 55%)



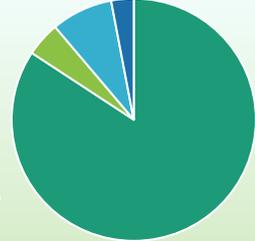
旧巻町 (峰岡林業) スギ人工林年齢別面積(ha)



■ スギ 84% ■ クロマツ 5% ■ アカマツ 8% ■ その他針 3%

旧岩室村 (西山林業)

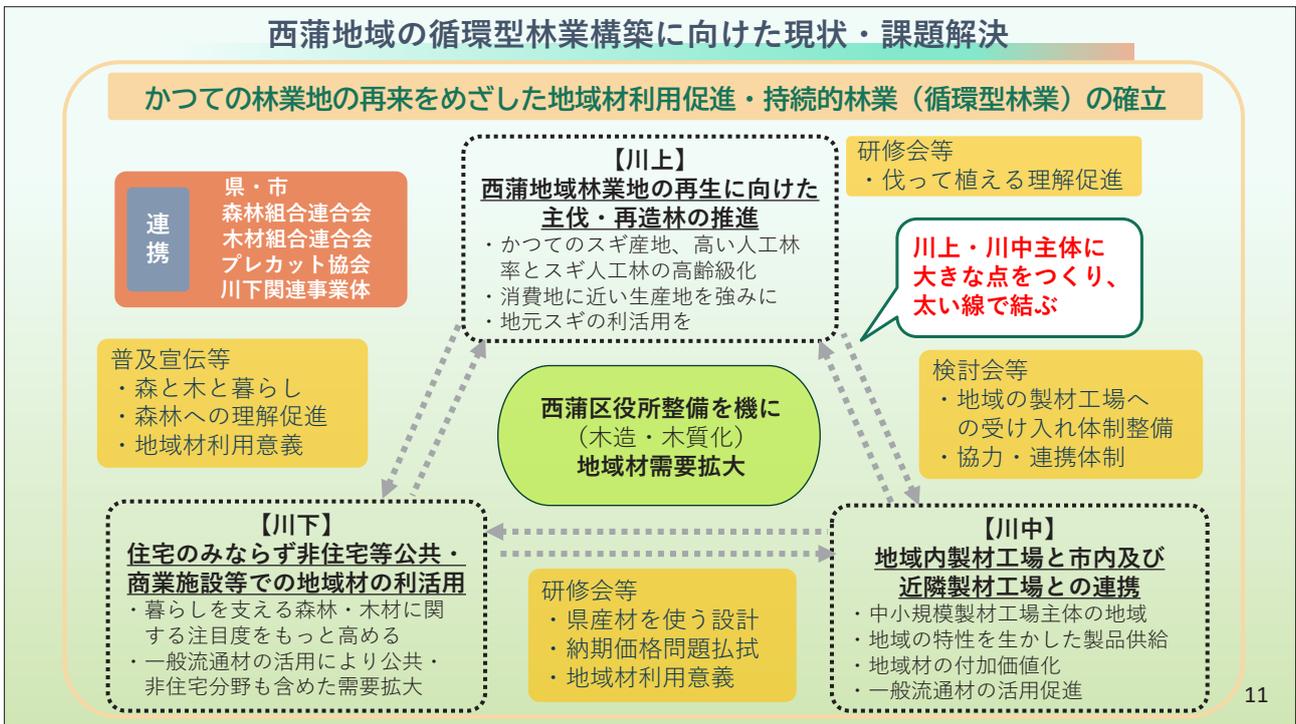
人工林樹種別
(人工林率 30%)



旧岩室村(西山林業)スギ人工林年齢別面積(ha)



磨き丸太の生産状況 (H16頃)
(ふるさとの森を育む家づくり：新潟市作成より)



主伐・再造林研修

令和6年11月15日

〔現地研修〕 長岡市日野浦地内

〔室内研修〕 長岡市ニュータウンセンター

西蒲地域は消費地に近い地の利を活かすことで、主伐・再造林の低コスト化も十分可能な地域であり、地域内の安定した素材供給並びに循環型林業の推進に向け、近隣森林組合の主伐実施個所において研修会を実施



主伐現地



講師：中越よつば森林組合
富山県西部森林組合

12

木材利用推進セミナー

令和6年10月29日 会場：新潟ユニゾンプラザ

一般流通材と住宅用プレカット等の活用により経済的かつ地域の製材工場等が参加しやすい、非住宅等の木造化の推進や普及を目的としたセミナーを開催



Life with Wood
～木と暮らし、木と生きる～

木材利用推進セミナー

非住宅・中大規模建築物の木造化を考える

Real / Outline

事前申込 参加費無料

13:30 開会

13:40 講演 一般流通材を活用した地域の低層非住宅の木造化

講師 功刀友輔氏 (一社) 中大規模木造プレカット技術協会理事

15:20 講演 既製品金物の活用と木造化のターゲット (中小規模低層建築物)

講師 山田 聖史氏 南タツエ 商品企画開発チーム主任

2024.10/29 日 会場 新潟ユニゾンプラザ 大会議室
定員 現地60名/オンライン100名(ZOOM配信)

申し込み方法
1. 会場参加
2. WEB参加

13 新潟県木材組合連合会 新潟県木造住宅機械プレカット協会 新潟県木造住宅機械プレカット協会

公共建築物等現地検討

日時：令和6年12月13日
会場：ラポルテ五泉

公共建築物の木造・木質化や木材の利用促進に向け、地域材を活用した施設において、県及び市町村の建設担当者等向けに県の施策や木材利用に関する検討会を実施



ラポルテ五泉
(五泉市パンフレットより)

室内研修
(多目的室)



ガレリア 及び
上部子供の遊び場



多目的ホール

新潟駅構内及びバスターミナルでの普及（PR動画）

一般市民・県民に向け、生活を豊かにする木のある暮らし及び森林資源の循環利用への理解促進等PRを実施



新潟駅
改札付近



新潟駅
バスターミナル



地域の木材利用を考える検討会



検討内容

- ・地域の森林資源の活用について
- ・地域の木材流通の課題解決に向けた情報交換・情報共有
- ・区役所木造・木質化支援に向けた関係者間の連携強化

第1回 令和6年 8月29日

○メンバー

新潟県新潟地域振興局
新潟市

第2回 令和6年11月 6日

新潟県森林組合連合会
新潟県木造住宅機械プレカット協会

第3回 令和7年 1月24日

新潟市木材連合会
新潟県木材組合連合会

第1回検討会 令和6年8月29日

区役所整備を機会とし西蒲林業の再生を図る。西蒲は良い材が多いので、伐採して再造林につなげるためにも森林所有者にしっかり還元できるプロジェクトにしていきたい。

第2回検討会 令和6年11月6日

過去の建設事例等を検証した。

磨き丸太を継承していきたいが、近年は利用が少なく継承は困難である。

建物は木造ではなく鉄骨造との混構造でも良い。使えるところに確実に使ってほしい。

県内で準備できる集成材や無垢材などで建設を。

第3回検討会 令和7年1月24日

12月に西蒲区役所基本設計のプロポーザル公募が開始、地域材利用促進に前向きな提案。伐期を先送りにしている状況なので、大径木の活用をしっかりと検討し、高齢級、大径材のブランド化により建築用材としての活用・流通を広く進めるべき。

市及び基本設計の受託者に地域材を活用できる、可能な構法・製品等について働きかけを。区役所建設に係る木材供給には新潟市内製材業者が主体となり進めていきたい。

17

新潟市西蒲区役所新庁舎整備事業基本設計業務委託スケジュール

令和6年12月5日(木) **基本設計プロポーザル公告**

【課題】木材を取り入れた庁舎を実現するための提案について本施設は地域産等の木材を極力取り入れた西蒲区らしい庁舎を目指しています。

防災拠点としての位置づけや、イニシャル・ランニングを含めたトータルコストを抑えた中で計画を実現するための検討プロセスを提案してください。

令和7年1月16日(木) **技術提案書提出期限**

令和7年1月27日(月) **1次審査**

令和7年2月7日(金) **2次審査**

令和7年2月12日(水) **審査結果（最優秀者の選定）通知**

～ 事業者が市と契約後、面談、検討会メンバーで働きかけ実施 ～

令和7年9月30日(火) **履行期限**

18

今後の課題と次年度以降の取組

○新潟市西蒲区の循環型林業確立に向けて

- ・県の施策と連携し主伐・再造林を推進
- ・森林組合など素材生産事業者の参入
- ・素材供給、受入体制、製材工場間の連携体制を確立
- ・建築材を主として多用途の活用を検討
- ・非住宅分野での需要拡大

○庁舎整備では必要とされる材を確実に供給できる体制

令和8年度	実施設計
令和9年度	建設工事着手
令和10年度末	完成

- ・循環型社会の象徴的な施設となるよう取組を進めたい…

19





「顔の見える木材供給体制構築事業」 最終報告

2025年3月12日

目次

1.プロジェクト方針について	p.2
2.業務委託契約について	p.3
3.運用検証の実施（方針/結果）	p.5
4.運用検証を踏まえた意見/要望	p.21
5.運用検証を踏まえた成果と課題	p.25
6.「県産材流通情報システム」の構築	p.27
7.ご支援体制	p.35

1.プロジェクト方針について

【方針】

- ・ITソリューションを活用したシステムを構築することにより、**県産材の流通情報の統一管理**を目指す
- ↓
- ・**手書き伝票による出材**、パソコン入力による伝票集計、県産材証明に係る書類事務などの**煩雑な作業をデジタル化により大幅軽減（効率化）**
- ↓
- ・**川上から川下までのサプライチェーンのデジタル化**により、**トレーサビリティを確保**
- ↓
- ・**県産材の供給拡大、活用推進**



- 1.「**検証システム**」による運用検証の対象は、**出材業務のデジタル化（川上）**とする
- 2.「**サプライチェーン（川中～川下）のデジタル化**」については、「**検証システム**」の対象とせず、鳥取県の事例も参考にしながら「**県産材流通情報システム**」仕様案を策定する

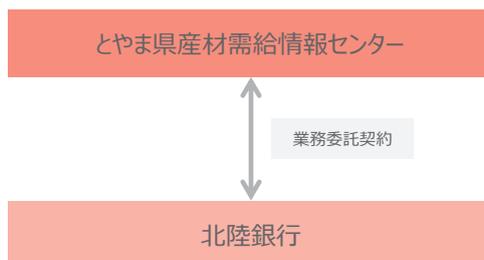
2.業務委託契約について

【対象業務】

「出材業務デジタル化検証システム(以下、「検証システム」)」での検証、および「県産材流通情報システム」仕様案の策定

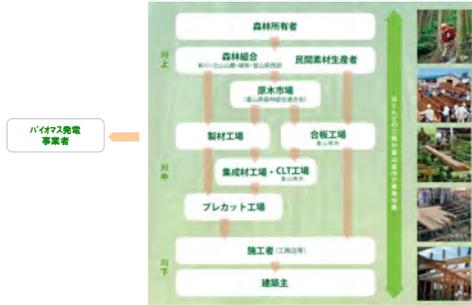
- ・「検証システム」構築のための調査、情報収集、方針策定
- ・「検証システム」を用いたP o Cの支援
- ・「検証システム」によるP o C結果(評価)のとりまとめ、「県産材流通情報システム」仕様案の策定

【契約形態】



3-1.運用検証の実施(現状の業務フロー)

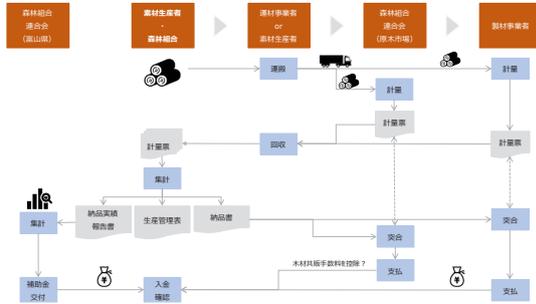
富山県内の木材の流通フロー



※富山県(たやま県)産材活用の手引きより抜粋

木材流通の業務フロー(現状)

現在の木材流通フローは下記のとおりと認識しています。各者がそれぞれに紙への手書きor手入力での伝票・集計表等を作成しており、情報入力・処理上で重複作業が行われています。



とやま県産材
需給情報センター

4

3-2.運用検証の実施(現状の手書伝票イメージ)

(帳票サンプル) 木材納品書 素材生産者→製材事業者

樹種 長さ 径 本数

入力単位は本数・材積(m)

		2m		4m		4m (小径)			
寸法	本数	材積	本数	材積	本数	材積	本数	材積	寸法
11									11
12									12
13									13
14				56	4.368				14
15				25	3.375				15
下合計				81	7.743				下合計
18				23	2.862				18
20				29	3.200				20
22				7	1.386				22
24				2	0.462				24
26				1	0.270				26
28									28
30									30
42									42
50									50
52									52
54									54
56									56
合計				55	6.140				合計
下合計				93	7.926				下合計
標準体積	10,300	10,300	10,300	24,921	3,738				標準体積
材積				22	3,180				材積
材積/体積	10,300	10,300	12,300	199,998					材積/体積
合計				142	16,006				合計
合計体積					194,925				合計体積
標準体積					19,484				標準体積
総額					214,429				総額

- 生産者は納品書を作成し納品先に送付・代金請求しているが、情報は紙で授受される計量票を集計、起票する必要がある

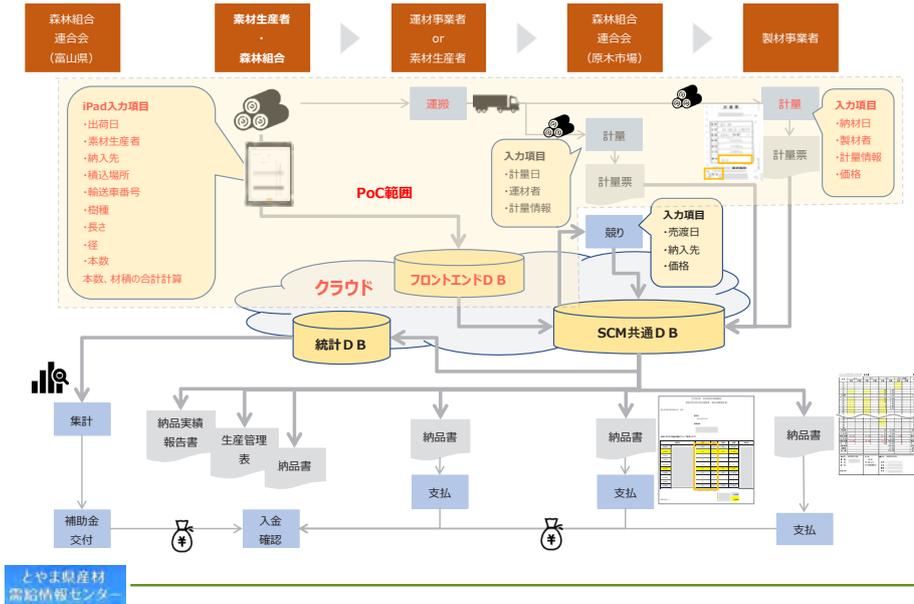
とやま県産材
需給情報センター

5

3-3.運用検証の実施(運用検証PoCの対象範囲)

木材流通の業務フロー (ありたい姿)

素材生産者が川上段階でデータ化することにより、川中、川下ではデータによる情報伝達や情報共有が可能となり、情報伝達スピードの向上とともに大幅な業務効率化を図ることができます。



6

3-4.運用検証の実施(運用検証での操作画面例)

(検証システム操作イメージ)



7

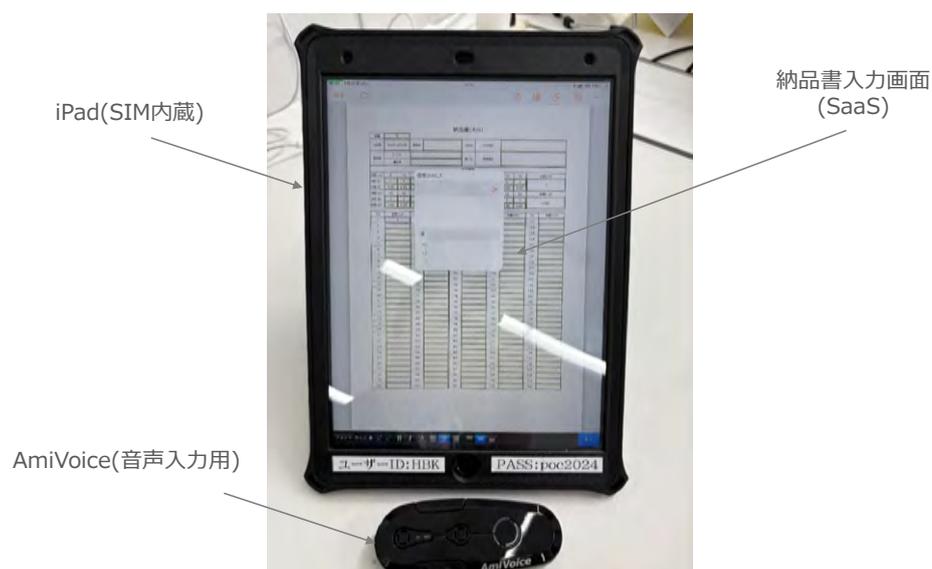
3-5.運用検証 操作説明会の様子 2024/12/17



とやま県産材
需給情報センター

8

3-6.運用検証で使用した実機イメージ



とやま県産材
需給情報センター

9

3-6.運用検証における入力例(納品書)

素材生産者A:径級入力あり(iPad4台で実施)

納品書(4m)

品名	規格	数量	単位	備考
杉	200mm×120mm	100	枚	
ヒノキ	200mm×120mm	100	枚	
材種	杉	100	枚	
材種	ヒノキ	100	枚	
材種	その他	0	枚	
合計		200	枚	

寸法表(4m)

径級	長さ	幅	厚	重量	体積
1	4000	200	120	1000	0.0024
2	3800	200	120	960	0.0023
3	3600	200	120	920	0.0022
4	3400	200	120	880	0.0021
5	3200	200	120	840	0.0020
6	3000	200	120	800	0.0019
7	2800	200	120	760	0.0018
8	2600	200	120	720	0.0017
9	2400	200	120	680	0.0016
10	2200	200	120	640	0.0015
11	2000	200	120	600	0.0014
12	1800	200	120	560	0.0013
13	1600	200	120	520	0.0012
14	1400	200	120	480	0.0011
15	1200	200	120	440	0.0010
16	1000	200	120	400	0.0009
17	800	200	120	360	0.0008
18	600	200	120	320	0.0007
19	400	200	120	280	0.0006
20	200	200	120	240	0.0005

素材生産者B:径級入力なし(iPad2台で実施)

納品書(4m)

品名	規格	数量	単位	備考
杉	200mm×120mm	100	枚	
ヒノキ	200mm×120mm	100	枚	
材種	杉	100	枚	
材種	ヒノキ	100	枚	
材種	その他	0	枚	
合計		200	枚	

寸法表(4m)

径級	長さ	幅	厚	重量	体積
1	4000	200	120	1000	0.0024
2	3800	200	120	960	0.0023
3	3600	200	120	920	0.0022
4	3400	200	120	880	0.0021
5	3200	200	120	840	0.0020
6	3000	200	120	800	0.0019
7	2800	200	120	760	0.0018
8	2600	200	120	720	0.0017
9	2400	200	120	680	0.0016
10	2200	200	120	640	0.0015
11	2000	200	120	600	0.0014
12	1800	200	120	560	0.0013
13	1600	200	120	520	0.0012
14	1400	200	120	480	0.0011
15	1200	200	120	440	0.0010
16	1000	200	120	400	0.0009
17	800	200	120	360	0.0008
18	600	200	120	320	0.0007
19	400	200	120	280	0.0006
20	200	200	120	240	0.0005

3-6.運用検証における入力例(原木受入簿)

チップ製造者:重量入力(iPad1台で実施)

令和6年 原木受入簿

日付	事業者名	株番	孔番号	銘柄	原木出し場所	規格	直径	長さ	材種	材積	重量	体積	正味重量	備考
2024/12/19	〇〇〇〇	3700	020	杉	〇〇〇〇	100	200	120	杉	1000	1040kg	0.0024		
2024/12/18	〇〇〇〇	3700		杉	〇〇〇〇	100	200	120	杉	1270kg	1242kg	0.0028		
2024/12/10	〇〇〇〇	3700	3	杉	〇〇〇〇	100	200	120	杉	1240kg	1040kg	0.0028		
2024/12/10	〇〇〇〇	390	51	杉	〇〇〇〇	100	200	120	杉	2410kg	11310kg	0.0230		
2024/12/10	〇〇〇〇	3999	20	杉	〇〇〇〇	100	200	120	杉	2400kg	11990kg	0.0230		
2024/12/16	〇〇〇〇	3938	19	杉	〇〇〇〇	100	200	120	杉	11150kg	8050kg	0.0190		
2024/12/16	〇〇〇〇	1711	278	杉	〇〇〇〇	100	200	120	杉	2680kg	12610kg	0.0170		
2024/12/17	〇〇〇〇	2830	51	杉	〇〇〇〇	100	200	120	杉	10570kg	7410kg	0.0160		
2024/12/17	〇〇〇〇	1771	294	杉	〇〇〇〇	100	200	120	杉	2390kg	12290kg	0.0090		
2024/12/10	〇〇〇〇	3700	01	杉	〇〇〇〇	100	200	120	杉	13050kg	10300kg	0.0170		
2024/12/19	〇〇〇〇	3700		杉	〇〇〇〇	100	200	120	杉	1240kg	11010kg	0.0090		
2024/12/19	〇〇〇〇	4311	02	杉	〇〇〇〇	100	200	120	杉	15970kg	11490kg	0.0090		
2024/12/19	〇〇〇〇	3400	72	杉	〇〇〇〇	100	200	120	杉	1340kg	9470kg	0.0090		
2024/12/19	〇〇〇〇	3700	7	杉	〇〇〇〇	100	200	120	杉	11720kg	9970kg	0.0100		

【参考】運用検証用SaaS環境 管理画面①（帳票定義A）

ConMas Manager 有効期限：2025/03/31 ログイン中：北陸銀行 [ログアウト] Version:8.1.24071

帳票定義 入力帳票 データー出力 自動帳票作成 ラベル管理 回書管理 スケジュール カスタムマスター カスタムメニュー システム管理

一覧へ戻る 定義名：納品書_島田木材用

基本情報 1:Sheet1 通知メッセージ設定 ラベル 定義 帳票 Webhook通知設定 1:Sheet1 権限 定義 / 帳票 クラスタ 1:Sheet1 音声認識辞書 外部システム出力設定 Googleドライブ出力先設定 Box出力先設定 BIM360DOCS出力先設定

公開

納品書(4m)

項目	項目名	項目名	項目名	項目名								
出荷日												
納入先	事業者名		出荷先	担当者名								
納品書	トラック		納入先	事業者名								
	運転手											
本数集計												
径級(cm)	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	本数計(本)
本数計(本)												
材積(m ³)												
径級(cm)	30	32	34	36	38	40	42	44	46	48	50	材積計(m ³)
本数計(本)												
材積(m ³)												
No	径級(cm)	No	径級(cm)	No	径級(cm)	No	径級(cm)	No	径級(cm)	No	径級(cm)	
1	31			61		91		121				
2	32			62		92		122				
3	33			63		93		123				
4	34			64		94		124				
5	35			65		95		125				
6	36			66		96		126				
7	37			67		97		127				
8	38			68		98		128				
9	39			69		99		129				
10	40			70		100		130				
11	41			71		101		131				

とやま県産材
需給情報センター

12

【参考】運用検証用SaaS環境 管理画面①（帳票定義B）

ConMas Manager 有効期限：2025/03/31 ログイン中：北陸銀行 [ログアウト] Version:8.1.24071

帳票定義 入力帳票 データー出力 自動帳票作成 ラベル管理 回書管理 スケジュール カスタムマスター カスタムメニュー システム管理

一覧へ戻る 定義名：納品書_富山県西部森林組合

基本情報 1:Sheet1 通知メッセージ設定 ラベル 定義 帳票 Webhook通知設定 1:Sheet1 権限 定義 / 帳票 クラスタ 1:Sheet1 音声認識辞書 外部システム出力設定 Googleドライブ出力先設定 Box出力先設定 BIM360DOCS出力先設定

公開

納品書(4m)

項目	項目名	項目名	項目名	項目名								
出荷日												
納入先	事業者名		出荷先	担当者名								
納品書	トラック		納入先	事業者名								
	運転手											
本数集計												
径級(cm)	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	本数計(本)
本数計(本)												
材積(m ³)												
径級(cm)	30	32	34	36	38	40	42	44	46	48	50	材積計(m ³)
本数計(本)												
材積(m ³)												
No	径級(cm)	No	径級(cm)	No	径級(cm)	No	径級(cm)	No	径級(cm)	No	径級(cm)	
1	31			61		91		121				
2	32			62		92		122				
3	33			63		93		123				
4	34			64		94		124				
5	35			65		95		125				
6	36			66		96		126				
7	37			67		97		127				
8	38			68		98		128				
9	39			69		99		129				
10	40			70		100		130				

とやま県産材
需給情報センター

13

【参考】運用検証用SaaS環境 管理画面①（帳票定義C）

とやま県産材
需給情報センター

14

【参考】運用検証用SaaS環境 管理画面②（入力状況_序盤）

とやま県産材
需給情報センター

15

【参考】運用検証用SaaS環境 管理画面②（入力状況_終盤）

ConMas Manager 有効期限：2025/03/31 ログイン中：北陸銀行 [ログアウト] Version:8.1.24071

帳票定義 入力帳票 データー出力 自動帳票作成 ラベル管理 図書管理 スケジュール カスタムマスター カスタムメニュー システム管理

ラベル検索: 1-500/0(0) 検索 北陸銀行さん担当分 公開 編集ステータス シート セット

表示件数 20 最初 2

ID	帳票名称	元ID	REV	状態	登録日時	登録者	更新日時	更新者
106	納品書_豊田木材用_20250127	106	1	入力完了	2025/01/27 12:32	豊田木材02	2025/01/27 12:32	豊田木材02
105	納品書_豊田木材用_20250124	105	1	入力完了	2025/01/24 15:45	豊田木材02	2025/01/24 15:45	豊田木材02
104	納品書_豊田木材用_20250124	104	1	入力完了	2025/01/24 12:15	豊田木材02	2025/01/24 12:15	豊田木材02
103	納品書_豊田木材用_20250124	103	1	入力完了	2025/01/24 10:03	豊田木材02	2025/01/24 10:03	豊田木材02
102	納品書_豊田木材用_20250124	102	1	入力完了	2025/01/24 07:51	豊田木材02	2025/01/24 07:51	豊田木材02
101	納品書_豊田木材用_20250123	101	1	入力完了	2025/01/23 14:33	豊田木材02	2025/01/23 14:33	豊田木材02
100	2025年01月23日_東見支所_中野丸_林ハニヤ株式会社 中野丸	100	1	編集済	2025/01/23 14:16	水見支所	2025/01/23 14:16	水見支所
99	東見支所_万庵_万庵	99	1	編集済	2025/01/23 14:15	水見支所	2025/01/23 14:15	水見支所
98	納品書_豊田木材用_20250123	98	1	入力完了	2025/01/23 12:17	豊田木材02	2025/01/23 12:17	豊田木材02
97	納品書_豊田木材用_20250123	97	1	入力完了	2025/01/23 10:04	豊田木材02	2025/01/23 10:04	豊田木材02
96	納品書_豊田木材用_20250123	96	1	入力完了	2025/01/23 07:37	豊田木材03	2025/01/23 07:37	豊田木材03
84	原木受入簿_もりもりハウス	84	1	編集済	2025/01/20 14:53	西森森林組合01	2025/01/22 17:12	西森森林組合01
95	納品書_豊田木材用_20250122	95	1	入力完了	2025/01/22 13:59	豊田木材02	2025/01/22 13:59	豊田木材02
84	納品書_豊田木材用_20250122	84	1	入力完了	2025/01/22 11:37	豊田木材02	2025/01/22 11:37	豊田木材02
93	納品書_豊田木材用_20250122	93	1	入力完了	2025/01/22 08:56	豊田木材02	2025/01/22 08:56	豊田木材02
34	原木受入簿_チューモク	34	1	編集済	2025/01/24 16:19	チューモク01	2025/01/21 17:21	チューモク01

とやま県産材 需給情報センター

16

【参考】運用検証用SaaS環境 管理画面②（入力状況A）

ConMas Manager 有効期限：2025/03/31 ログイン中：北陸銀行 [ログアウト] Version:8.1.24071

帳票定義 入力帳票 データー出力 自動帳票作成 ラベル管理 図書管理 スケジュール カスタムマスター カスタムメニュー システム管理

← 定義選択へ戻る データー出力対象の帳票を選択する 北陸銀行さん担当分 確定も表示する 公開 編集ステータス シート セット ブック 次へ

ラベル検索: 1-500/0(0) 検索

抽出した帳票をすべて選択 [すべて表示]

表示件数 20 1 / 4 (76) 最後

ID	帳票名称	元ID	REV	状態	登録日時	登録者	更新日時	更新者	定義ID:定義名称	元定義ID:REV
126	納品書_豊田木材用_20250218	126	1	入力完了	2025/02/18 14:58	豊田木材02	2025/02/18 14:58	豊田木材02	154-納品書_豊田木材用	136:7
125	納品書_豊田木材用_20250218	125	1	入力完了	2025/02/18 11:54	豊田木材02	2025/02/18 11:54	豊田木材02	154-納品書_豊田木材用	136:7
124	納品書_豊田木材用_20250218	124	1	入力完了	2025/02/18 09:30	豊田木材02	2025/02/18 09:30	豊田木材02	154-納品書_豊田木材用	136:7
123	納品書_豊田木材用_20250217	123	1	入力完了	2025/02/17 14:25	豊田木材02	2025/02/17 14:25	豊田木材02	154-納品書_豊田木材用	136:7
122	納品書_豊田木材用_20250214	122	1	入力完了	2025/02/14 15:03	豊田木材02	2025/02/14 15:03	豊田木材02	154-納品書_豊田木材用	136:7
121	納品書_豊田木材用_20250214	121	1	入力完了	2025/02/14 11:45	豊田木材02	2025/02/14 11:45	豊田木材02	154-納品書_豊田木材用	136:7
120	納品書_豊田木材用_20250214	120	1	入力完了	2025/02/14 09:28	豊田木材02	2025/02/14 09:28	豊田木材02	154-納品書_豊田木材用	136:7
119	納品書_豊田木材用_20250212	119	1	入力完了	2025/02/12 15:14	豊田木材02	2025/02/12 15:14	豊田木材02	154-納品書_豊田木材用	136:7
118	納品書_豊田木材用_20250212	118	1	入力完了	2025/02/12 12:44	豊田木材02	2025/02/12 12:44	豊田木材02	154-納品書_豊田木材用	136:7
117	納品書_豊田木材用_20250212	117	1	入力完了	2025/02/12 10:04	豊田木材02	2025/02/12 10:04	豊田木材02	154-納品書_豊田木材用	136:7
116	納品書_豊田木材用_20250131	116	1	入力完了	2025/01/31 15:41	豊田木材02	2025/01/31 15:41	豊田木材02	154-納品書_豊田木材用	136:7
115	納品書_豊田木材用_20250131	115	1	入力完了	2025/01/31 12:51	豊田木材02	2025/01/31 12:51	豊田木材02	154-納品書_豊田木材用	136:7
114	納品書_豊田木材用_20250131	114	1	入力完了	2025/01/31 10:24	豊田木材02	2025/01/31 10:24	豊田木材02	154-納品書_豊田木材用	136:7
113	納品書_豊田木材用_20250130	113	1	入力完了	2025/01/30 15:43	豊田木材02	2025/01/30 15:43	豊田木材02	154-納品書_豊田木材用	136:7

とやま県産材 需給情報センター

17

【参考】運用検証用SaaS環境 管理画面②（入力状況B）

ConMas Manager 有効期限: 2025/03/31 ログイン中: 北陸銀行 [ログアウト] Version: 8.1.24071

帳票定義 入力帳票 データ出力 自動帳票作成 ラベル管理 図書管理 スケジュール カスタムマスター カスタムメニュー システム管理

データ出力対象の帳票を選択する 北陸銀行さん担当分

抽出した帳票をすべて選択 [すべて表示]

ID	帳票名称	元ID	REV	状態	登録日時	登録者	更新日時	更新者	定義ID:定義名称	元定義ID:REV
100	2025年01月23日_水見支所_中森内_林ベニヤ株式会社 市内	100	1	編集中	2025/01/23 14:16	水見支所	2025/01/23 14:16	水見支所	159-納品書_富山県西部森林組合	118:21
99	水見支所_万尾_万尾	99	1	編集中	2025/01/23 14:15	水見支所	2025/01/23 14:15	水見支所	159-納品書_富山県西部森林組合	118:21
89	2025年01月21日_碓波支所_南砺市庄_林ベニヤ株式会社 碓波市庄	89	1	編集中	2025/01/21 10:59	碓波支所	2025/01/21 10:59	碓波支所	159-納品書_富山県西部森林組合	118:21
88	2025年01月21日_碓波支所_南砺市山本_林ベニヤ株式会社 南砺市山本	88	1	編集中	2025/01/21 10:57	碓波支所	2025/01/21 10:57	碓波支所	159-納品書_富山県西部森林組合	118:21
87	2025年01月21日_高岡支所_末友(片瀬)_林ベニヤ株式会社 末友(片瀬)	87	1	編集中	2025/01/21 09:33	高岡支所	2025/01/21 09:37	高岡支所	159-納品書_富山県西部森林組合	118:21
79	2025年01月17日_碓波支所_南砺市新木_南砺市新木	79	1	編集中	2025/01/17 15:21	碓波支所	2025/01/17 15:21	碓波支所	159-納品書_富山県西部森林組合	118:21
76	2025年01月17日_碓波支所_南砺市新木_南砺市新木	76	1	編集中	2025/01/17 11:02	碓波支所	2025/01/17 11:02	碓波支所	159-納品書_富山県西部森林組合	118:21
75	2025年01月17日_碓波支所_南砺市庄_林ベニヤ株式会社 碓波市庄	75	1	編集中	2025/01/17 10:57	碓波支所	2025/01/17 10:57	碓波支所	159-納品書_富山県西部森林組合	118:21
70	2025年01月16日_碓波支所_南砺市山本_林ベニヤ株式会社 南砺市山本	70	1	編集中	2025/01/16 11:18	碓波支所	2025/01/16 11:18	碓波支所	159-納品書_富山県西部森林組合	118:21

とやま県産材需給情報センター

18

【参考】運用検証用SaaS環境 管理画面②（入力状況C）

ConMas Manager 有効期限: 2025/03/31 ログイン中: 北陸銀行 [ログアウト] Version: 8.1.24071

帳票定義 入力帳票 データ出力 自動帳票作成 ラベル管理 図書管理 スケジュール カスタムマスター カスタムメニュー システム管理

データ出力対象の帳票を選択する 北陸銀行さん担当分

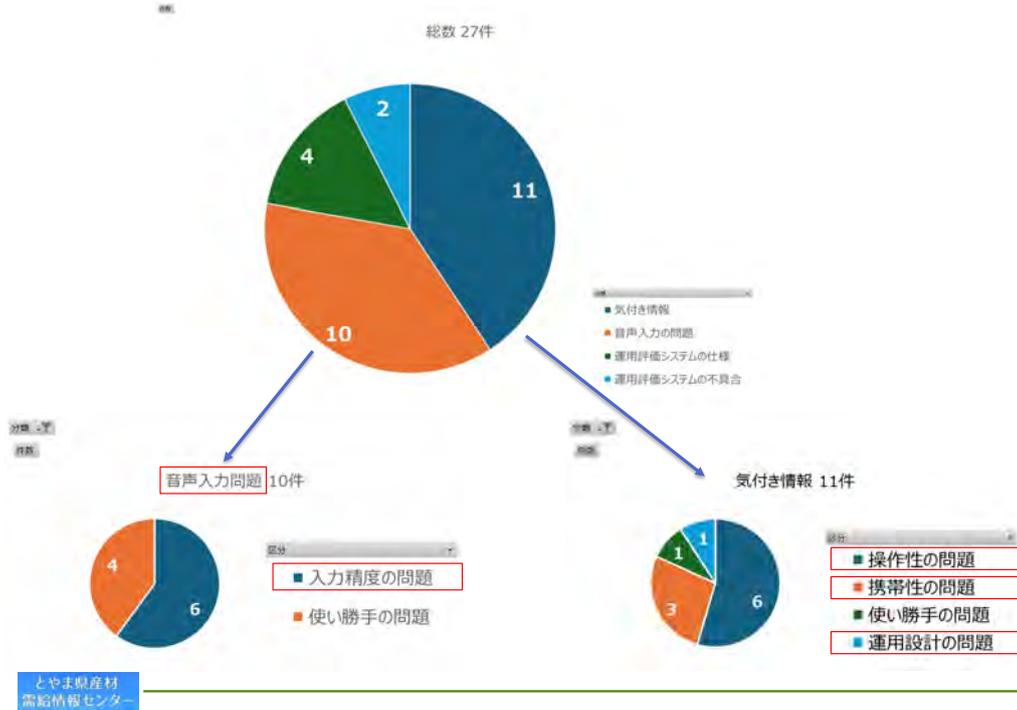
抽出した帳票をすべて選択 [すべて表示]

ID	帳票名称	元ID	REV	状態	登録日時	登録者	更新日時	更新者	定義ID:定義名称	元定義ID:REV
42	原木受入簿_チューモク	42	1	編集中	2024/12/26 18:18	チューモク01	2024/12/26 18:18	チューモク01	161-原木受入簿_チューモク	137:8
41	原木受入簿_チューモク	41	1	編集中	2024/12/26 18:14	チューモク01	2024/12/27 17:37	チューモク01	161-原木受入簿_チューモク	137:8
34	原木受入簿_チューモク	34	1	編集中	2024/12/24 18:19	チューモク01	2025/01/21 17:21	チューモク01	161-原木受入簿_チューモク	137:8
28	原木受入簿_チューモク	28	1	編集中	2024/12/17 17:49	チューモク01	2024/12/23 17:48	チューモク01	152-原木受入簿_チューモク	137:7

とやま県産材需給情報センター

19

4-1.運用検証を踏まえた意見/要望(サマリ)



20

4-2.運用検証を踏まえた意見/要望 (明細:音声入力問題)

分類	区分	気づき・要望・質問など	補足
音声入力の問題	入力精度の問題	「次へ」行く際に音声で返してほしい	
音声入力の問題	入力精度の問題	音声入力の際、何かのタイミングでNo1まで戻る 画面を見ていないとわからない	
音声入力の問題	入力精度の問題	言い間違えの修正、変更の方法、一つ戻る方法など (機能がほしい)	
音声入力の問題	入力精度の問題	次の「No.」に移った場合、返答がほしい	今何番目か聞いたら教えてくれるとよい
音声入力の問題	入力精度の問題	音声利用の時、ダブルチェックが必要 (過不足の確認)	
音声入力の問題	入力精度の問題	画面見ないと、「次」に行ったことがわからない (確認音声とかがない) 気づかずに数字を言ってしまう (それもわからない)	
音声入力の問題	使い勝手の問題	音声の精度が悪い 特に「20」が登録できない	
音声入力の問題	使い勝手の問題	音声は「仮登録」のみ入力したい	混載 (機種、出材場所など) があるので、操作性を考慮する必要がある
音声入力の問題	使い勝手の問題	「次」→「数字○○」の間が長い 短くならない?	
音声入力の問題	使い勝手の問題	20,30,40などの区切りの数字が少し反応しづらい	

21

4-3.運用検証を踏まえた意見/要望（明細:気付き情報）

分類	区分	気づき・要望・質問など	補足
気付き情報	操作性の問題	書くと見えるが、デジタルによってわからなくなる	
気付き情報	操作性の問題	径級50cm以上も入力したい	
気付き情報	操作性の問題	1本ずつ入力するのが大変 まとめて入力できるようにしてほしい	
気付き情報	操作性の問題	現場コードを入力すると現場名が反映されるなどの機能があれば楽	車番から運送業者を特定できる 現場コードから担当者、伐採者が特定できる
気付き情報	操作性の問題	すでにスプレッドシートを使って土場を入力している それを使うのは難しいか？	
気付き情報	操作性の問題	「業者名」とは運送業者？ なんの事業者のことかわかりにくい	伐採業者、運送業者などわかりやすくする必要がある
気付き情報	携帯性の問題	端末が大きい 携帯しづらい	
気付き情報	携帯性の問題	iPadではなく、スマホで操作したい	トラックでの操作を考慮
気付き情報	携帯性の問題	完全防水じゃないの心配	
気付き情報	使い勝手の問題	手書き 2:30 iPad 7:00	慣れの問題はあるが、手書きの方が早い
気付き情報	運用設計の問題	チップ材の重量と樹種を入力することにより、素材生産者が出材した材積が逆算できる 出材場所は素材生産者がデータ化する必要がある	<参考> 樹種によって重量から材積への変換係数が異なる 針葉樹：重量 (t) /0.75 = 材積 (m) 広葉樹：重量 (t) /0.83 = 材積 (m)

5-1.運用検証を踏まえた成果と課題

【成果】

- (1)川上でのデータ化を目指す上で、音声入力への取り組みを含め、現場での操作性確認を検証対象の中心におきました。言い換えると、各社で入力されたデータの相互利用までは実施できないという制約付きの検証環境ではありましたが、運用検証にご参加いただいた3社10名の方々には、大変高い関心を持って前向きにデータ入力に取り組んで頂くことができました。また、その前向きな取組結果として、有益な意見やアドバイスを多数頂くことができました。深く感謝申し上げます。総合的に見ると、**現場における「デジタルデバイスに対するアレルギー感覚」は少ない印象です。**
- (2)素材生産者様（2社7名、iPad6台）だけでなく、チップ製造事業者様（1社3名、iPad1台）にも運用検証にご参加頂くことができました。これにより、**①「重量管理」と「材積管理」のような管理単位の違いがありつつもSCMの中では紐づける必要性があること、②改正クリーンウッド法への対応という側面から「出材場所（伐採地）」をSCMの中で共通情報として管理する必要があることがわかりました。**
- (3)音声入力については、騒音の影響を大きく受けるような重機上での操作環境でも試して頂きました。運転席内ではiPadなどタブレットサイズのデバイス設置場所の確保は難しいといった評価や、入力内容の確認や修正など手入力を伴う場面での操作性においてもスマートフォンの操作性には及ばないといった評価がありました。「ログカウンター」、「木材検収システム」等のスマートフォンアプリを既に現場でご利用されているケースも見られ、**これらのシステムの積極的な活用やSCM内のデータ連携について、具体的に検討してみる必要性がある**ことがわかりました。

5-2.運用検証を踏まえた成果と課題

【課題・方向性】

- (1)川上におけるデジタル化手段としては、携帯性・操作性が高く、素材生産者において既に導入事例のあるスマートフォンアプリ（android）が望ましい。

例：「ログカウンタープラス2(有限会社北斗産業)」

「木材検取システム(株式会社ジツタ、開発元:ピーシステム)」

・SCMとしての活用を前提に考えると、クラウドシステムへのデータ連携機能を実装すること、クラウド連携に係る操作性が簡便であることが要求される。カスタマイズ要素の発生が予想されるが、新規開発と比較すればリスク・コストの大幅削減が期待できる

・伐採地、樹種、事業者など、マスタ化が望ましい情報の登録・修正に関わる機能・運用についても、SCMとしての要件に沿ったものが必要（カスタマイズ要素となる可能性あり）。

- (2)通信環境が悪い山土場等における、確実なデータ送信（情報伝達）のための対策が必要。

例：androidスマホ同士の通信による伝達

送信側スマホでQRコードを表示、受信側スマホでQRコードを読み取り

- (3)R7年度事業として、素材生産者～運材業者～チップ製造業者/製材業者の範囲で情報共有できる仕組み作り、スモールスタート的に運用実証を実施できる環境を準備する必要がある。

- (4)SCMシステムの構築～運用に向けては、需給情報センターの役割定義が重要なポイント。鳥取県SCMの事例を参考にすると、受益者からのシステム利用料金や各種証明書発行費用等を財源としたシステムの維持管理機能、施業プランナー育成（経営計画の立案）支援による生産量の拡大などが考えられる。

5-3.「県産材流通情報システム」の構築 Step1(R7年度～)

【川上系システムによるデジタル化運用】

・2/6 進捗報告会にて頂いたご意見

<ご意見1>

音声入力以外の方法として、ログカウンター（丸太の材積計算ができる無料アプリ）など、既に利用実績のあるスマホアプリからクラウドを経由したデータ連携ができないか



<解決案>

- ・スマホアプリの「木材検取システム(ジツタ)」による素材生産者側のデジタル化 ※次頁1-a
- ・チップ工場における重量情報の入力（素材情報のチェック・参照） ※次頁1-b
- ・検尺情報をクラウドにアップロード（素材生産者～運材業者～チップ製造者/製材業者への連携） ※次頁1-c

<課題>

- ・クラウド側アプリの開発費、運用費（要見積）

<ご意見2>

通信環境の悪い山土場において、確実に素材生産者から川下へタイムリーに情報伝達できるようにするにはどのような対策が考えられるか



<解決案>

- ・キャリアの通信環境が悪い場所におけるデータ伝達手段（山土場の出材作業→運材業者）
 1. QRコードの表示と読み取りによるデータ転送 ※次頁2-a
 2. ニアバイシエア（端末間通信機能）によるandroid端末同士のデータ転送 ※次頁2-a
 3. モバイルプリンタによるQRコード付き伝票の出力、運材業者への手渡し

<課題>

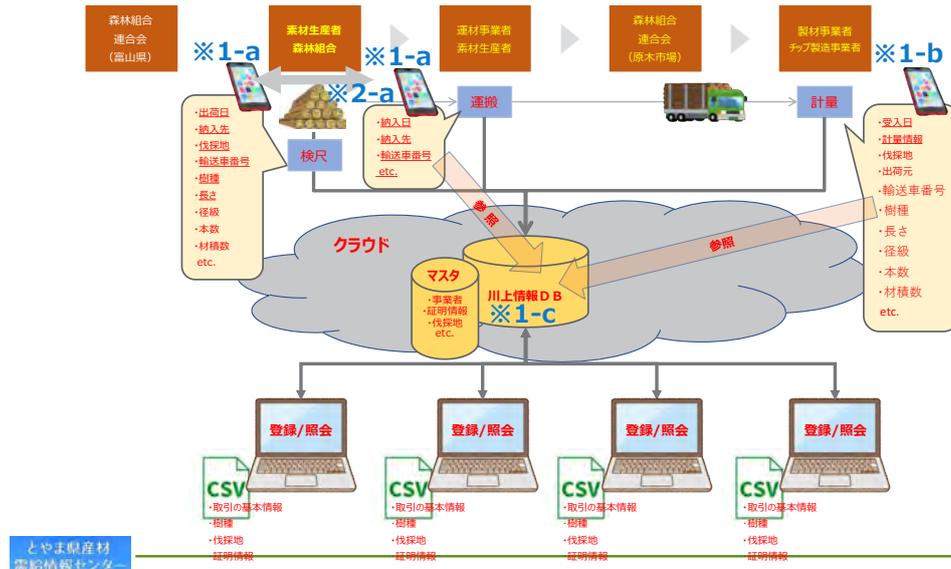
- ・スマホアプリ「木材検取システム(ジツタ)」のカスタマイズ費用（要見積）
- ・運用性（安定性）の検証

5-4.「県産材流通情報システム」の構築 Step1(R7年度～)

【川上系システムの構築によるデジタル化運用】

・対象： **素材生産者 ~ 運材事業者 ~ 製材事業者/チップ製造事業者**

木材流通の業務フロー（川上系）



とやま県産材
需給情報センター

6-1.「県産材流通情報システム」の構築 Step1(R7年度～)

参考：「木材検収システム」の画面サンプル

タップ入力（音声入力も可能）



同一径級の一括入力



入力内容の確認



「木材検収システム」について

販売会社
株式会社ジツタ（宮内）
愛媛県松山市中村二丁目8番1号
開発会社
株式会社ピーシステム（佐藤社長）
札幌市北区北9条西3丁目10番地1

- ・対応OS
androidのみ
- ・データ連携（クラウドなど）
現状は手動によるメール送信
DB連携などカスタマイズは可能
- ・マスタ管理（伐採地、樹種、出荷先・・・）
パソコンでマスタ（リスト）作成
PCとのケーブル接続によりスマホに転送可
- ・スマホ間のデータ転送
現行は機能がないが、カスタマイズは可能
QRコードは比較的对応し易い
- ・導入価格 初期費用60,000円
年額費用60,000円/ID

CD材出荷 積層計算用外周認識 (AI)



積層計算/材積確認（空隙率は任意設定）



とやま県産材
需給情報センター

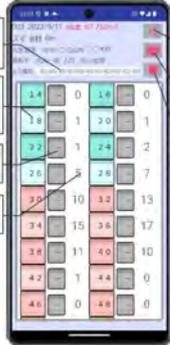
6-2.「県産材流通情報システム」の構築 Step1 (R7年度～)

参考：「ログカウンタープラス2」の画面サンプル

基本情報入力



タップ入力 (音声入力も可能)



「木材検収システム」について

開発・販売会社
有限会社北斗産業
石川県七尾市つつじヶ浜3-43

- ・対応OS
androidのみ
- ・データ連携 (クラウドなど)
現状は手動によるメール送信
(LINEなどのクラウドサービスによる共有も可能)
- ・アプリ開発のキャパシティは少なそうである
ことから、カスタマイズ対応、サービスの継続性に懸念あり

今回比較した2つのアプリの中では、「**木材検収システム**」をベースに検討するのが妥当ではないかと考えます。

6-3「県産材流通情報システム」の構築 Step2

【川上系システムからSCMシステムへの接続】

・2/6 進捗報告会にて頂いたご意見

<ご意見3>

改正グリーンウッド法(2025/4/1施行)への対応を考えると、A・B・C・D材を問わず、**素材生産者による出材場所情報の入力と川中以降への情報連携**が必要

<ご意見4>

- ・SCMシステムの構築～運用にあたっては、**需給情報センターの役割定義**が重要なポイントになるのではないかと。
- ・具体的には、受益者のシステム利用料金や各種証明書発行費用等を財源としたシステムの維持管理機能、素材生産量を現状の10万m³/年を10年間で20万m³/年への拡大を目指す中での施業プランナー育成 (経営計画の立案) 支援などが考えられる。
- ・鳥取県SCMの事例 (考え方) を参考にシステム設計するのが近道なのではないかと。

<解決案>

- ・川上系システムをSCMシステムへ接続
- ・改正グリーンウッド法に準拠した原材料情報 (伐採地、樹種、証明書) の伝達システム (林野庁提供予定) へ、SCMシステムを接続

<課題>

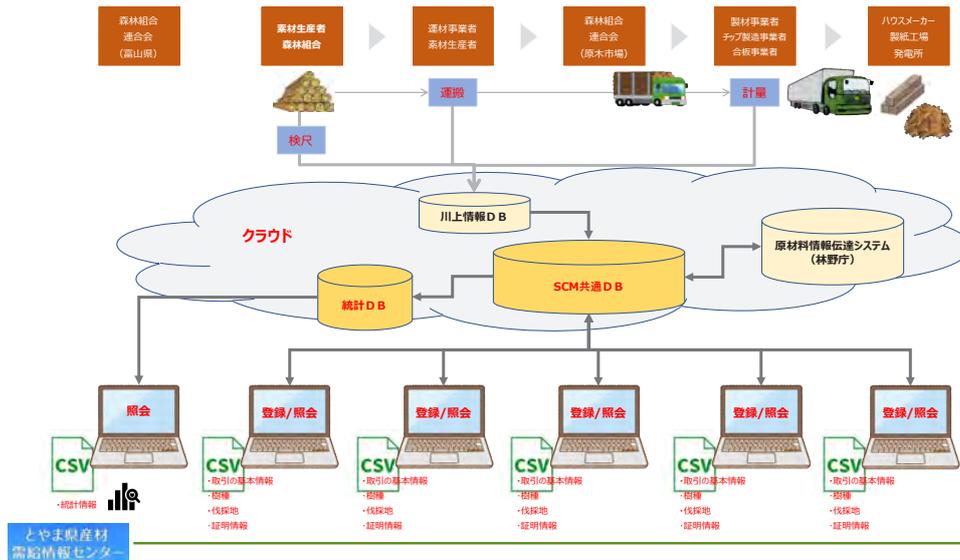
- ・川上系システム側のインターフェース開発費、川上系システム、SCMシステム双方の運用費の確保

6-4.「県産材流通情報システム」の構築 Step2

【川上系システムからSCMシステムへの接続による情報共有の迅速化/効率化】

・対象： **素材生産者 ~ 運材事業者 ~ 製材事業者/合板事業者/チップ製造事業者 ~ ハウスメーカー/製紙工場/発電所**

木材流通の業務フロー（ありたい姿）



30

6-5.「県産材流通情報システム」の構築 投資効果試算

【Step1】川上系システム

コスト削減	山土場	1. before「手書き伝票の作成」→ after「スマホへのデータ入力」に置き換え	【3時間/月】
	運材業者	2. before「紙伝票の授受」→ after「スマホ間のデータ授受（通信可能エリアでクラウド送信）」	【3時間/月】
	事務所	3. before「山土場からの情報を納入先に伝達」→ after不要（Web閲覧での確認）	【2.5時間/月】
	納入先（製材事業者、チップ製造事業者）	4. before「山土場からの情報を納入先に伝達」→ after不要（Web閲覧での確認）	【6時間/月】
a.コスト削減（想定）		削減時間 × 労務単価（@23,000円/H）	【▲851,000円/月】
投資	スマホ使用料	1. androidスマホ 2台 × 2,500円/月（データ通信費+端末費用）	【+5,000円/月】
	スマホアプリ使用料	2. androidスマホ 2台 × 5,000円/月（「木材検収システム」）	【+10,000円/月】
	スマホアプリ改修費用	3. スマホアプリのカスタマイズ費用（200万円を5年リース換算）	【+38,000円/月】
	クラウドアプリ構築費用	4. クラウドアプリの開発費用（1,000万円を5年リース換算）	【+190,000円/月】
	クラウド基盤使用料	5. クラウド基盤費用（クラウドサービス月額利用料）	【+50,000円/月】
b.投資額（想定）			【+293,000円/月】
a+b.コスト削減効果（想定）			【▲558,000円/月】

とやま県産材
需給情報センター

31

6-6.「県産材流通情報システム」の構築 収支試算

【Step2】SCMシステムへの接続

収入	素材生産者、森林組合	
	1. システム利用料 25,000円 × 15事業者	【375,000円/月】
	運材業者	
	2. システム利用料 20,000円 × 5事業者	【100,000円/月】
費用	製材事業者、合板事業者、チップ製造事業者	
	3. システム利用料 25,000円 × 10事業者、証明書発行料 300円 × 200枚	【310,000円/月】
	ハウスメーカー、製紙工場、発電所	
	4. システム利用料 5,000円 × 10事業者、証明書発行料 300円 × 50枚	【65,000円/月】
a. 収入 (想定)		【850,000円/月】
費用	スマホ使用料	
	1. androidスマホ 30台 × 2,500円/月 (データ通信費+端末費用)	【75,000円/月】
	スマホアプリ使用料	
	2. androidスマホ 30台 × 5,000円/月 (「木材検収システム」)	【150,000円/月】
	スマホアプリ改修費用	
	3. スマホアプリのカスタマイズ費用 (200万円を5年リース換算)	【38,000円/月】
クラウドアプリ構築費用		
4. クラウドアプリの開発費用 (1,000万円を5年リース換算)	【190,000円/月】	
クラウド基盤使用料		
5. クラウド基盤費用 (クラウドサービス月額利用料)	【50,000円/月】	
SCMシステム使用料		
6. SCMシステム利用料	【100,000円/月】	
b. 費用 (想定)		【603,000円/月】
a-b. 収支 (想定)		【247,000円/月】

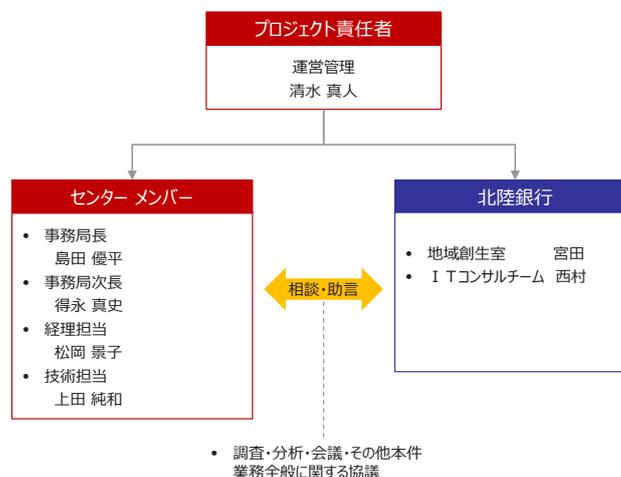
とやま県産材
需給情報センター

32

7.推進体制

「検証システム」を使った出材業務デジタル化のPoC、先進地事例の情報収集、「県産材流通情報システム」仕様案の策定に向けた推進体制は以下の通り。

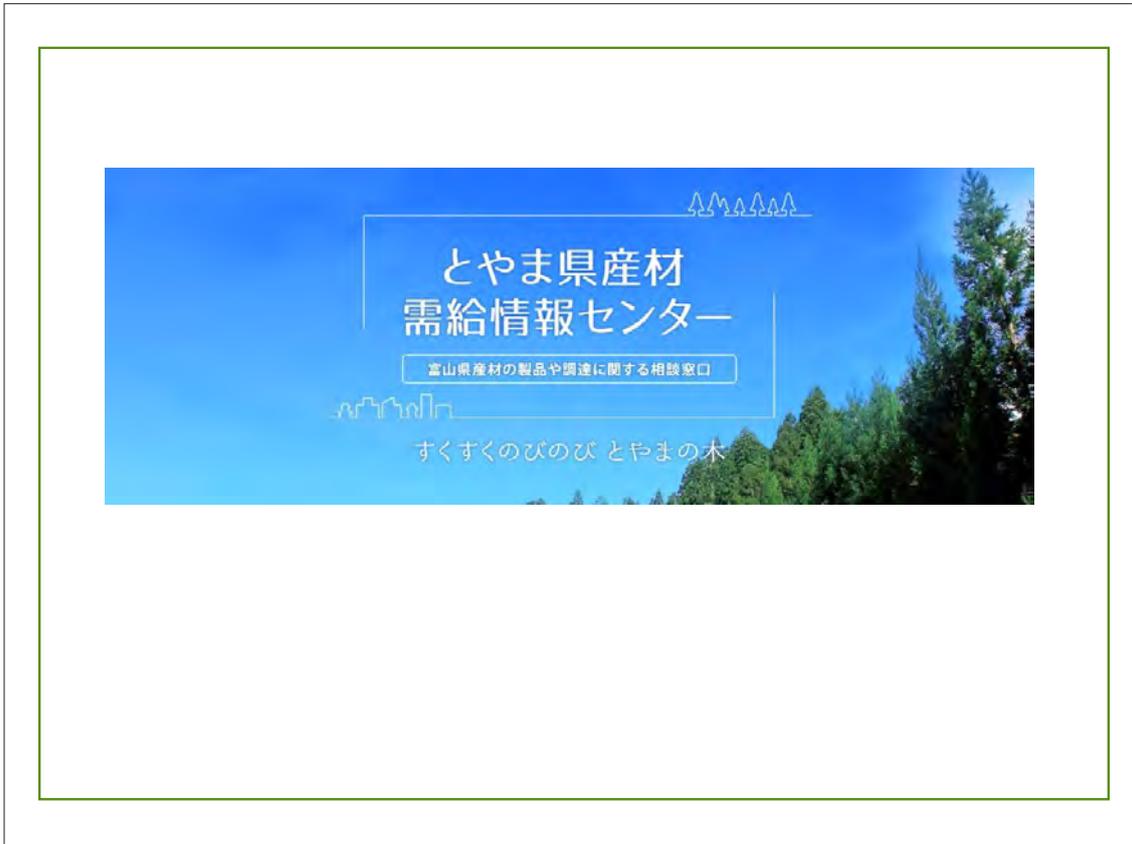
推進体制

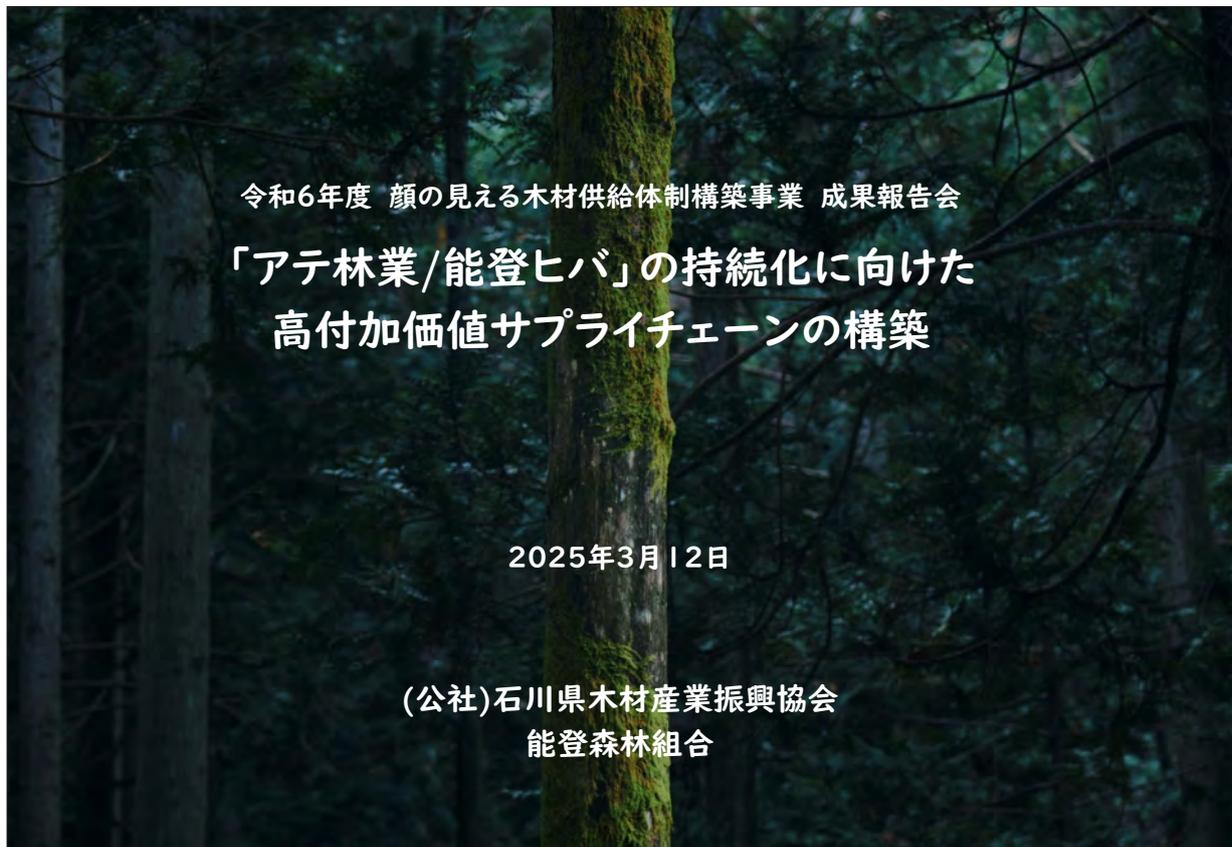


とやま県産材
需給情報センター

※記載の当行プロジェクトメンバーは変更となる場合がございますので留意願います。

33





能登の「アテ林業」と「能登ヒバ」 2

～能登の歴史・文化を形成し、県民に親しまれてきた世界に誇るべき地域資源～



アテ[档]

➔



能登ヒバ

- ✓江戸時代中期から輪島塗の木地のため育成
- ✓1966年に石川県の「県木」として指定
- ✓2023年に日本森林学会「林業遺産」認定



日本森林学会
林業遺産
Forestry Heritage

- [特徴①]強度／耐久性・耐湿性・防腐蚀性)
- [特徴②]ヒノキチオール／防虫効果、癒し効果
- [用途]伝統工芸品、建材、内装、アロマ製品等



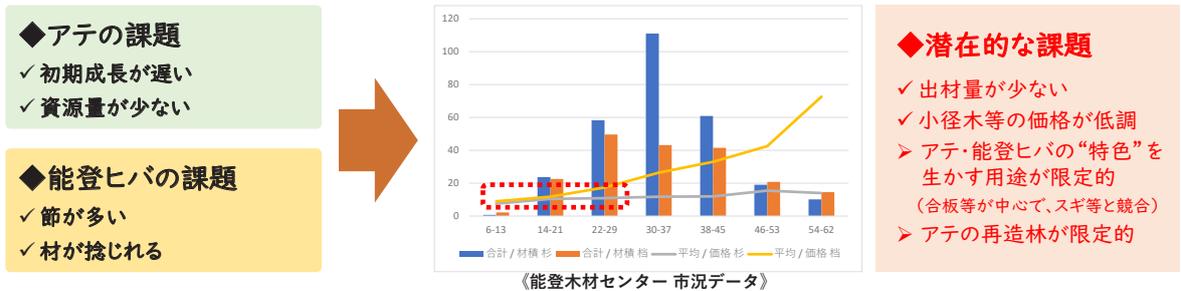
能登半島地震・奥能登豪雨の被害と課題 3

《能登半島地震・奥能登豪雨の被害》



- 山腹崩壊・土砂流出等(100箇所以上)、林道等被害(2,000箇所以上)、木材加工流通施設(30箇所以上)の被害
- 災害や生活インフラの回復の遅れ等による離職(森林組合では15名)や災害復旧対応で、出材量は災害前から半減

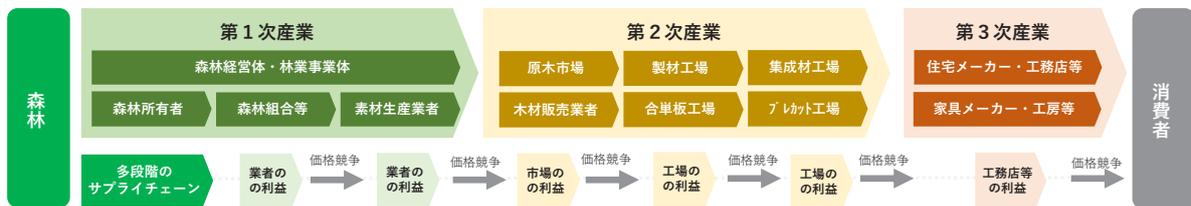
《アテ・能登ヒバの潜在的課題》



水平分業志向の「サプライチェーン」から、共創志向の「バリューチェーン」へ(イメージ) 4 ~原材料を供給する「林業・木材産業」から、多様なストーリーを育む「6次産業」へ~

- ✓ 多段階の水平分業型の「サプライチェーン」では、産地や担い手が持つストーリーを訴求しにくく、利益が農山漁村地域に還元させにくい
- ✓ 林業・木材産業とサプライヤーが連携して、消費者の多様なニーズに対応して、価値共創志向の「バリューチェーン」を生む「6次産業化」へ

■これまでの一般的な水平分業志向の「サプライチェーン」



■これからの価値共創志向の「バリューチェーン」



「アテ林業/能登ヒバ」の持続化に向けた円卓会議 開催

5

- アテ林業・能登ヒバに関わる奥能登地域の林業・製材業者・加工業者や行政関係者に、個別に実態調査を実施
- 個別の課題やニーズを踏まえて、奥能登地域の事業者間で連携して、「アテ林業」の持続化、「能登ヒバ」の高付加価値化、能登の関係人口の創出等に向かうために、円卓会議を開催。プラットフォームの枠組みについて意見交換し、認識の共有と共通した方向性を確認。

円卓会議(奥能登地域事業者) 構成員

分野	組織名	氏名(役職)
林業	能登森林組合	亀井 順一郎(代表理事組合長)
		山崎 浩伸(参事兼総務部長)
		古坊 勝利(事業部長・能登支所長・珠洲支所長)
		槻 繁治(総務担当課長)
	谷 昌俊(事業課長)	
製材業者	九内製材所	坂下 聡(代表取締役)
	中島木材工業	大月 博勝(代表取締役)
	山儀製材所	山 力(専務取締役)
	四住一也	四住 一也(代表)
加工業者	奥能登元気プロジェクト	奥田 和也(代表)
	加賀木材	小島 遼太郎(NOTOHIBAKARA 事業部 リーダー)
		大山 正樹(能登復興支援リーダー)
	能登森林組合 輪島支所	坂本 博秋(輪島支所兼木材加工所長)
	田中 亨英(木材加工所課長)	
行政	石川県 奥能登農林総合事務所 森林部	垣地 英範(林業振興課長)
		一二三 悠輔(林業振興課 林業指導専門員)
	輪島市 漆器商工課	細川 英邦(漆器産業振興室長)

円卓会議(奥能登地域事業者) 次第

- (1) 開会
能登森林組合 代表理事組合長 亀井 順一郎
- (2) 趣旨説明
関軒 明宏((公社)石川県木材産業振興協会)
- (3) 林業遺産「能登のアテ林業」の概要と今後の活用のねらい
石川県奥能登農林事務所
- (4) 奥能登地域事業者等の現況報告(各5分程度)
 - ① 林業 / 能登森林組合
 - ② 製材業者/九内製材所、中島木材工業、山儀製材所、四住一也
 - ③ 加工業者/奥能登元気プロジェクト、加賀木材、能登森林組合 木工所
 - ④ 漆器関係/輪島市 漆器商工課 漆器産業振興室
 - ⑤ その他
- (4) 概要説明・意見交換
 - ① アテ林業・能登ヒバを活かした創造的復興ビジョン
 - ② アテ林業・能登ヒバを活かした創造的復興サポーター
 - ③ アテ林業・能登ヒバを活かした創造的復興プラットフォームと支援の枠組みのあり方
 - ④ 各種展示会・セミナー等での情報発信の取組
 - ⑤ その他
- (5) 今後の展開について

「アテ林業・能登ヒバを活かした能登の創造的復興ビジョン」の策定

6

(序文)

能登半島に息づく、自然と共生し、自然の恵みを活かす生業・暮らし「能登の里山里海」は、世界農業遺産にも認定されるなど、国際的に高く評価されています。

また、能登半島の伝統産業である輪島塗の漆器の木地づくりのために、江戸時代中期から技術体系が確立されてきた「アテ林業・能登ヒバ」は、石川県の県木にも指定されるとともに、日本森林学会の「林業遺産」にも登録されています。

人口減少や、地震・豪雨災害という多くの困難を乗り越え、森林・林業・木材産業の再興と地域の活性化を実現するため、私たちは、地域の誇りであり、先人達が遺した資産であるアテ林業・能登ヒバを活かした能登の創造的復興ビジョンを宣言し、以下の5つの取り組みを実践します。

① 伝統を学び、引き継ぐ

- 「空中取り木」や「択伐林経営」など独自の技術を培ってきた林業遺産「能登のアテ林業」の継承
- 伝統的な生業・暮らしと自然が一体となった世界農業遺産「能登の里山里海」の継承

② 木の「個性」や「物語」を活かしたり・ブランディング

- 節や捻じれ、香りなど、能登ヒバの「個性」を活かしたデザインの製品開発
- アテ林業と歴史・文化、能登の復興をつなぐ「新たな物語(ストーリー)」の発信

③ 「森づくり」と「木づかい」の循環を生み出す

- 植林、間伐などの「森づくり」と一体で取り組む素材生産・販売の仕組み(バリューチェーン)構築
- 小径木、ろうし病被害木などの未利用資源の利活用、付加価値向上による林業の収益力強化

④ 能登に関わる「人の環(わ)」を拓げる

- 能登の現状を伝え、関係人口を増やすための情報発信、イベント等での広報活動
- 被災地での復興支援活動、木づかい・森づくり活動等を通じた交流の促進

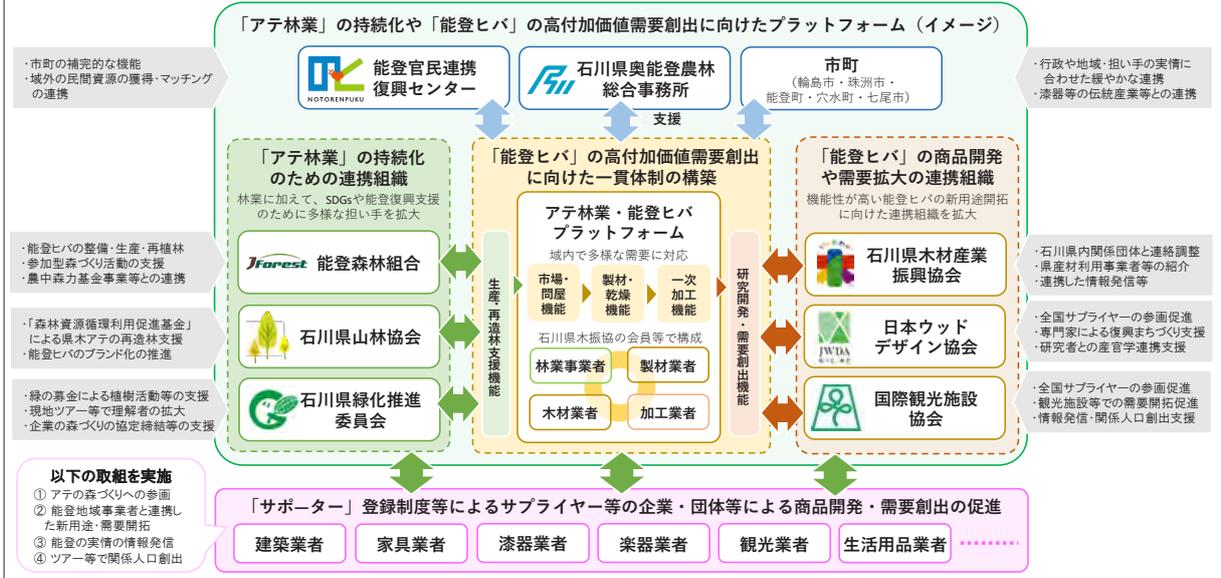
⑤ 地域に寄り添い、継続的に関わる

- 地域と共に考え、地域の主体性を尊重しながら、復興に向けた長い道のりを共に歩む



「アテ林業」の持続化・「能登ヒバ」の高付加価値化に向けたプラットフォーム構築 7

- ✓ 能登半島地震及び奥能登豪雨災害を経て、能登の林業・製材業・木材業は壊滅的な被害を受けており、多数の崩壊した山林や、被災した林道・製材所等の再建に向けては息の長い取組が求められる。
- ✓ さらに、能登ヒバは、強固で防腐性があり、機能性や快適性等の特色もがあるが、生産量が少なく、初期成長も遅く、捻じれ等の材質特性も有する。
 - 能登半島の林業・製材業・木材産業等の実情を鑑みて、各種施設の再建後という中長期的な視点で需要創出が求められる
 - 「アテ林業」の資源性や「能登ヒバ」の材質特性も鑑みて、その特性を活かしたり、課題解決に資する技術・商流開発等が求められる。
 - 上記を鑑みて、必要な課題解決に向けた支援の枠組みを自治体・関係団体等とも連携して構築しながら、業種・セクターを越えて地域一丸となり、新たなサプライヤー等の企業・団体の開拓・主体化に向けた取組を実施。



「アテ林業の持続化」に向けた、再造林基金メニューの創設 ～石川県山林協会（能登ヒバサポーター）との連携～

2025.3.7
石川県山林協会

「いしかわの木」の循環を応援する基金

いしかわの木

現状と課題

- ・人工林の7割は利用期を迎えているが主伐は低調で、所有者の収益と育林管理の課題から再造林は4割程度と少ない状況
- ・能登半島地震等により大きな被害を受けた森林・林業を再生するため、アテ林業の持続化を図る創造的復興が不可欠

そのためには関係者の協力が必要

※赤字はR7年度から実施 **本基金事業にR7から「アテ林業の持続化」を後押しするメニューを追加**

基金の概要

- ・**造成**⇒基金賛同者が、伐採後の再造林経費等の一部を助成する基金を造成（アテ林業サポート型をR7から追加）
県産材取扱量(20円/㎡)又は任意口数(1万円/口)を毎年納付、**但し、アテ林業サポート型の基金はアテ林業持続化メニュー(※下線)に原則充当** (R3～5年度末までの造成額:13,048千円 ※現在27者参加)
- ・**助成①**⇒基金賛同者が再造林した場合、森林所有者に対し植替協力金(12万円/ha)を交付、**アテは18万円/haに増額**
対象を国庫補助事業地に限定し、下列までの約定等を要件付けし所有者負担を軽減 (R3～5年度末までの交付額:9,888千円)
- ・**助成②**⇒アテ苗生産を促進するため、出荷本数に応じて奨励金を交付(空取り苗20円/本、コンテナ苗30円/本)
- ・**助成③**⇒基金に賛同した伐採事業者が造林事業者と連携し再造林に至った場合、植替促進費(6万円/ha)を交付
- ・**助成④**⇒森林整備を担う小規模な事業者の就業を支援するため、基金から定額を交付
 - ・森林経営管理法に基づく林業経営体(常勤労働者5名以下)、それ以外の法人事業者(常勤労働者3名以下等):6万円/年を交付
 - ・開業届済みの個人事業主(50歳未満)のうち、労災保険に加入し直近2ヶ月で30日以上林業に従事:3万円/年を交付

期待される効果

- ・伐採後の再造林や下刈り等の着実な実施により、人工林の適正な整備と保全が推進
- ・アテ林業の持続化を支援することにより、能登の創造的復興を後押し
- ・小規模な林業事業者やアテ苗生産者への支援を通じて、持続可能な森林経営を促進

※山林協会は賛同者やPR版を公表するとともに、基金の事業実績や管理状況を賛同者に半期毎に報告し透明性を担保

9

アテ林業・能登ヒバを活かした能登の創造的復興サポーター 募集のご案内
～能登の森、100年の未来を、ともに創りませんか～

山腹崩壊や林道・製材所等の損壊の災害を鑑み、中長期的な視点で「アテ林業」の持続化や「能登ヒバ」の高付加価値化に向けた「リニュー・チェーン」を共創したり、能登地域の情報発信や関係人口を創出していただける「アドバイザー」や企業・団体等を募集します。

サポーターの役割や、サポーター登録はこちら

①アテ林業の持続化 ②「能登ヒバ」の高付加価値化

③能登の復興の情報発信 ④能登の関係人口の創出

アテ林業・能登ヒバを活かした能登の創造的復興サポーター 募集のご案内
～能登の森、100年の未来を、ともに創りませんか～

アテ林業・能登ヒバを活かした能登の創造的復興プラットフォーム事務局
(公社)石川県木材産業振興協会・能登森林組合

〒920-0211 石川県金沢市藤2丁目118-5
お問い合わせフォーム: <https://atenet.jp/inquiry/>

10

「プラットフォーム」創設と異業種連携・段階的支援策による創造的復興に向けた取組の創出を促進

- ▶ (公社)石川県木材産業振興協会・能登森林組合が連携して、「アテ林業・能登ヒバを活かした創造的プラットフォーム」を設置
- ▶ 新たな異業種のサプライヤー等の「サポーター」としての参画と、「コーディネーター」等による奥能登地域の事業者・専門家とのマッチング、「プロジェクトチーム」の形成を経て、「リーディング・プロジェクト」の実施と「アドバイザー」による伴走支援により、「アテ林業」の持続化・「能登ヒバ」の高付加価値化に資するイノベティブな製品・技術・マーケティング手法等の開発等を促進し、創造的復興に向けた取組を促進

アテ林業・能登ヒバを活かした創造的復興に関心のあるサプライヤー・地域づくり組織等

能登の森林・林業・木材産業関係組織

森林組合

製材業者

木材業者

行政・団体等

協働・共創

・技術開発
・流通開発
・マーケティング手法開発
・共同での広報イベント等

コーディネーターによるマッチング

アテ林業・能登ヒバを活かした能登の創造的復興サポーター

建築業者

生活用品業者

家具/建材業者

観光関連業者

漆器業者

業界団体等

森林保全団体

地域づくり団体

アテ林業・能登ヒバを活かした創造的復興プラットフォーム **15団体・社が参画**

《プラットフォームによる協働のステップ》

「ポータルサイト」の開設・情報発信
(能登の実情/事業者等の想い・取組・課題を紹介)

「サポーター」の登録
(ビジョンに賛同した異業種のサプライヤー等の参画)

「コーディネーター」等によるマッチング・「プロジェクトチーム」の形成
(多様な資源を繋ぎイノベティブな協働取組を創出)

「リーディング・プロジェクト」の実施・「アドバイザー」による伴走支援
(新たな製品・技術・マーケティング手法等の開発)

アテ林業・能登ヒバを活かした能登の創造的復興を促進

アテ林業の持続化

能登ヒバの高付加価値化

能登の関係人口の創出

「アテ林業・能登ヒバを活かした能登の創造的復興フォーラム」の開催 (「能登ヒバサポーター」募集の本格開始・リーディングプロジェクトの創出)

11

✓ 石川県とも連携して、広く「能登ヒバサポーター」の募集を開始するために、「アテ林業・能登ヒバを活かした能登の創造的復興フォーラム」を開催
 ✓ 「第1期登録者」の発表機会(登録証授与式)を設定することで、中核組織の登録を促進するとともに、パブリシティを促進
 ✓ 「現地視察・意見交換会(円卓会議)」開催による対話を促進し、新たな協働による「リーディング・プロジェクト」の創出を促進

2025年2月 第1期サポーター登録

団体

石川県山林協会
 石川県森林組合連合会
 石川県木材青年会
 (公財)オイスカ
 (公社)国際観光施設協会
 (一社)全国木材組合連合会
 (一社)日本ウッドデザイン協会

企業

一龍木工(有)
 加賀木材(株)
 (株)佐藤岳利事務所
 (株)谷口
 (有)篤屋漆器店
 ナニックジャパン(株)
 フルタニランバー(株)
 フロントアジャパン(株)

2025年2月26・27日 「アテ林業・能登ヒバを活かした能登の創造的復興フォーラム」開催

「第1期登録者」の発表機会の設定による中核組織の登録促進

「現地視察・意見交換会(円卓会議)」等の開催による対話促進

会場・オンラインで100名以上が参加

15団体・社をサポーター登録

異業種のサプライヤー開拓に向けた「展示会」におけるPR ((公社)国際観光施設協会との連携)

12

✓ (公社)国際観光施設協会 能登半島被災地復興支援委員会と連携して、2024年8月に視察団を結成し、アテ林業・能登ヒバの現場視察
 ✓ 会員への支援を呼び掛けや地域との対話を経て、2025年2月の「国際ホテル・レストランショー」では、能登の創造的復興の光の1つとして「能登ヒバ」の設定し、「能登ヒバ製品」等の展示スペースを設定。今後、機関誌や関連雑誌での連載、協会会員等と協働したプロジェクト創出を支援。

2024年8月 「復興支援委員会 視察団」視察

会員への呼びかけ・地域との対話

2025年2月 「国際ホテル・レストランショー」展示等

機関誌等での会員・業界への呼びかけ、連携プロジェクトの検討

「アテ林業/能登ヒバ」を活かした創造的復興に向けた段階的・連続的な支援 ～課題解決に資する新たなイノベティブな協働取組の創出～

13

- ✓ 「イノベーション・エコシステム」の創出を目指して、段階的・連続的に奥能登地域の事業者を支援策を講じて、「プラットフォーム」のハブ機能を向上
- ✓ 事業者等も異業種との協働で、新たな製品・技術・マーケティング手法等を開発し、「アテ林業」の持続化・「能登ヒバ」の高付加価値化等を促進



「アテ林業/能登ヒバ」を活かした創造的復興に向けた「イノベーション・エコシステム」創出 ～課題解決に資する新たなイノベティブな協働取組の創出～

14



15

ATENET

ATE&NOTOHIBA
アテ・能登のヒバ

VISION
ビジョン

SUPPORTER
サポーター

NEWS&EVENTS
ニュース・イベント

CONTACT
お問い合わせ

アテ林業・能登ヒバを活かした能登の創造的復興

<https://ate-net.jp/>

①アテ林業の持続化 ②「能登ヒバ」の高付加価値化 ③能登の実情の情報発信 ④能登の関係人口の創出

サポーターの開拓と対話・協働を通して、奥能登地域に寄り添いながら、中長期的な視点から、「アテ林業」の持続化・「能登ヒバ」の高付加価値化・能登の関係人口の創出等に向けた取組を取り組んで参ります。

ぎふの木ネット協議会

ぎふの木ネット協議会会員によるデジタルとリアルな顔の見えるマーケティングの融合による岐阜県産材の普及促進

発表者 ぎふの木ネット協議会
事務局 鷲見 亜希子



ぎふの木ネット協議会とは

地元岐阜県産材の普及促進を目的に、2019年4月 岐阜県林政部の支援を得てヤマガタヤ産業が中心となって設立した協議会。（会員数：235団体）

「山を守る、人を守る、技術を守る」の三本柱で未来の子供たちのために、豊かな森林と環境、人の健康を守り、地方創生に寄与すること。ユーザーが安心できる木質空間の創出と、地域社会・地域産業基盤の整備発展、サステナブルで持続可能な木材資源循環の流通体制構築によるSDGsの目標達成を目指す団体である。



環境に対する取り組み

ENVIRONMENT

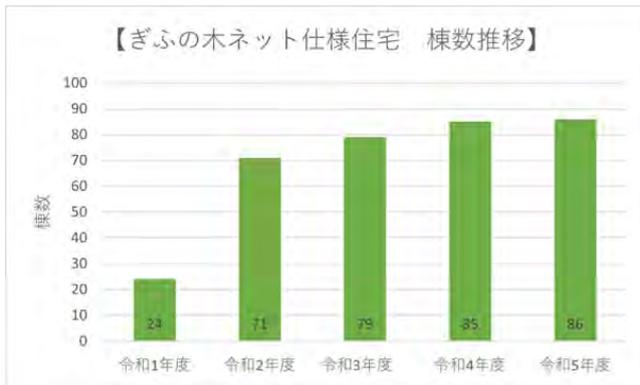
大切な地球を守るために、私たちにできることがあります。
本材は私たちの身近にあるサステナブルな産材です。
本材を積極的に使っていただくことで環境保全に貢献しましょう。



<ぎふの木ネット仕様>

ぎふの木ネット仕様というのは、構造材の60%以上に岐阜県産材を使用したもので、協議会が県産材活用促進のために定めた目標値をクリアしている住宅のことである。

協議会発足当初から、声をかけており、こちらの棟数も徐々に増えてきている。



協議会が提案するぎふの木ネットモデルの一例



<デジタル展示場「モクタウン」の設置>

2021年に、デジタル展示場「モクタウン」のサービスを開始した。これはWEB上に街をつくり、林業や製材業など住宅づくりに関わる各プレイヤーの情報を掲載する事で、一般ユーザーに下記のサービスを提供できるシステムである。



モクタウンの特徴

1. 住宅の中で木材の使われ方を伝える
2. 住宅以外にも「林業」「製材」「プレカット工場」など作り手の見える化をする。
3. WEB上での各種サービス

参加工務店のメッセージ動画、VRモデルハウス、WEB見学予約システムなど



本事業の目的

① 「デジタル展示場 モクタウン」を機能強化し、より一般ユーザーがひきつけられるコンテンツ発信に合わせて、リアルイベントを行うことにより、WEBとリアルの融合で、より私たちの思いをダイレクトに伝えていく活動を行う。

② 「県産材について知る」「県産材を扱っている業者について知る」「県産材製品について知る」といったWEBおよびリアルの体験を通じて、ユーザーに県産材を身近に感じてもらえることで、県産材関連製品の販売量を増やしていく。



本事業の内容

岐阜県産材・国産材を活用促進するための活動

1.モクタウンの活用促進

2.木の塗り壁Mokkun

3.イベント開催

【事業項目】

- ① デジタル展示場モクタウンを活用し、ユーザーに県産材を伝える活動
- ② 工務店と一般ユーザーにリアルの森林と木材流通を知ってもらうための見学会
- ③ 「顔の見える県産材つながるシート」の作成
- ④ 木の塗壁「Mokkun」の普及PR
- ⑤ プレミアム国産材家具の魅力発信



1.モクタウンの活用促進

コンセプトブック制作

BtoC向けにぎふの木ネット協議会のコンセプトブックを製作。
協議会の説明や活動報告・デジタル展示場モクタウンの紹介の他、コラムとして森の現状や木材の特徴についてもまとめた。
一般の方に活動内容や森・木材について知ってもらい、県産材活用推進につなげるための配布資料として考えている。



1.モクタウンの活用促進

コンセプト動画制作

家を建てる際に県産材を使いたいと思えるきっかけを与え、森や木が私達に与える影響と住宅に木を使うことが、森を守ることに繋がる。というコンセプトを持たせた1分程度の動画を制作。



NA:

木々は、いつも守り続けてきた。
何十、何百、何千年と。
土に根を張り、森を造り、
あるときは災害から、またある時は大気汚染から。
私たちを守っているのは、いつも彼らだった。

だから次は、あなたの番だ。

岐阜の木を使い、家を建てよう。
そしてまた木を植え、森を育てよう。
その循環が、私たちの暮らしを安全を、
健康を作っていくのだから。

地域の木を使うこと。
それは私たちの暮らしを守ること。

ぎふの木ネット協議会

1.モクタウンの活用促進

販促ツール

イベント時に掲示する森や林業、木材の特徴をまとめたパネルやイベント出展にあたり、販促グッズとして岐阜県産材ヒノキを使用した木製のマグネットを制作した。

1月11日（土）～2月2日（日）に行われたぎふ木遊館内での常設展で展示を行ったり、イベント時に配布を行った。



モクタウンの広報として地元放送局のCCNにてCMを15秒の放送した。



1.モクタウンの活用促進

つながるシート作成

『つながるシート』は、物件に関わった「製材所」「プレカット工場」「工務店」までも見える化したシート。各業者のメッセージに加え、木材使用量の見える化を行った。

該当物件は、岐阜県産材を60%以上活用した物件「ぎふの木ネット認定住宅」。

顔の見えるぎふ県産材 つながるシート



ぎふの木ネット認定住宅
日比野 様邸

この建物は
カーボンニュートラルに貢献しています。

木材使用量
13.12㎡

工務店

この家は、大分県で完成工場の建て方により、建築現場に活用された木材の活用が図られています。木材の活用により、CO2削減に貢献しています。また、木材の活用により、木材の活用が図られています。また、木材の活用により、木材の活用が図られています。

製材工場

製材工場では、建物などに使用する材料や廃材を、丸太の状態で回収して再利用しています。また、木材の活用により、木材の活用が図られています。また、木材の活用により、木材の活用が図られています。

プレカット工場

プレカット工場では、木材の活用により、木材の活用が図られています。また、木材の活用により、木材の活用が図られています。また、木材の活用により、木材の活用が図られています。

製材会社

製材会社では、木材の活用により、木材の活用が図られています。また、木材の活用により、木材の活用が図られています。また、木材の活用により、木材の活用が図られています。

株式会社大幸住宅建設

株式会社大幸住宅建設は、木材の活用により、木材の活用が図られています。また、木材の活用により、木材の活用が図られています。また、木材の活用により、木材の活用が図られています。

有限会社地蔵製材所

有限会社地蔵製材所は、木材の活用により、木材の活用が図られています。また、木材の活用により、木材の活用が図られています。また、木材の活用により、木材の活用が図られています。

岐阜県産材の特長

岐阜県産材は、木材の活用により、木材の活用が図られています。また、木材の活用により、木材の活用が図られています。また、木材の活用により、木材の活用が図られています。

ぎふの木ネット協議会について

ぎふの木ネット協議会は、木材の活用により、木材の活用が図られています。また、木材の活用により、木材の活用が図られています。また、木材の活用により、木材の活用が図られています。

1.モクタウンの活用促進

つながるシート作成

シートを通じて施主等に木材企業とのつながりを感じてもらえるようにすることで、自分たちが自然環境に貢献している意識を感じてもらう。

また、協議会会員には、県産材を使う事がPRになるようにフォーラム時に表彰をし、記念品なども授与することにより意識を高めてもらう。

今年は11/29のぎふの木ネット協議会主催のフォーラムにて会員に周知し、代表者に贈呈。

今後は、希望する企業に対しては協議会として随時発行をしていく予定である。



2.木の塗り壁Mokkun

木の塗り壁Mokkunとは

Mokkunは新しい材料でありながら今まで活用できていなかった端材を主原料にした木の塗り壁です。

木を伐って使い、そしてまた植えて育てることで、森林の循環が生まれ豊かな環境を守る事にもなります。「資源を最後まで使い切る」社会の課題にも挑戦している製品です。



2.木の塗り壁Mokkun

イベント出展 ぎふ木遊館

日時：1月18日（土）

場所：ぎふ木遊館

参加者：前半4組8名、後半6組13名 計21名

木の塗り壁MokkunのPRとしてMokkunを使った消臭ボール作りを開催。

消臭ボールを作る過程でヒノキの香りも感じてもらいながら、親さんからはMokkunに興味を持って性能や実際にどこに使用されているかなど話す機会があり、商品の良さや実際に使ってみてみたいとの声があった。



森林のたより2025年3月号掲載



2.木の塗り壁Mokkun

常設展 ぎふ木遊館

日時：1月11日（土）～2月2日（日）

場所：ぎふ木遊館

木の塗り壁Mokkunの認知度向上のためパンフレットの配布やパネルの掲示を約1か月間行った。



2.木の塗り壁Mokkun

動画作成

岐阜大学応用生物科学部 名誉教授 光永徹先生との共同研究を過去約10年間にわたり続けている。今回は今までの成果をまとめる目的で、ヒノキ、スギといった樹種の香りがかぐことで、私たちの心身にどのような影響を受けるのかを先生に語っていただき、それを動画にまとめた。



光永 徹 先生 岐阜大学 名誉教授
植物から人間の体に良い薬効成分を取り出し、その成分と生理機能を研究している。
最近の研究では、木材の香りによる生理生体・心理機能改善を目指すメディカルアロマセラピーの開発の研究を行っている。
特に好気性の高いヒノキ科木材香り成分が抗肥満・抗ストレス・抗不安さらにはアルツハイマー型認知症改善への効果を示すデータを構築している。



2.木の塗り壁Mokkun

動画作成

光永教授は今までにスギ、ヒノキ、ヒバの香りを抽出し、それらが

- ・ ストレスの緩和
- ・ 副交感神経、交感神経との関連
- ・ 作業効率の向上
- ・ 睡眠の質の向上

などを実証するための様々な実験を行い、その中でストレスや記憶障害の改善に関して成果を示す実験データを得ている。



木材学会の中でも、特に木材の香りについて研究をしている研究者は少ないということからも、今まで大学等の研究室で研究されてきた様々な木の香りの効能について、世の中に発信するため、動画撮影を行った。



2.木の塗り壁Mokkun

動画作成

すでにYoutubeには公開しており、今後HP内にも掲載をする予定である。

【動画タイトル】

- ①木の香りで痩せる？
- ②木の香りはストレスに関係するの？
- ③木の香りで記憶障害が改善する
- ④「αピネン」のカ ヒノキの香りの正体
- ⑤木の香りがもたらす影響という研究テーマ
- ⑥実証実験やってきました①
- ⑦実証実験やってきました②
- ⑧木の香りで作業効率は上がる
- ⑨木の香りで睡眠の質向上
- ⑩免疫力アップにつながる木の香り
- ⑪循環型の社会を目指して 適材適所に木を

Youtube再生リストURL：[光永先生が語る木のチカラ](#)



岐阜の木ネット協議会



3.イベント開催

林業勉強会

日時：10月2日（水）

場所：岐阜県高山市内

参加者：4社5名

工務店様向けに林業勉強会を開催。

実際に動いている現場で、伐倒した木を集める「集材作業」と、集材した木の枝を払い必要な長さにカットをする「造材作業」を行う見学。



3. イベント開催

林業勉強会

その他、「植林現場」「原木土場」も見学を行った。

参加工務店からも好評を得られた。



工務店 A

立木から製材品への流れについて理解を深めることができた。伐採、植樹後の現場見学についても、実際に見る、ということの大切さを改めて感じた。

工務店 B

山の作業現場を間近で見学をし、山の木の管理の仕方や、作業の大変さなどがわかった。



3. イベント開催

個別相談会

10月2日の林業勉強会を踏まえ、会員工務店に対して、林業と工務店が連携したPR活動のための個別相談会を開催した。

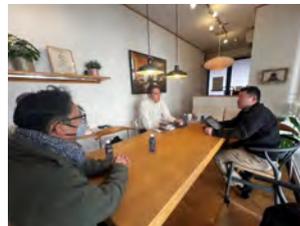
工務店 A

岐阜の木を使ってもらえるように、木がいいなと思わせるようなイベント。

- ・幼稚園児たちとその親を山へ連れていくようなイベント
- ・木を伐る現場と伐った木材が何になっているのかがイメージできるようなイベント

①A社

開催日：1月21日



②B社

開催日：1月28日



工務店 B

県産材活用につながるような働きかけを中心に行ってほしい。植林イベントなどのワークショップの他、工務店がブース出展できるような住宅フェアも希望する。



3. イベント開催

国産材家具の魅力発信イベント

【第一回】

日時：12月21日（金）
 場所：岐阜県瑞穂市（板蔵ファクトリー(株)内）
 参加者：10組13名

【第二回】

日時：2月8日（金）
 場所：岐阜県瑞穂市（板蔵ファクトリー(株)内）
 参加者：3組8名

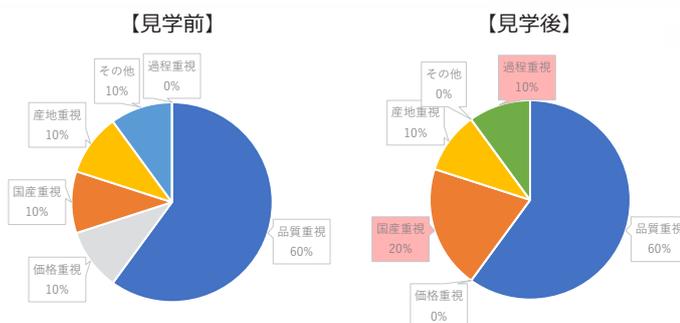
プレミアム家具のマーケットの開拓を目的として、その魅力を知ってもらうための、ショールームの見学と木工体験イベントを開催。



3. イベント開催

イベント

アンケートでは、見学前は安い木材であれば購入すると選択されていたのが、見学後には国産材や適切に管理されたサステナブルな木材を使いたいと記載があった。その他、体験後木製品を生活に取り入れたいとなったとの回答が80%であった。



品質重視：産地関係なく、よい品質・好きな柄を選んで使う
 価格重視：予算内の安い木材を使う
 国産重視：国産材であれば使う
 産地重視：岐阜産産材であれば使う
 その他：木材であればなんでも気にせず使う
 過程重視：適切に管理された森林からのサステナブルな木材であれば使う

Aさん

（高級家具・一枚板を見学に関して）
 こんな大きくなるまでの育つ年月、過程を想像することが楽しい、大切に使いたくなる

Bさん

（ワークショップに関して）
 職人が使う道具に触れて本格的な体験ができた



成果

- (1) 一般ユーザーの関心度
- (2) 各工務店の取り組みに対する意識向上
- (3) 木材の研究
- (4) 会員企業の連携



来年度以降の取組

① 通年

ユーザーに県産材を伝えるデジタル展示場「モクタウン」に関する活動

- ・モクタウンのコンテンツ制作

一般ユーザーに有益な情報を発信し、その中で県産材活用について、より興味を持ってもらえるようにする。



来年度以降の取組

① 通年

ユーザーに県産材を伝えるデジタル展示場「モクタウン」に関する活動

- ・モクタウン内でイベント計画

一般ユーザーへの認知を高め、
県産材活用を促進するために
イベントを継続的に開催。
このイベントに協力できる
会員の数を増やしていく。



来年度以降の取組

① 通年

ユーザーに県産材を伝えるデジタル展示場「モクタウン」に関する活動

- ・各木材関係事業への訪問および記事作り
- ・YoutubeやSNSでの情報発信
- ・モクタウンに関するパンフレット製作
- ・一般ユーザーへの周知に関する活動



来年度以降の取組

① 通年

木材研究

- ・岐阜大学との共同研究により得た知見を一般にも分かり易い形でまとめ公開する
- ・木材活用を環境面の問題だけでなく、自分や周りの家族の健康へのメリットととらえることで、より活用促進を図る。

岐阜大学名誉教授
光永先生が語る
 木のチカラ
 wood power

◎木の香りで睡眠の質向上



来年度以降の取組

② 年間計画

4月	木育 ワークショップ	県産材国産材の魅力発信
5月	木育 ワークショップ	県産材国産材の魅力発信
6月	木育 ワークショップ	県産材国産材の魅力発信
7月	フォーラム開催	県産材活用・サプライチェーン構築のための発信
8月	森のツアー	工務店と一般ユーザーにリアルな森林と木材流通を知ってもらうための見学会
9月	木育 ワークショップ	県産材国産材の魅力発信
10月	会員向け 森の勉強会	工務店と一般ユーザーにリアルな森林と木材流通を知ってもらうための見学会
11月	岐阜県 木育イベント	県産材国産材の魅力発信
12月	フォーラム開催	県産材活用・サプライチェーン構築のための発信
1月	木育 ワークショップ	県産材国産材の魅力発信
2月	木育 ワークショップ	県産材国産材の魅力発信
3月	木育 ワークショップ	県産材国産材の魅力発信





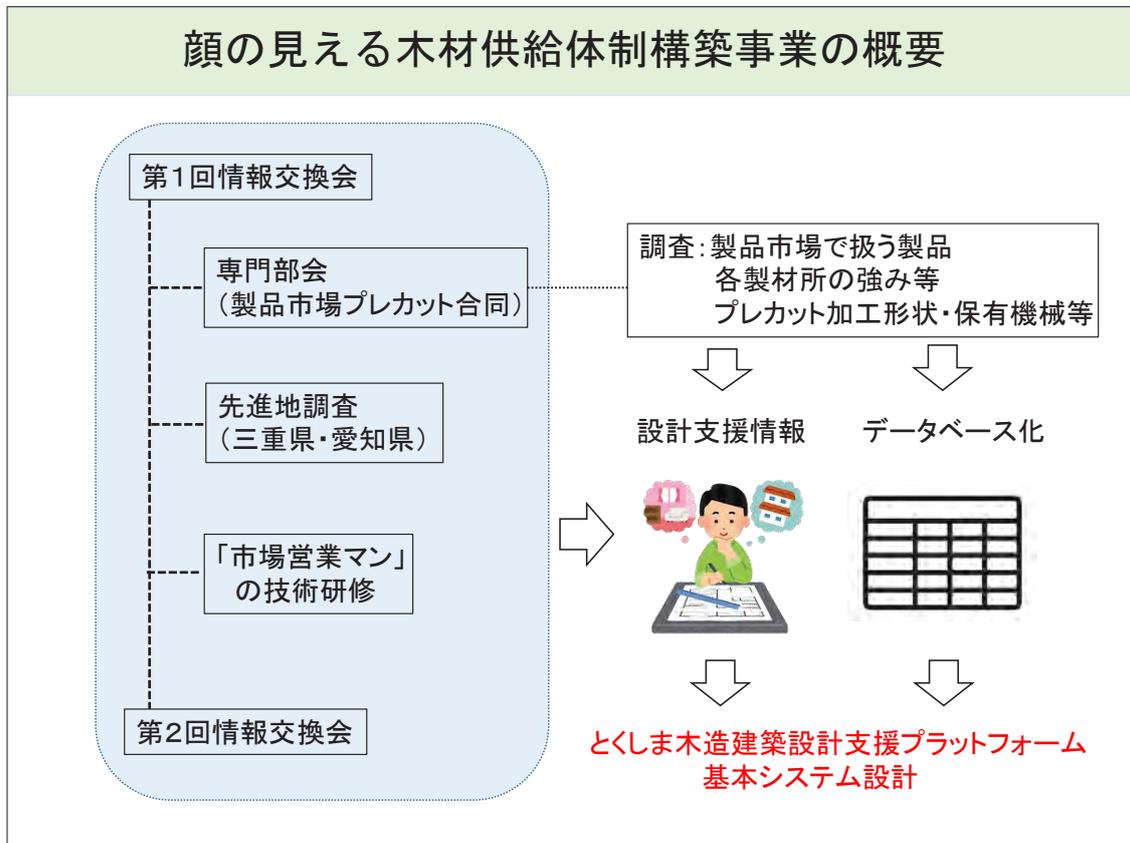
顔の見える木材供給体制構築事業の背景と目的

- 令和3年10月、「都市の木造化推進法」が制定され、公共部門のみならず、民間での木造化の動きが顕著となり、SDGsの環境意識も高まり、木材業界に追い風が吹いている一方、資材高騰等の煽りを受け戸建住宅が軒並み減少し、公共・非公共部門の非住宅で安定的な木材需要を確保する必要がある。
- 昨年度、弊会は「顔の見える木材供給体制構築事業」の採択を受け、中大規模木造建築物への木材安定供給について検討を重ねてきた。今年度は、設計者への情報提供や支援体制を目的に以下の項目に取り組む事とした。

- 川上から川下の「顔の見える関係性」を構築
- 製品市場、プレカットが中心となった情報発信
- 設計者が容易に木材情報を知り、積算等に活かせるシステムづくり



顔の見える木材供給体制構築事業の概要



事業の成果 1 (1) : 第1回情報交換会

- 1 日時 令和6年9月6日(金) 10:00~12:30
- 2 場所 徳島市 グランヴィリオホテル
- 3 内容

- (1) 挨拶 林野庁木材産業課
- (2) 「事業概要について」
 - ・ (一財) 日本木材総合情報センター
 - ・ 事務局から今年度事業計画
- (3) 「中・大規模木造建築の現状と課題」
 - ・ (公財) 徳島経済研究所
 - ・ UN建築研究所
- (4) 県内の建築事例
 - ・ (内野設計、環境デザインワークス)
- (5) 意見交換 (主な意見)



供給者側の役割として

- ・ 早期に設計者と材料供給者が情報共有し、設計に活かすことが必要である。
- ・ 納期について、遅いと使ってもらえない。
- ・ ストックをどこで誰がするか。

発注者側の役割として

- ・ 民間商業施設にどうアプローチするか。
- ・ 設計者が山に寄り添う必要。

オブザーバーからは「山を知らない設計者は山を殺す」という意見が出された。

事業の成果 1 (2) : 第2回情報交換会

- 1 日時 令和7年2月25日(火) 10:00~12:00
- 2 場所 徳島市 グランヴィリオホテル
- 3 内容

- (1) 「事業概要について」事務局
- (2) 「県産材でつくる中大規模木造の設計支援」 UN建築研究所
- (3) 「意見交換」(主な意見)

プラットフォームをつくるに当たって、以下の意見が出された。

- ・プラットフォームを顔の見える関係に。
すぐ電話でき誰かにたどり着けるよう。
- ・プラットフォームは初めての方へ情報を出すのに有効。
- ・視覚的に、またどういう建物に規制がかかるのか、どの条件をクリアすれば良いのかなど整理すべき。
- ・CO2貯蔵など、木材を使う意義も出したい。
- ・県内のJAS工場、どういう材があり納期がどれくらいか。
- ・木造の良いところも必要だが、失敗例を繰り返さない様な情報提供を検討すべき。



事業の成果 2 : 先進地視察



豊田市博物館：坂茂氏設計。地上4階、延面積7800m²、平面形状L字型で木造共用部分「えんにち空間」を南北に渡す。国内初のZEB Ready認証。木造部分は地元産木材を使用しCO₂排出抑制に貢献。

視察のポイント：

- ・公共建築での利用は少ない。「木造」となると途端にハードルが上がる。
- ・構造材に拘らず、市民の目に触れる場所で使ってもらう。
- ・公共事業でアピールして、民間工事で量を使ってもらえるように。



レーモンドホール：1951年に三重県立大学の図書館として建築。棟木・母屋・垂木・火打梁など丸太材で構成された架構をそのまま表して表現。軒出も深くしている。1969年、現在の場所に移転され、2020国登録有形文化財に登録され、2013年保存改修工事がされ、現在に至る。

視察のポイント：

- ・三重大の淵上氏の「地域材を使うこと環境・地域経済への効果を定量化し見える化する」試みは、地域材を選択する際のツールになりそう。
- ・県産材を県内で加工する場合の生産誘発倍率は 1.74倍。
- ・県外産材を県外で加工する場合は 0.2倍。



ウッドピア松坂：全体41haのうち工業敷地が23.4ha。2001年4月にオープン。当時、市内に4市場が分散しており、集約化を模索。進出した当時はライバルであったが、23年経過し関係性は良好である。原木丸太は三重のほか、和歌山、奈良など広範囲から集まる。

視察のポイント：

- ・中小製材が171工場あり全国2位。大径材でも手入れされていれば価格は上がるという話には希望もてる。

事業の成果 3 : 専門部会 (製品市場、プレカット合同)

- 1 日時 令和6年10月11日(金)13:30~15:30
- 2 場所 徳島製材団地協同組合 青修館
- 3 対象 製品市場、プレカット事業者、行政
- 4 内容

- (1)顔の見える木材供給体制構築事業の概要
事務局
- (2)愛知、三重視察報告
事務局
- (3)中大規模木造建築の設計支援について
(株)UN建築研究所
- (4)主な意見

- ・見積依頼をする時点で寸法等のミスマッチが起こる
- ・県産材の規格寸法を設計者にわかっていただきたい。
- ・確認申請後は構造的な変更が難しい。
早めにプレカットと打ち合わせ出来れば良い。
- ・プレカット工場で出来る事と出来ない事があるが、
相互に連携し補完する必要がある。



事業の成果 4 : 技術向上研修会

- 1 と き 令和7年1月29日(水) 13:00~17:00
- 2 と ころ (株)徳島中央木材市場
- 3 対 象 製品市場、プレカット事業者、行政
- 4 内 容

- (1)基調講演: 「最近の木造建築に対応した木材性能についてー特に中大規模木造の構造材ー」
講師: エヌ・イー・コンサルタント 宮林氏
- (2)意見交換

ドット・コーポレーション 平野氏
徳島木材市場連盟 玉置氏、濱口氏

【内容】

- ・集成材と製材をどう組み合わせるか。
- ・設計者と事例を共有する機会を設ける必要
- ・製材は納期が課題、長さ・納期などを整理すべき。
- ・市場としてグレーディング材をどう売るか。

- (3)技術研修: 木材のヤング係数の測定等
徳島県農 上席研究員 橋本氏

【内容】

製品市場で中大規模木造建築用の材料
(目視等級JASのグレーディング材)を取扱う事を想定。



事業の成果5：製品・プレカット工場調査

本事業のうち各種調査として

- ・製品市場で扱う製品等の種類
- ・各製材所の強み
- ・プレカット加工できる製品寸法・形状・保有機械等

➡ データベース化

調査票をもとに
ヒアリングを実施



大断面加工機/ 宮川工機HPより

中大規模木造建築対応プレカット調査表

会社名	TEL		FAX		
担当者名					
加工設備	柱加工機・メーカー				
	構架材加工機・メーカー				
	羽柄材加工機・メーカー				
	合板加工機・メーカー				
	その他特殊加工機・メーカー				
プレカット加工 可能範囲・工法	柱加工範囲(mm)	断面(最小-最大)	長さ(最小-最大)	平角柱対応	可・不可
	平角柱				
	構架材加工範囲(mm)	中(最小-最大)	成(最小-最大)	長さ(最小-最大)	
	羽柄材加工範囲(mm)				
	合板加工機加工範囲(mm)				
	対応倉物工法				
	トラス加工				
	CAD・構造計算	対応範囲	基準法製量・N値計算	可・不可	性能表示製量計算
	計算ソフト名称・メーカー			許容応力度計算	可・不可
中大規模木造加工実績					
アピール					

県産材の製品情報

県産材部材リスト【構造用製材】

材種	用途	幅(mm)	高(mm)	長(mm)	在庫区分	調達期間 ★=1か月	機械等級 区分JAS	その他、特記事項
県産スギ	正角	大引き・母屋・束・バタ角	90×90	3 4	節有	一般材・★		
	正角	柱(通し柱)・土台	120×120 105×105	3 4 6	節有	一般材・★		
	正割	垂木・根太・野縁	38×38	3 4	節有	一般材・★		
			45×45	3 4	節有	一般材・★		
	平割	間柱・筋交	30×90	3 4	節有	一般材・★		
			30×105	3 4	節有	一般材・★		
			30×120	3 4	節有	一般材・★		
			45×105	3 4	節有	一般材・★		
			40×120	3 4	節有	一般材・★		
			16×42	3 4	節有	一般材・★		
		胴縁・垂木・根太	16×45	3 4	節有	一般材・★		
			18×45	3 4	節有	一般材・★		
			20×36	3 4	節有	一般材・★		
			30×60	3 4	節有	一般材・★		
	平角	梁・桁	120・150・180	3 4	節有	一般材・★		
			210・240・270 300～400	5	節有	一般材・★		あらかし部分は 上小・無節対応可
	板	下地材	8～10	90・105・120 135・150	2 4	節有	一般材・★	
			野地板	12	60・75・90 105・120・135 150・180	2 4	節有	一般材・★
		貫	15・18	90・105	4	節有	一般材・★	
		野地板・座板	15	150・180・240	2	節有	一般材・★	
座板		15	210・240	2	節有	一般材・★		
足場板		36	200・240	2 4	節有	一般材・★		
県産ヒノキ	正角	大引き・母屋・束・バタ角	90×90	3 4	節有	一般材・★		
	正角	柱(通し柱)・土台	120×120 105×105	3 4 6	節有	一般材・★		
	正割	垂木・根太・野縁	38×38	3 4	節有	一般材・★		
			45×45	3 4	節有	一般材・★		

プレカット県内6社の特徴

プレカット加工情報等一覧 設計支援プラットフォームの掲載案

特徴

	長さ	幅	高さ	
プレカット加工可能範囲	柱・束	850~12500	90~300	90~300
	平角柱	対応可		
	横架材	600~12500	90~300	90~550
金物工法	Dボルト(手加工)			
トラス加工	対応可 登梁:機械加工、方杖:手加工			
アビール等	柱長ホゾ120mmまで標準対応、板倉工法の溝:機械加工可。 柱・梁あらかしの建物の実績多数			

		一般的な住宅用プレカット加工機	徳島県内6社のプレカット加工機
柱・束	長さ	6m	6.5m、9m、10m、12.5m
	断面	150×150	150×150、180×180、300×300
横架材	長さ	6m	8m、10m、12.5m
	断面	120×450	150×450、180×600、300×550

	長さ	幅	高さ	
プレカット加工可能範囲	柱・束	200~9000	90~180	90~180
	平角柱	90×90~120、105×105~150、120×120~165、150×150~180		
	横架材	720~10000	90~180	90~600
	羽柄材	300~6000	27~240	12~150
	合板	1820~3030	600~1220	6~35
特殊加工機	全自動多種・大断面加工機			
金物工法	テックワンP3(タツミ) 横架材の仕口 中間加工対応			
トラス加工	対応可 JIS A 3301トラスは機械加工			
アビール等	機械加工できないものは、手加工で対応可能			

一般的な住宅用加工機に比べて、最大可能長さや断面寸法が大きい。



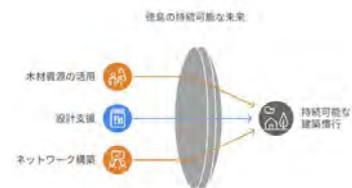
製品市場・プレカット工場の調査結果

製品市場が扱う製品について寸法・品質・納期等を調査するとともに、プレカット6工場にヒヤリングを実施。加工できる製品寸法や形状等のほか、保有する機械等の調査を行った。調査で明らかになった事項は以下の通り。

- ・ 中大規模木造では、同じCADを持つ工場が連携して加工することがある。
- ・ プレカット出来ない複雑な箇所を得意（手加工）している工場がある。
- ・ 早い段階で設計者と打合せできれば、加工できることが多くなる。
 - ※設計段階でチェック漏れがある場合がある。
 - CAD入力すると、NGが出て修正でき正確な木拾いもできる。
- ・ 確認申請がおりた後では変更が難しい。
- ・ 施工、意匠設計、構造設計など関係者が多く、図面承認に時間がかかる。
- ・ 特記仕様書で、無垢材にSD15をチェックすることが多い。
 - SD15は難しく理解してもらうのに手間取る。
- ・ 県産材のストックがあるとかかなり使いやすくなる。

事業の成果 5 :

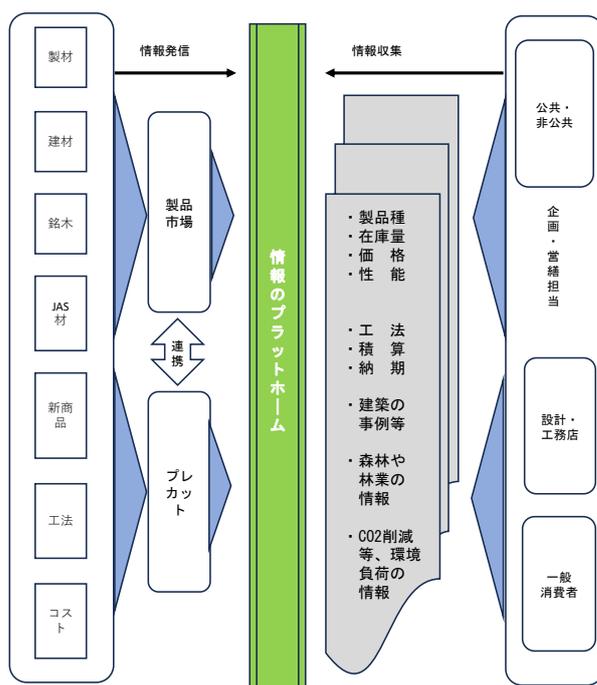
とくしま木造建築設計支援プラットフォーム（仮称）基本システム設計



プラットフォーム基本システム設計を行ない、その目的を以下の通りとした。

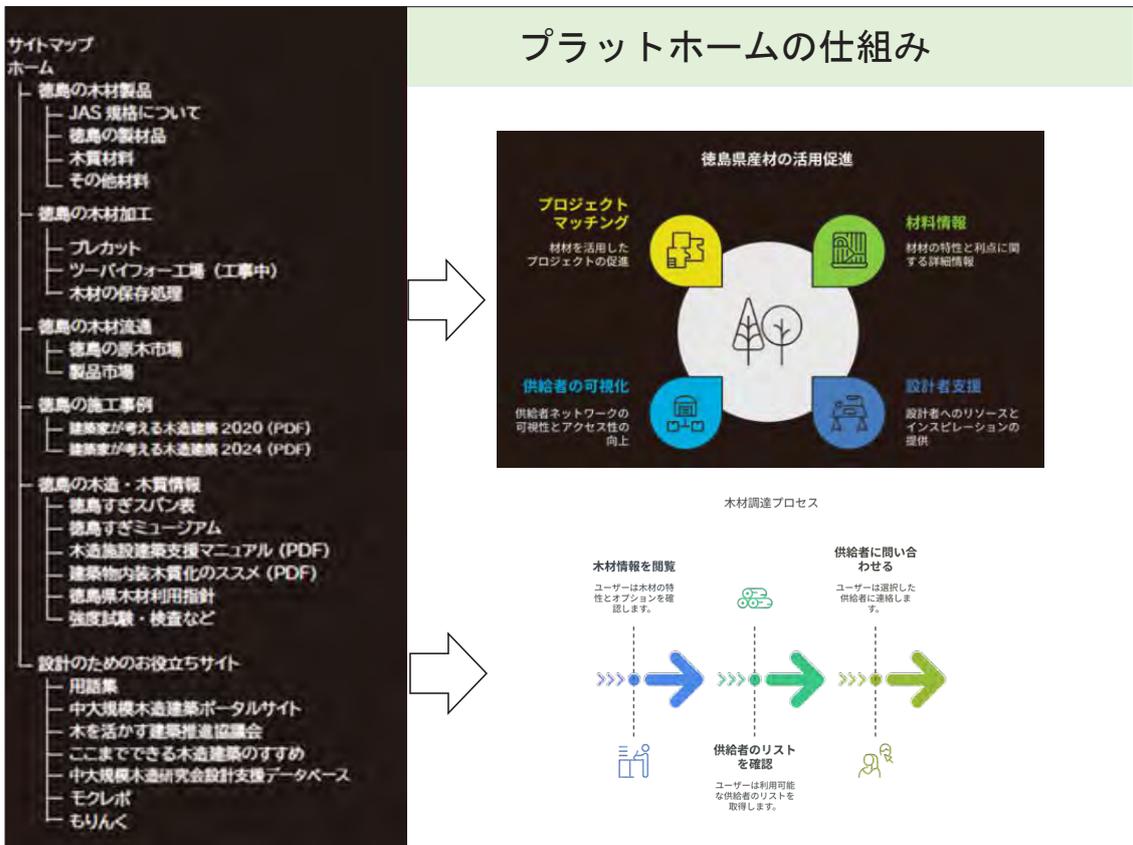
- イ 設計者（建築家・施工業者など）と木材供給者（製材業者・流通業者など）が情報を共有し直接つながることができる仕組みを提供。
- ロ 徳島県の木材資源を活用した持続可能な建築を推進できるよう貢献。

とくしま木造建築設計支援プラットフォームの考え方



【考え方】

- ・ 供給側と需要側のミスマッチを防ぐ。
- ・ 情報の「ワンストップ」を目指す。
- ・ 木造建築を考える設計者が、ココをまず確認するようなサイトに。
- ・ 設計者が相談しやすい窓口に。
- ・ 供給側が連携できる仕組み。
- ・ 木造建築が環境に貢献できること
木造建築が地域経済に貢献できること
などを「見える化」
- ・ 木造建築の情報（工法、工期、コスト等）が蓄積できること。
- ・ 建築事例を盛り込むこと。



製品情報・建築事例・技術情報

徳島の木材製品

徳島県は、森林資源が豊富で、他県と比較しても多様な木材加工場が集積し、幅広い種類の製品が調達可能となっています。こうした様々な製品を知っていただき、多方面での活用をご検討ください。



豊富な森林資源



加工を待つスギ丸太



製材品 (板類)



スギ合板



スギMDF

徳島の木造建築事例・技術情報

木造建築を考える際に、参考となる冊子をご紹介します。いずれも徳島の行政や建築家の方々と作成したものです。



徳島の建築家が考える
木造建築
2020



徳島の建築家が考える
木造建築
2024



TOKUSHIMA SUGI
SPAN LISTS
徳島すぎ
スパン表
2024

建築物内装木質化のススメ
(2023. 3)



木造施設
建築支援
マニュアル
(2023. 3)

徳島の製品流通



このほかホームセンター、DIYショップなどで製品を販売している。

製品情報 設計支援プラットフォーム掲載案（一例）

県産材部品リスト【構造用製材】

材種	用途	幅(mm)	高(mm)	長(mm)	在庫区分	調達期間 ★=1週間	機械等級 区分IAS	その他、特記事項			
県産スギ	正角	大引き・柱・束・バタ角	90×90	3	4	期有	一般材・★				
	正角	柱（通し柱）・土台	120×120 105×105	3	4	期有	一般材・★				
	正割	垂木・柱太・野縁	38×38 45×45	3	4	期有	一般材・★				
	平割	間柱・筋交	30×90	3	4	期有	一般材・★				
			30×105	3	4	期有	一般材・★				
			30×120	3	4	期有	一般材・★				
			45×105	3	4	期有	一般材・★				
		割縁・垂木・柱太	40×120	3	4	期有	一般材・★				
			16×42	3	4	期有	一般材・★				
			16×45	3	4	期有	一般材・★				
			18×45	3	4	期有	一般材・★				
	板	下地材	8-10	90・105・120 135・150	2	4	期有	一般材・★			
			野縁板	12	60・75・90 105・120・135 150・180	2	4	期有	一般材・★		
				15	90・105	2	4	期有	一般材・★		
		足場板	15	150・180・240	2	4	期有	一般材・★			
			15	210・240	2	4	期有	一般材・★			
			26	200・240	2	4	期有	一般材・★			
			梁・桁	105・120	120・150・180 210・240・270 300～400	3	4	期有	一般材・★		
				平角	105・120	120・150・180 210・240・270 300～400	3	4	期有	一般材・★	
					105・120	120・150・180 210・240・270 300～400	3	4	期有	一般材・★	あらかし部分は 上小・無節対応可
県産ヒノキ		正角	大引き・柱・束・バタ角	90×90	3	4	期有	一般材・★			
		正角	柱（通し柱）・土台	120×120 105×105	3	4	期有	一般材・★			
		正割	垂木・柱太・野縁	38×38 45×45	3	4	期有	一般材・★			

樹種別 構造材、造作材等

プレカット加工情報等一覧 設計支援プラットフォームの掲載案（一例）

特徴

		長さ	幅	高さ
プレカット加工可能範囲	柱・束	850～12500	90～300	90～300
	平角柱	対応可		
	横架材	600～12500	90～300	90～550
金物工法	Dボルト(手加工)			
トラス加工	対応可 登梁機械加工、方杖手加工			
アビール等	柱長ホゾ120mmまで標準対応、板倉工法の溝：機械加工可。 柱・梁あらかしの建物の実績多数			

		長さ	幅	高さ
プレカット加工可能範囲	柱・束	200～9000	90～180	90～180
	平角柱	90×90～120、105×105～150、120×120～165、150×150～180		
	横架材	720～10000	90～180	90～600
	羽柄材	300～6000	27～240	12～150
	合板	1820～3030	600～1220	6～35
特殊加工機	全自動多種・大断面加工機			
金物工法	テックファンP3(タツミ)横架材の仕口 中間加工対応			
トラス加工	対応可 JIS A 3301トラスは機械加工			
アビール等	機械加工できないものは、手加工で対応可能			

		一般的な住宅用プレカット加工機	徳島県内6社のプレカット加工機
柱・束	長さ	6m	6.5m、9m、10m、12.5m
	断面	150×150	150×150、180×180、300×300
横架材	長さ	6m	8m、10m、12.5m
	断面	120×450	150×450、180×600、300×550

一般的な住宅用加工機に比べて、最大可能長さや断面寸法が大きい。



顔の見える木材供給体制構築事業により得られた効果

【川上から川下の「顔の見える関係性」を構築】

- ・ 情報交換会の開催で供給側と需要者側の**意思疎通**が図られた。
- ・ 交わされた意見はプラットフォームに反映することとした。

【製品市場、プレカットが中心となった情報発信】

- ・ 双方が顔を合わせて意見を交わすのは恐らく初めての事。**連携**が期待できる。
- ・ 技術研修会は、市場営業マンが建築基準法改正の内容をつぶさに知ることによって**新たな営業展開**の可能性がある。
- ・ プレカット工場調査では、**徳島の強み**になるものである。

【設計者が容易に木材情報を知り、積算等に活かせるシステムづくり】

- ・ プラットフォームの開設で、設計者が県産材の規格寸法を知り**積算等**がスムーズに出来る。
- ・ 木材供給者においても**設計者との接点**が増え、**新規取引の機会**が拡大することを期待する。

今後の課題と次年度以降の計画

- ・ 「とくしま木造建築設計支援プラットフォーム（仮称）」の基本システム設計をもとに徳島県事業を活用して、弊会ホームページに新たに「プラットフォーム」を作成する予定。
- ・ 今後、県、市町村、企業の方々など発注者にこのプラットフォームを知って頂くとともに情報が随時アップデートしていく様、SCM のメンバーのほか建築関連団体、県林務・建築部門に協力要請することとしたい。
- ・ また、今後、情報交換会等で出された以下の課題について、解決を図っていききたい。
 - イ 中小製材の供給力向上と製品市場のストック機能等の強化
 - ロ 県産材の品質（寸法精度・乾燥等）向上・納期等、ニーズへの対応
 - ハ 建築基準法改正に伴いニーズの高まる製材JAS供給体制の強化
 - ニ 中大規模木造建築をターゲットとした県産材の商品開発（構造材、内装材）
- ・ 委員から「木材を使うことだけで、環境に良いと言ってきた時期は終わった、という共通認識がこのSCMでできたと思う。」という発言があったように、全国的に課題となっている再生林問題を川上だけの問題にせず、「グリーンウォッシュ（見せかけの環境保護）」と言われないよう、**持続的な森林経営**を考えていきたい。



令和6年度 森林を活かす都市の木造化等促進総合対策事業のうち
顔の見える木材供給体制構築事業
実施報告書

令和7年3月発行

発行 一般財団法人 日本木材総合情報センター
一般社団法人 全日本木材市場連盟

編集・デザイン 一般社団法人 全国林業改良普及協会

